

---

---

# 水俣市都市計画マスタープラン改定

## 市民アンケート集計結果

---

---

令和5年6月

水 俣 市  
日本工営都市空間株式会社

## 調査の概要

項目	内容
調査目的	計画の改定にあたり、市民の意見を十分に反映することを目指し、現在のまちの課題や方向性などについて市民の意見を収集する。
調査方法	郵送による配布、郵送又はwebによる回収
調査対象	水俣市内に在住する2004年4月1日以前に生まれた方1,000人
対象者の抽出方法	無作為抽出
調査実施期間	郵送：令和5年3月7日(火)～令和5年3月21日(火) web：令和5年3月7日(火)～令和5年3月26日(日)
回答数(回答率)	回答数：491 (回答率：49.1%)
調査内容	(1)回答者の属性について (2)これまでの水俣市(全体)の「まちづくり」について (3)日常生活について (4)将来(おおむね20年後)の水俣市全体のことについて
調査の設計	I. 全体集計 水俣市民のまちづくりに対する意見を収集・集計  II. 居住地別分析 居住地毎に生活の現状及び必要な機能を抽出・分析  III. 年代別分析 年代毎に生活の現状及び必要な機能を抽出・分析

## <目次>

### I.全体集計

1. あなたご自身のことについて		
問1	性別について	P1
問2	年齢について	P1
問3	世帯構成について	P2
問4	お住まいの地域について	P3
問5	お住まいの年数について	P4
問6	以前住んでいた場所について	P5
2. これまでの水俣市(全体)の「まちづくり」について		
問7	水俣市都市計画マスタープランに掲げた目指すべき生活像について	P7
3. 日常生活について		
問8	生活行動について	P12
問9	通勤・通学について	P15
問10	あれば良いと思う施設について	P18
4. 将来(おおむね20年後)の水俣市全体のことについて		
問11	将来の水俣市について	P20
問12	特に重要だと思うものについて	P21
問13	重点的に活用したり、整備すべき場所・資源について	P26
問14	水俣市のまちづくりに対する思いやご意見などがありましたら、ご記入ください。	P27

### II.居住地別分析

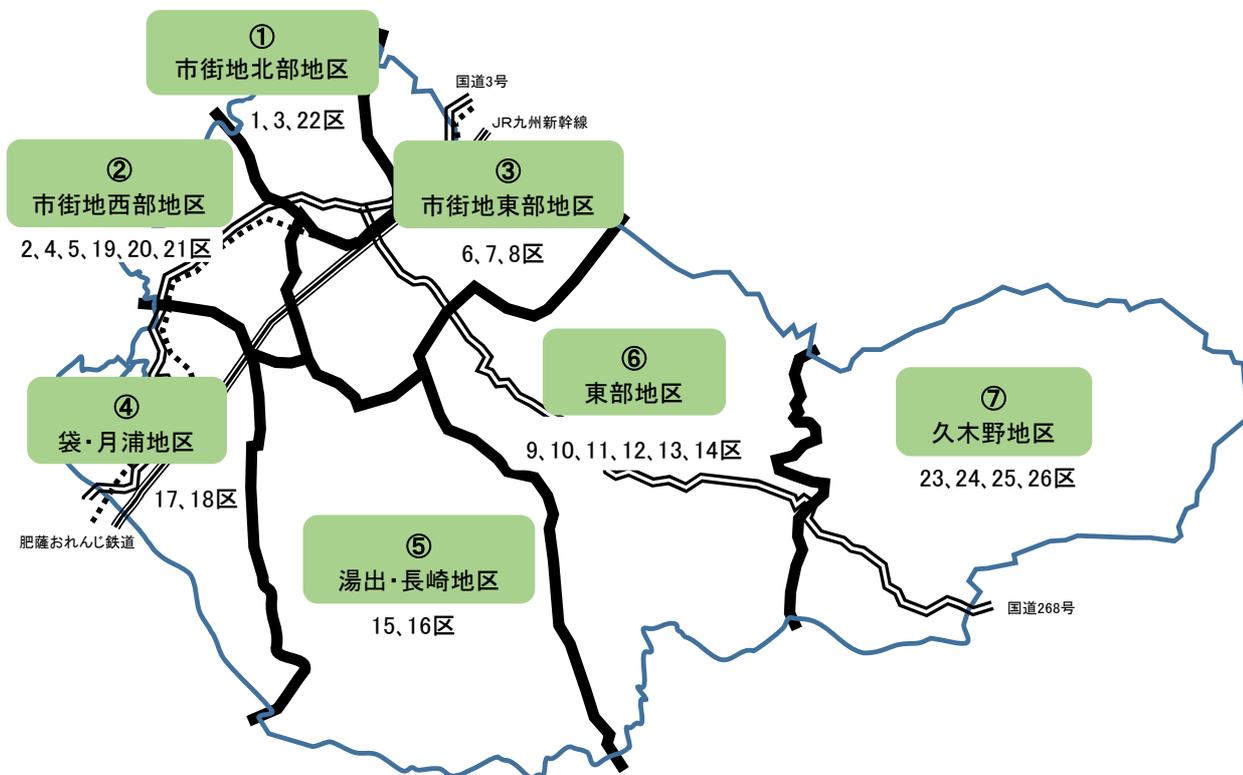
2. これまでの水俣市(全体)の「まちづくり」について		
問7	水俣市都市計画マスタープランに掲げた目指すべき生活像について	P30
3. 日常生活について		
問8	生活行動について	P32
問9	通勤・通学について	P44
4. 将来(おおむね20年後)の水俣市全体のことについて		
問11	将来の水俣市について	P46
問12	特に重要だと思うものについて	P48
問13	重点的に活用したり、整備すべき場所・資源について	P57

### Ⅲ.年代別分析

2. これまでの水俣市(全体)の「まちづくり」について		
問7	水俣市都市計画マスタープランに掲げた目指すべき生活像について	P59
3. 日常生活について		
問8	生活行動について	P61
問9	通勤・通学について	P73
4. 将来(おおむね20年後)の水俣市全体のことについて		
問11	将来の水俣市について	P75
問12	特に重要だと思うものについて	P77
問13	重点的に活用したり、整備すべき場所・資源について	P86

※アンケート中の居住地、所在地等の地区割は、下図のとおり

#### 【地区割図】

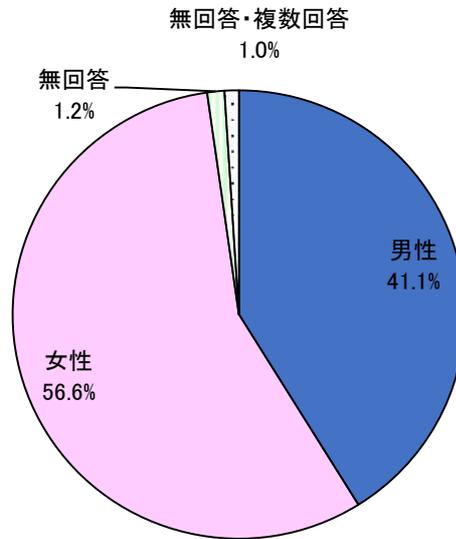


# I.全体集計

# 1. はじめに、あなたご自身のことについてお尋ねします。

## 問1 あなたの性別を教えてください

N=491

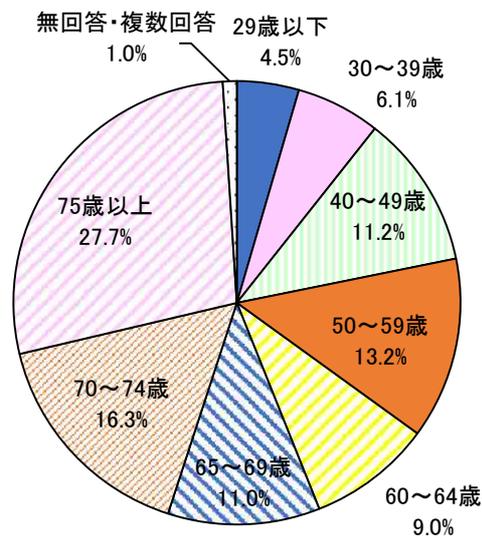


### <分析>

○「男性」が41.1%、「女性」が56.6%となっており女性が過半数を占めている。

## 問2 あなたの年齢はおいくつですか。

N=491



### <分析>

○「75歳以上」が最も多く(27.7%)、次いで「70~74歳」(16.3%)、「50~59歳」(13.2%)の順となっている。

### 問3 世帯構成の内訳を教えてください。

#### ①年代

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. 65歳以上を1人以上含む世帯	328	66.8%
2. 40歳以上65歳未満を1人以上含む世帯	250	50.9%
3. 18歳以上40歳未満を1人以上含む世帯	122	24.8%
4. 小学生以上18歳未満(高校生含む)を1人以上含む世帯	51	10.4%
5. 未就学児を1人以上含む世帯	19	3.9%

#### <分析>

- 「65歳以上を1人以上含む世帯」が最も多く(66.8%)、全体の3分の2を占めている。
- 一方で「小学生以上18歳未満(高校生を含む)を1人以上含む世帯」(10.4%)と、「未就学児を1人以上含む世帯」(3.9%)が低くなっている。

#### ②特定の世帯構成

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. 65歳以上のみの世帯	185	37.7%
2. 65歳以上の単身世帯	59	12.0%
3. 40歳以上のみの世帯	323	65.8%
4. 18歳未満の子供を含む世帯	64	13.0%

#### <分析>

- 「40歳以上のみの世帯」が全体の半分以上を占めており(65.8%)、そのうち「65歳以上のみの世帯」が全体の4割弱となっている。
- 一方で「65歳以上の単身世帯」(12.0%)と、「18歳未満の子供を含む世帯」(13.0%)がほぼ同じ割合となっている。

問4 あなたのお住まいの地域は何区ですか。  
(区が分からない場合は、別紙4 ページをご覧ください。) )

①行政区別

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. 1区	72	14.7%
2. 2区	16	3.3%
3. 3区	21	4.3%
4. 4区	44	9.0%
5. 5区	32	6.5%
6. 6区	15	3.1%
7. 7区	13	2.6%
8. 8区	9	1.8%
9. 9区	10	2.0%
10. 10区	1	0.2%
11. 11区	5	1.0%
12. 12区	8	1.6%
13. 13区	3	0.6%
14. 14区	6	1.2%
15. 15区	11	2.2%
16. 16区	6	1.2%
17. 17区	36	7.3%
18. 18区	30	6.1%
19. 19区	18	3.7%
20. 20区	13	2.6%
21. 21区	43	8.8%
22. 22区	53	10.8%
23. 23区	10	2.0%
24. 24区	3	0.6%
25. 25区	1	0.2%
26. 26区	7	1.4%
無回答・複数回答	5	1.0%
計	491	

<分析>

○「1区」が最も多く(14.7%)、次いで「22区」(10.8%)、「4区」(9.0%)の順となっている。

## ②地区別

N=491

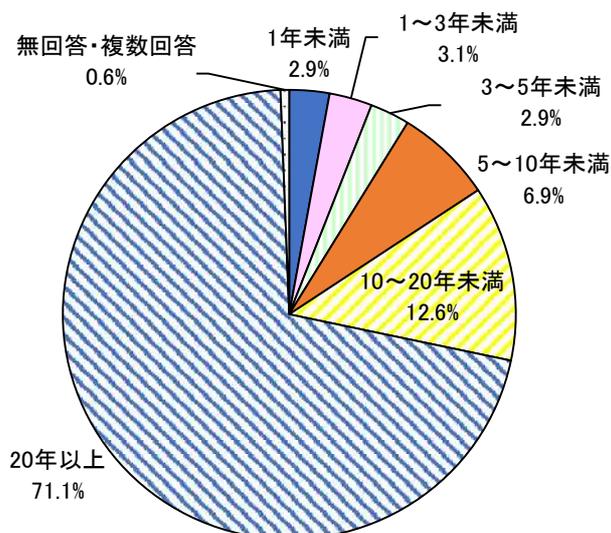
選択肢	人数	割合(%)
1. 市街地北部地区	146	29.7%
2. 市街地西部地区	166	33.8%
3. 市街地東部地区	37	7.5%
4. 袋・月浦地区	66	13.4%
5. 湯出・長崎地区	17	3.5%
6. 東部地区	33	6.7%
7. 久木野地区	21	4.3%
8. その他町名	0	0.0%
無回答・複数回答	5	1.0%
計	491	

### <分析>

○「市街地西部地区」が最も多く(33.8%)、次いで「市街地北部地区」(29.7%)、「袋・月浦地区」(13.4%)の順となっている。

## 問5 あなたは、現在の地域に何年お住まいですか。

N=491



### <分析>

○「20年以上」が最も多く(71.1%)、全体の7割強を占めている。次いで「10年～20年未満」(12.6%)、「5～10年未満」(6.9%)の順となっている。

問5で10年未満(1番、2番、3番、4番を選ばれた方)とお答えした方にお聞きします。  
**問6** 以前住んでいた場所はどこですか。  
 (区が分からない場合は、別紙4ページをご覧ください、27に町名等をお書きください。)

①現住地に対しての従前地

上段は件数、下段は現住地に対しての従前地の割合(従前地の件数/現住地の合計件数)

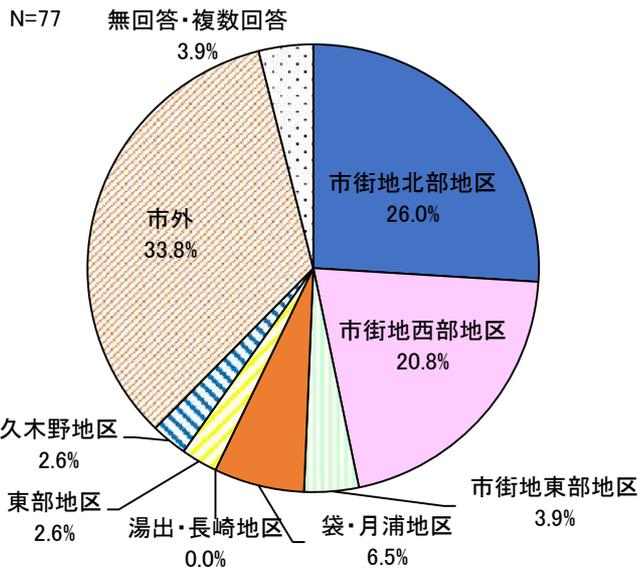
N=77

従前地 現住地	※1			※2		※2		※1		計
	市街地 北部地区	市街地 西部地区	市街地 東部地区	袋・月浦地 区	湯出・ 長崎地区	東部地区	久木野 地区	市外	無回答・ 複数回答	
市街地北部地区	8件 29.6%	7件 25.9%	1件 3.7%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 3.7%	10件 37.0%	0件 0.0%	27件 100.0%
市街地西部地区	2件 8.0%	6件 24.0%	0件 0.0%	5件 20.0%	0件 0.0%	2件 8.0%	0件 0.0%	8件 32.0%	2件 8.0%	25件 100.0%
市街地東部地区	2件 33.3%	1件 16.7%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	3件 50.0%	0件 0.0%	6件 100.0%
袋・月浦地区	6件 50.0%	1件 8.3%	2件 16.7%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	2件 16.7%	1件 8.3%	12件 100.0%
湯出・長崎地区	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%
東部地区	2件 33.3%	1件 16.7%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	3件 50.0%	0件 0.0%	6件 100.0%
久木野地区	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
計	20件 26.0%	16件 20.8%	3件 3.9%	5件 6.5%	0件 0.0%	2件 2.6%	2件 2.6%	26件 33.8%	3件 3.9%	77件 100.0%
							市内計	48件 62.3%	26件 33.8%	

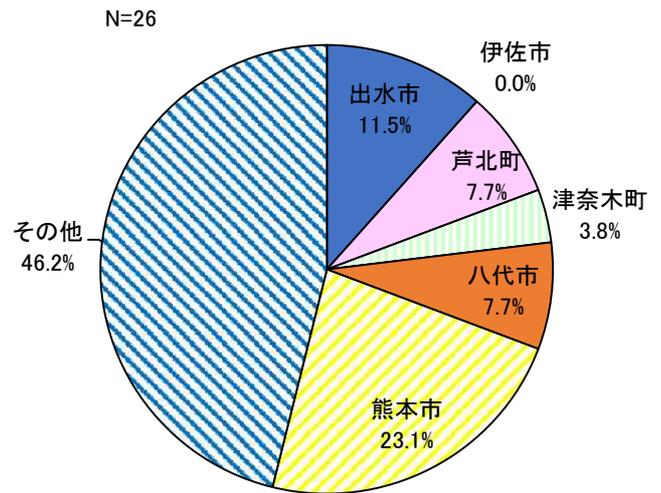
<分析>

- 「湯出・長崎地区」および「久木野地区」以外の5つの地区において、10年未満の移住者のうち「市外」からの割合が20%以上ある地区が5地区、「市街地北部地区」からの割合が20%以上ある地区が4地区、「市街地西部地区」からの割合が20%以上ある地区が2地区となっている。(※1の列・太字参照)
- 10年未満の移住者のうち「袋・月浦地区」「東部地区」からの移住者がすべて「市街地西部地区」へ移住している。また「市街地西部地区」への移住者のうち「袋・月浦地区」からが20.0%となっている。(※2の列・太字参照)
- 同じ地区内での移住で最も多いのが「市街地北部地区」が29.6%、次いで「市街地西部地区」が24.0%となっているが、それ以外の地区では地区内での移住は見受けられなかった。(太字参照)

## ②従前地の割合



## ③市外の内訳割合



### <分析>

- 10年未満の移住者のうち市内からが過半数を占めており(62.4%)、市外からは全体の3分の1程度(33.8%)となっている。また市内のうち「市街地北部地区」からが最も多く(26.0%)、次いで「市街地西部地区」(20.8%)となっており、その他の地区より多くなっている。
- 市外では「熊本市」からが最も多く(23.1%)、次いで「出水市」(11.5%)、「芦北町」および「八代市」(7.7%)、「その他」内の「熊本県天草市」(同率で7.7%)の順となっている。

### 「34.その他(市外)」の内容

・ 熊本県天草市	2件
・ 秋田県大館市	1件
・ 神奈川県川崎市	//
・ 大阪府大東市	//
・ 福岡県北九州市	//
・ 熊本県荒尾市	//
・ 宮崎県都城市	//
・ 鹿児島県鹿児島市	//
・ 鹿児島県鹿屋市	//

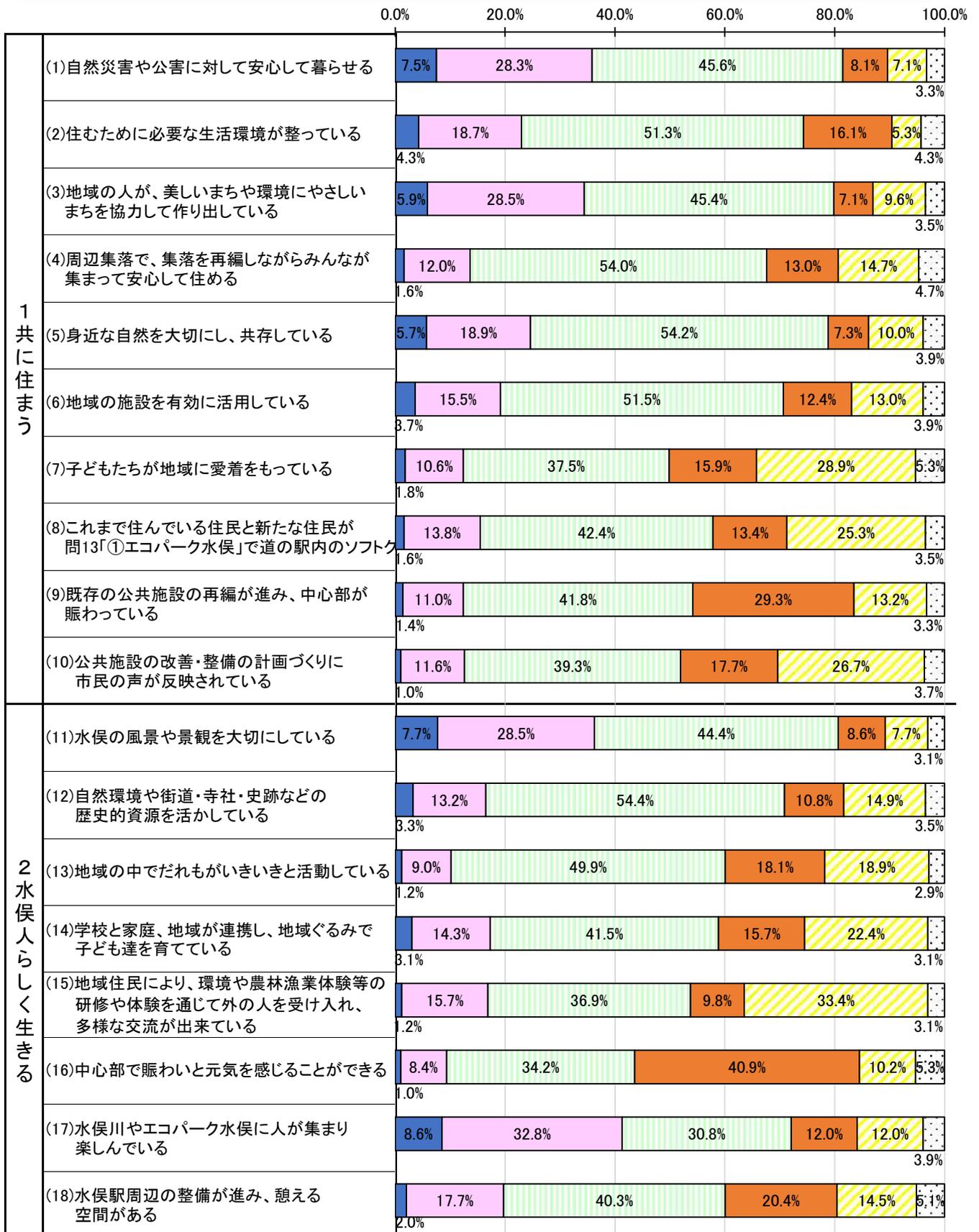
## 2. これまでの水俣市(全体)の「まちづくり」についてお尋ねします。

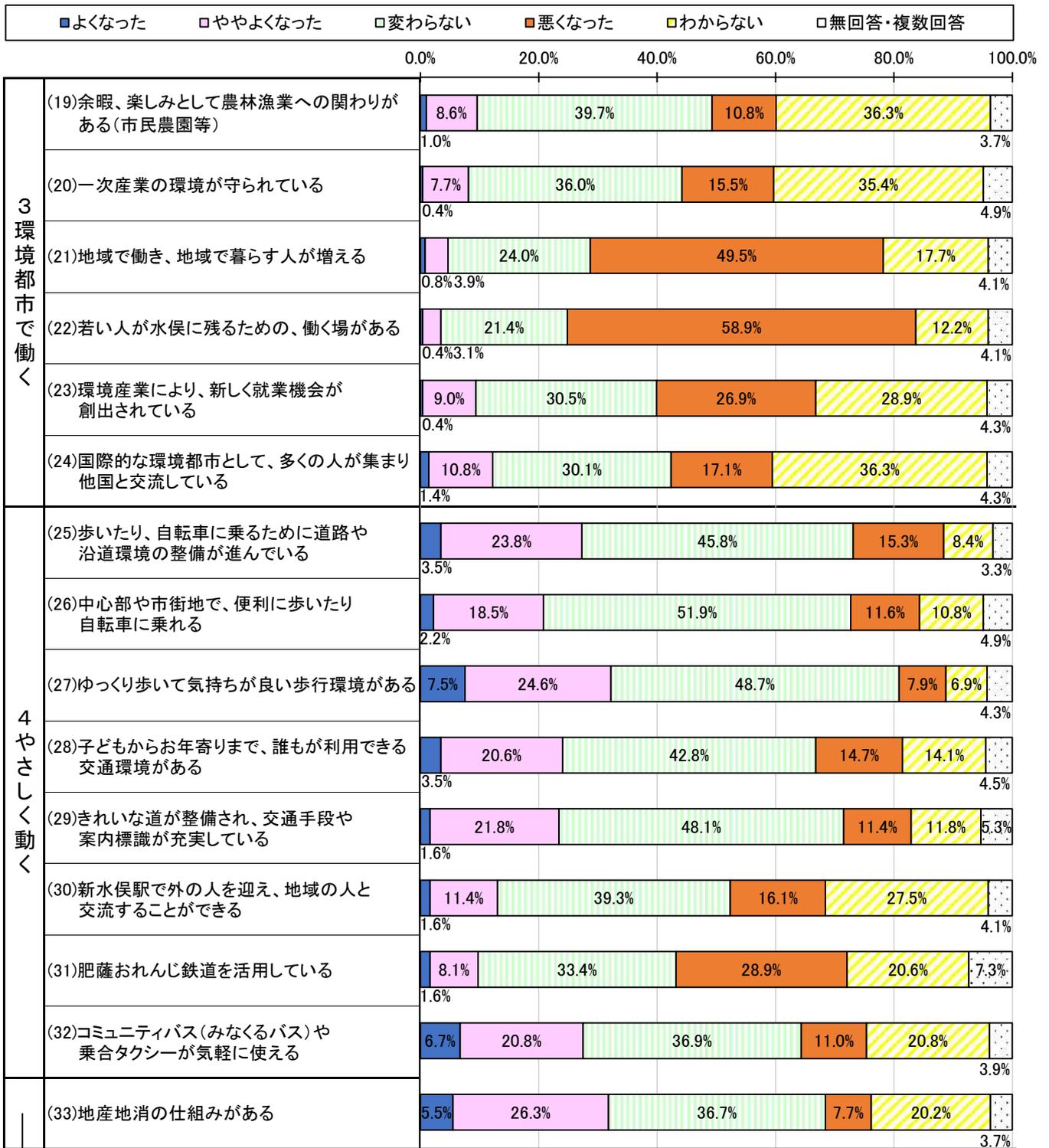
平成14年に策定した水俣市都市計画マスタープランでは、下記の1～5の5つの目指すべき生活像を掲げ、具体策を定めています。約20年前と比べて、それぞれの項目について採点をしてください。(居住年数が短い方は、分かる限りでお願いします)

### ①回答分布

N=491

■よくなった □ややよくなった □変わらない □悪くなった □わからない □無回答・複数回答





5 風土を食べる

<分析>

○「よくなった」「ややよくなった」と回答した割合が多い上位5つは次のとおりである。(％は合算した値)

- |                                       |        |
|---------------------------------------|--------|
| (17)水俣川やエコパーク水俣に人が集まり楽しんでいる           | …41.3% |
| (11)水俣の風景や景観を大切にしている                  | …36.2% |
| (1)自然災害や公害に対して安心して暮らせる                | …35.8% |
| (3)地域の人が、美しいまちや環境にやさしいまちを協力しての作り出している | …34.4% |
| (27)ゆっくり歩いて気持ちが良い歩行環境がある              | …32.1% |

○「悪くなった」と回答した割合が多い上位5つは次のとおりである。

- |                             |        |
|-----------------------------|--------|
| (22)若い人が水俣に残るための、働く場がある     | …58.9% |
| (21)地域で働き、地域で暮らす人が増える       | …49.5% |
| (16)中心部で賑わいと元気を感ずることができる    | …40.9% |
| (9)既存の公共施設の再編が進み、中心部が賑わっている | …29.3% |
| (31)肥薩おれんじ鉄道を活用している         | …28.9% |

○「変わらない」と回答した割合が多い上位5つは次のとおりである。

- |                                   |        |
|-----------------------------------|--------|
| (12)自然環境や街道・寺社・史跡などの歴史的資源を活かしている  | …54.4% |
| (5)身近な自然を大切に、共存している               | …54.2% |
| (4)周辺集落で、集落を再編しながらみんなが集まって安心して住める | …54.0% |
| (26)中心部や市街地で、便利に歩いたり自転車に乗れる       | …51.9% |
| (6)地域の施設を有効に活用している                | …51.5% |

○「わからない」と回答した割合が多い上位5つは次のとおりである。

- |                                                          |            |
|----------------------------------------------------------|------------|
| (19)余暇、楽しみとして農林漁業への関わりがある(市民農園等)                         | …36.3%     |
| (24)国際的な環境都市として、多くの人が集まり他国と交流している                        | …36.3%(同率) |
| (20)一次産業の環境が守られている                                       | …35.4%     |
| (15)地域住民により、環境や農林漁業体験等の研修や体験を通じて<br>外の人を受け入れ、多様な交流が出来ている | …33.4%     |
| (7)子どもたちが地域に愛着をもっている                                     | …28.9%     |
| (23)環境産業により、新しく就業機会が創出されている                              | …28.9%(同率) |

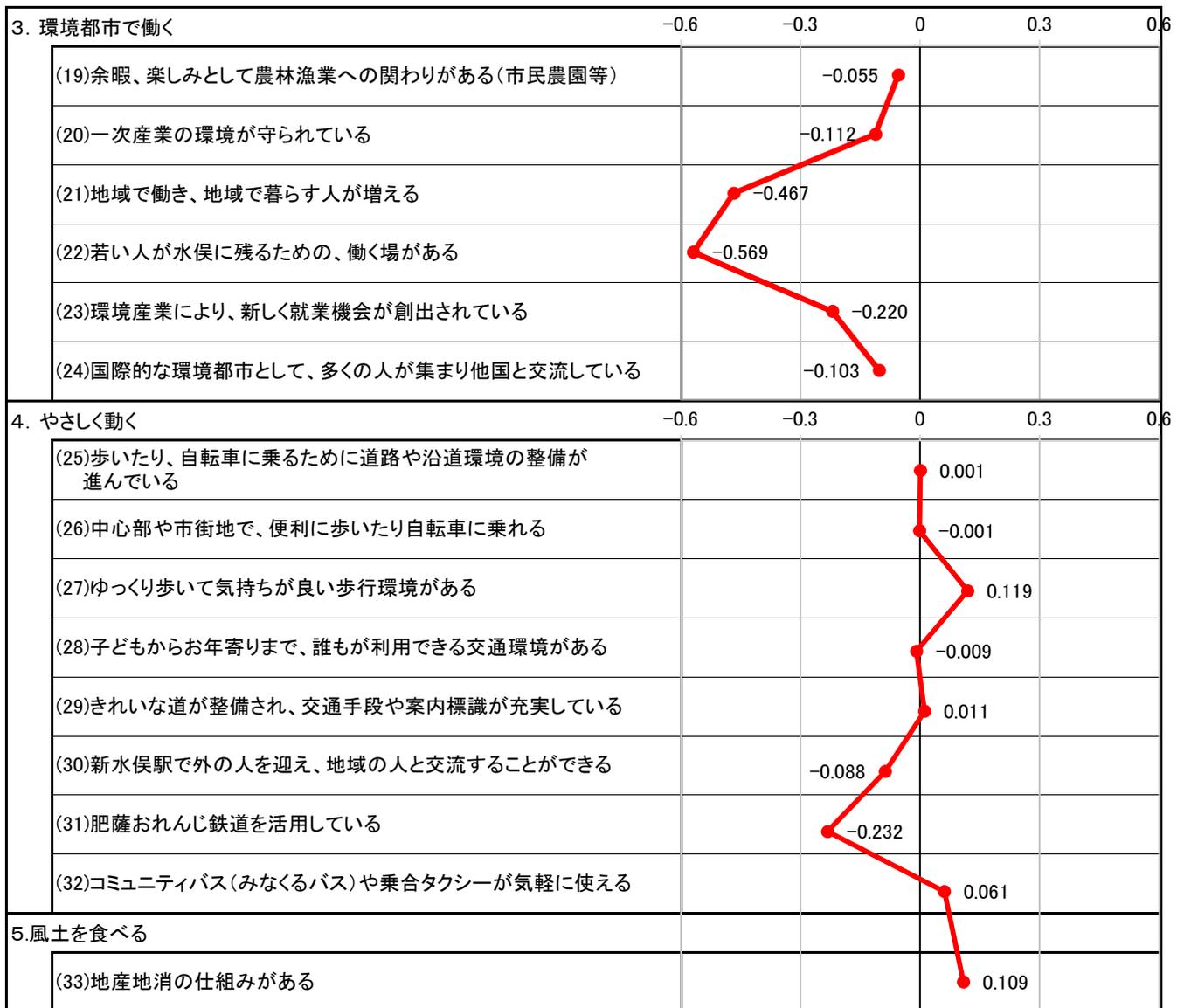
## ②平均分布

各項目の回答件数に以下の重みを乗じて合計し平均点を算出。

良くなった:1点、やや良くなった:0.5点、変わらない:0点、やや悪くなった:-0.5点、悪くなった:-1点

N=491

	-0.6	-0.3	0	0.3	0.6
<b>1. 共に住まう</b>					
(1)自然災害や公害に対して安心して暮らせる			0.135		
(2)住むために必要な生活環境が整っている		-0.024			
(3)地域の人々が、美しいまちや環境にやさしいまちを協力して作り出している			0.130		
(4)周辺集落で、集落を再編しながらみんなが集まって安心して住める		-0.054			
(5)身近な自然を大切に、共存している			0.078		
(6)地域の施設を有効に活用している		-0.010			
(7)子どもたちが地域に愛着をもっている		-0.088			
(8)これまで住んでいる住民と新たな住民が一体となってまちづくりを進めている		-0.049			
(9)既存の公共施設の再編が進み、中心部が賑わっている		-0.224			
(10)公共施設の改善・整備の計画づくりに市民の声が反映されている		-0.109			
<b>2. 水俣人らしく生きる</b>					
(11)水俣の風景や景観を大切にしている				0.134	
(12)自然環境や街道・寺社・史跡などの歴史的資源を活かしている		-0.009			
(13)地域の中でだれもがいきいきと活動している		-0.124			
(14)学校と家庭、地域が連携し、地域ぐるみで子ども達を育てている		-0.055			
(15)地域住民により、環境や農林漁業体験等の研修や体験を通じて外の人を受け入れ、多様な交流が来ている		-0.007			
(16)中心部で賑わいと元気を感ずることができる		-0.357			
(17)水俣川やエコパーク水俣に人が集まり楽しんでいる				0.129	
(18)水俣駅周辺の整備が進み、憩える空間がある		-0.095			



全項目の平均値: -0.065

<分析>

○平均値が高い上位5つは次のとおりである。

- (1)自然災害や公害に対して安心して暮らせる
- (11)水俣の風景や景観を大切にしている
- (3)地域の人が、美しいまちや環境にやさしいまちを協力して作り出している
- (17)水俣川やエコパーク水俣に人が集まり楽しんでいる
- (27)ゆっくり歩いて気持ちが良い歩行環境がある

○平均値が低い下位5つは次のとおりである。

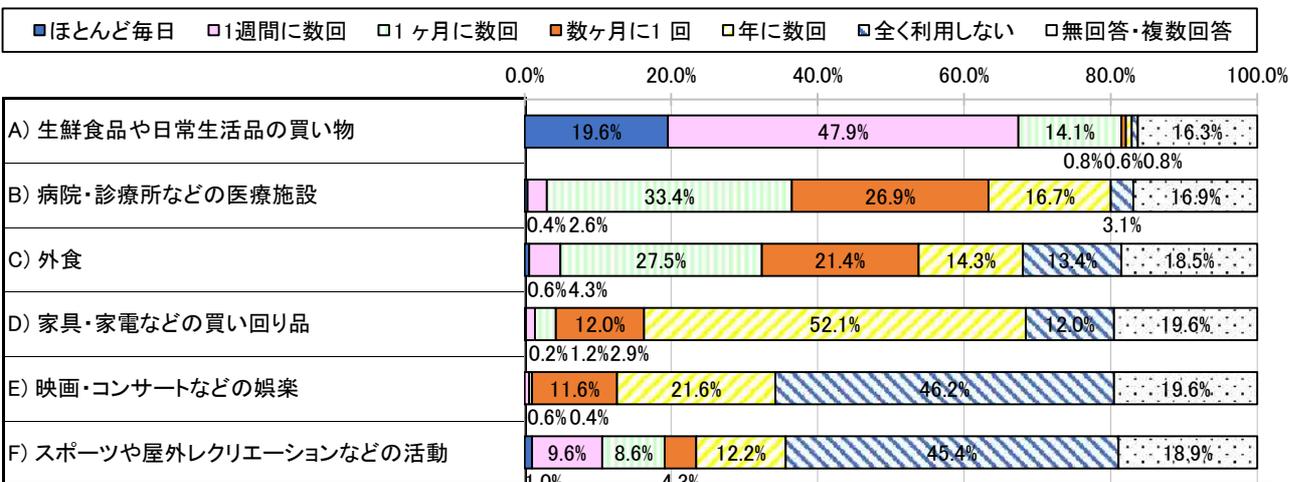
- (22)若い人が水俣に残るための、働く場がある
  - (21)地域で働き、地域で暮らす人が増える
  - (16)中心部で賑わいと元気を感じることができる
  - (31)肥薩おれんじ鉄道を活用している
  - (9)既存の公共施設の再編が進み、中心部が賑わっている
- 特に雇用・活気・公共施設といった項目が低い傾向となっている。

### 3. 日常生活についてお尋ねします。

問8 あなたの日常生活の中で、以下のA～Fの各生活行動について、それぞれの「①利用頻度」、②「最も利用する施設」、③「移動手段(②までの主な手段)」を教えてください。①で「カ」と回答した生活行動については、②③の回答は不要です。

#### ①利用頻度

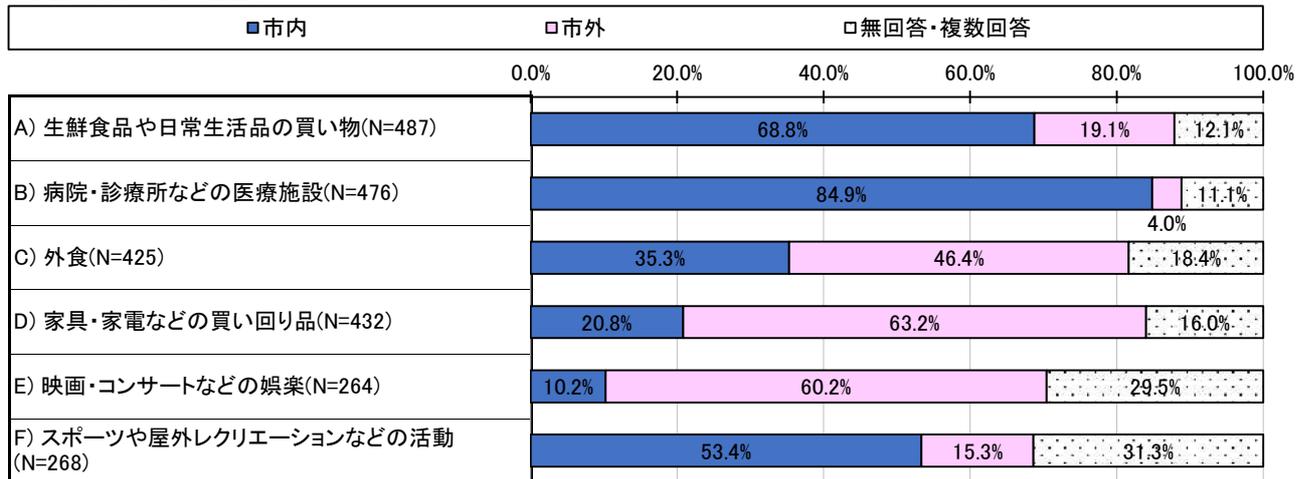
N=491



#### <分析>

- 「生鮮食品や日常生活品の買い物」の利用頻度では、「1週間に数回」(47.9%)、次いで「ほとんど毎日」(19.6%)が多く、合わせて全体の7割弱を占めている。
- 「病院・診療所などの医療施設」「外食」では、「1ヶ月に数回」と回答した割合が最も多く、次いで「数ヶ月に1回」、「年に数回」の順となっている。
- 「家具・家電などの買い回り品」では「年に数回」と回答した割合が最も多く(52.1%)、全体の過半数を占めている。
- 「映画・コンサートなどの娯楽」「スポーツや屋外レクリエーションなどの活動」では、「全く利用しない」と回答した割合が最も多く全体の半数弱となっているが、同時に「スポーツや屋外レクリエーションなどの活動」においては、「1週間に数回」と回答した割合が他の項目と比較してやや高い割合(9.6%)となっている。

## ②最も利用する施設

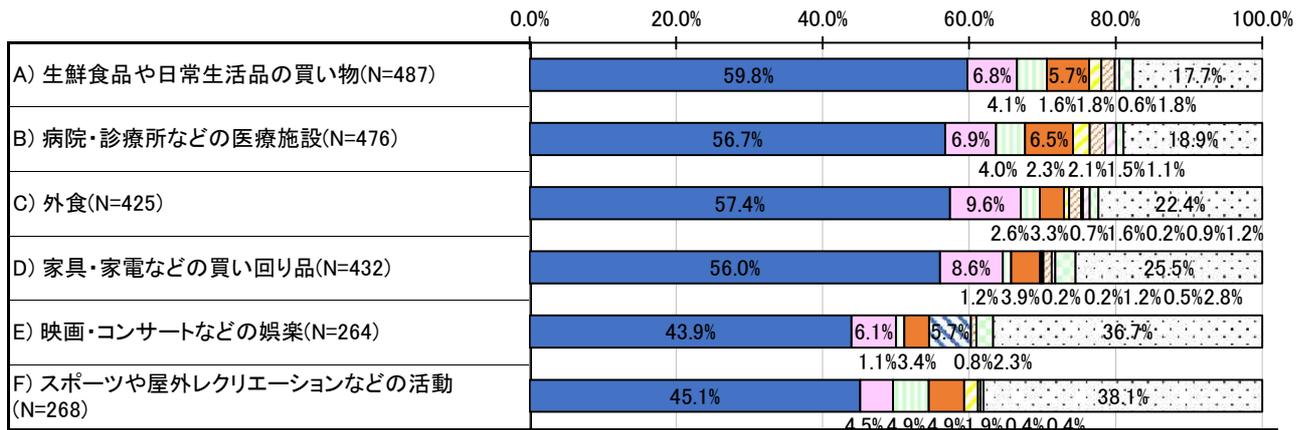


### <分析>

- 各項目で「市内」で利用すると回答した割合が最も多いのは「病院・診療所などの医療施設」(84.9%)で、全体の8割を超えており、次いで「生鮮食品や日常生活品の買い物」(68.8%)、「スポーツや屋外レクリエーションなどの活動」(53.4%)の順となっている。
- 一方、「市外」の割合が最も多いのが「家具・家電などの買い回り品」(63.2%)で、次いで「映画・コンサートなどの娯楽」(60.2%)、「外食」(46.4%)の順となっている。
- 日常生活は市内、余暇や娯楽などを楽しみ、休日は市外の施設を利用するという傾向が多くみられる。
- 「A)生鮮食品や日常生活品の買い物」において、最も利用する施設としては、大型スーパーが上位を占めている。
- 「B)病院・診療所などの医療施設」において、最も利用する施設としては、「総合医療センター」の回答が多くなっている。そのほか、かかりつけ医となる個人病院の回答も挙がっている。
- 「C)外食」において、最も利用する施設としては、大手チェーン店等が多くなっている。そのほか、市内の多くの個人飲食店の利用も回答に挙がっている。
- 「D)家具・家電などの買い回り品」において、最も利用する施設としては、大型家電量販店の回答が多くなっている。
- 「E)映画・コンサートなどの娯楽」において、最も利用する施設としては、市内では「文化会館」、「もやい館」という回答が多くなっている。市内には映画館が無いこともあり、コンサートも含めて市外の映画館や熊本市内という回答が多くなっており、市外を日常的に利用するという回答が半数以上となっている。
- 「F)スポーツや屋外レクリエーションなどの活動」において、最も利用する施設としては、「エコパーク水俣」が比較的が多くなっている。そのほか、「総合体育館」や「もやい館」などの回答も挙がっている。

### ③移動手段

■車(自分で運転)	□車(送迎)	□徒歩のみ	■自転車	□原付・バイク	□鉄道
□バス	□乗合タクシー	□タクシー	□その他	□無回答・複数回答	



#### <分析>

- いずれの項目でも「車(自分で運転)」と回答した割合が半数近くまたは過半数を占めており、日常の移動手段に車が欠かせないものとなっていることが見受けられる。
- それ以外の移動手段は全体的に「車(送迎)」が数割程度、次いで「自転車」「徒歩のみ」の順となっており、公共交通機関を利用する人が少ないことがわかる。

### ③移動手段「10.その他」の内容

#### A) 生鮮食品や日常生活品の買い物

- ・ 車と徒歩
- ・ 家族や人に依頼

#### B) 病院・診療所などの医療施設

- ・ 徒歩とバス

#### C) 外食

- ・ バスと徒歩
- ・ バスと鉄道
- ・ 出前

#### D) 家具・家電などの買い回り品

- ・ 通販(インターネット)(3件)
- ・ 家族や人に依頼(2件)
- ・ 家電店に来てもらう

#### E) 映画・コンサートなどの娯楽

- ・ 新幹線
- ・ 飛行機

問9 通勤・通学についてお聞きします。

(1)通勤・通学の場所はどこですか。

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. 水俣市	205	41.8%
2. 出水市	14	2.9%
3. 伊佐市	0	0.0%
4. 芦北町	7	1.4%
5. 津奈木町	7	1.4%
6. 八代市	3	0.6%
7. 熊本市	4	0.8%
8. その他の市町村	3	0.6%
9. 就業・就学していない	104	21.2%
無回答・複数回答	144	29.3%
計	491	

<分析>

○「水俣市」が最も多く(41.8%)、次いで「就業・就学していない」(21.2%)、「出水市」(2.9%)の順となっている。

「1.水俣市」の内容(行政区又は町名の回答があったものの内訳)

○行政区(行政区順)

・ 1区	15件
・ 2区	5件
・ 3区	2件
・ 4区	7件
・ 5区	9件
・ 6区	1件
・ 7区	1件
・ 8区	3件
・ 12区	1件
・ 15区	2件
・ 17区	8件
・ 18区	3件
・ 19区	9件
・ 20区	2件
・ 21区	7件
・ 22区	8件
・ 23区	1件

計84件

○町名(件数順)

・ 陣内	8件
・ 天神町	〃
・ 古賀町	7件
・ 浜町	6件
・ 浜松町	5件
・ 桜井町	〃
・ 野口町	4件
・ 袋	〃
・ 大黒町	3件
・ 塩浜町	〃
・ 百間町	〃
・ 幸町	2件
・ 栄町	〃
・ 丸島町	〃
・ 古城	〃
・ 昭和町	〃
・ 白浜町	〃
・ 桜ヶ丘	〃
・ 湯の児	〃
・ 初野	〃
・ 南福寺	〃
・ 明神町	1件
・ 旭町	〃
・ 港町	〃
・ 洗切町	〃
・ 汐見町	〃
・ ひばりヶ丘	〃
・ 月ノ浦	〃
・ 深川	〃
・ 長崎	〃

計85件

「8.その他の市町村」の内容

・ 鹿児島県鹿児島市
・ 鹿児島県霧島市
・ 九州全域(現在、怪我で休職中)

## (2)主な移動手段は何ですか。

N=491 複数回答

選択肢	人数	割合(%)
1. 車(自分で運転)	212	43.2%
2. 車(送迎)	23	4.7%
3. 徒歩のみ	29	5.9%
4. 自転車	27	5.5%
5. 原付・バイク	10	2.0%
6. 鉄道	3	0.6%
7. バス	17	3.5%
8. 乗合タクシー	3	0.6%
9. タクシー	11	2.2%
10. その他	8	1.6%
無回答・複数回答	65	13.2%

### <分析>

○「車(自分で運転)」が43.2%と最も多く、次いで「徒歩のみ」が5.9%、「自転車」が5.5%の順となっている。

### 「10.その他」の内容

- ・ 徒歩、鉄道、バス
- ・ 水俣に家もあるが、通院のために熊本市のマンションを借りて通勤しています。
- ・ 店舗兼住宅

問10 「①自宅から徒歩圏内」、「②地域の拠点となる場所(下記※印参照)」、「③市の中心部(肥薩おれんじ鉄道水俣駅～水俣市役所の周辺)」にどんな施設があれば良いと思いますか。①～③それぞれで、1～15の施設名の中から3つまで選び、○を付けてください。

N=491 3つまで回答



<分析>

①自宅から徒歩圏内

「食料品・飲料・日常生活品等の店舗」が54.4%と最も多く過半数を超えている。次いで「コンビニエンスストア」が31.8%、「郵便局や銀行」が19.3%の順となっている。

②地域拠点となる場所

「食料品・飲料・日常生活品等の店舗」が23.6%と最も多く、次いで「郵便局や銀行」が17.3%、「買い回り品(衣料品や家具・家電、趣味品など)の店舗」が15.9%の順となっている。

③市の中心部

「買い回り品(衣料品や家具・家電、趣味品など)の店舗」が28.1%と最も多く、次いで「食料品・飲料・日常生活品等の店舗」が27.5%、「大規模病院」が23.6%の順となっており、いずれも20%を越えている。

「15.その他」の主な内容

①自宅から徒歩圏内

- |                                      |
|--------------------------------------|
| ・ 飲食店(うどん・ラーメン)(2件)                  |
| ・ 大収容できるライブハウス等(大きな駐車場を併設したイベント会場的な) |

②地域の拠点となる場所

- |                                             |
|---------------------------------------------|
| ・ キャンプ場(2件)                                 |
| ・ 新水俣駅に居酒屋及び飲食店を数店舗誘致する(全国的に有名なチェーン店など)(2件) |
| ・ 温泉(家族湯有り・安価で利用できるなど)(2件)                  |
| ・ 書店                                        |
| ・ 図書館と同じ施設内で飲食出来るところ                        |

③市の中心部

- |                                    |
|------------------------------------|
| ・ 飲食店(カフェ・レストラン・ファストフード・お弁当など)(6件) |
| ・ 駐車場・駐輪場(2件)                      |
| ・ アミューズメントパーク・レジャーランド(2件)          |
| ・ 映画館(2件)                          |

#### 4. 将来(おおむね20年後)の水俣市全体のことについてお尋ねします。

##### 問11 将来、水俣市をどんなまちにしたいと思いますか。

N=491 3つまで回答

選択肢	人数	割合(%)
1. 住環境の優れたまち	175	35.6%
2. 農林漁業の盛んなまち	52	10.6%
3. 商業の盛んなまち	127	25.9%
4. 工業の盛んなまち	94	19.1%
5. 観光や交流のまち	91	18.5%
6. 防災性に優れた安全に暮らせるまち	127	25.9%
7. 高齢者などが住みやすい福祉、医療が充実したまち	240	48.9%
8. 自然や緑が豊かなまち	110	22.4%
9. 歴史や伝統のあるまち	9	1.8%
10. 教育文化の優れたまち	65	13.2%
11. 交通の便がよいまち	135	27.5%
12. スポーツの盛んなまち	33	6.7%
13. 環境に配慮したまち	63	12.8%
14. 地域活動が活発なまち	29	5.9%
15. その他	23	4.7%
無回答・4つ以上回答	11	2.2%

##### <分析>

○「7.高齢者などが住みやすい福祉、医療が充実したまち」と回答した割合が最も多く(48.9%)、半数近くを占めている。次いで「1.住環境の優れたまち」(35.6%)、「11.交通の便がよいまち」(27.5%)の順となっている。

##### 「15.その他」の内容

・ 子育てしやすいまち(5件)
・ 子どもが住みやすいまち(3件)
・ 若者が働ける職場があるまち(3件)
・ 子どものいる家庭が休日も楽しめるような、レジャー施設(キャンプ場・アスレチック)のあるまち
・ 若い人、子どもらがたくさんいるまち
・ 国際交流・大学誘致・若手企(起)業の誘致
・ 公共施設が集約されたまち
・ 美術館等があるまち
・ 道路整備されたまち
・ アニメの聖地があるまち
・ 水俣病を教訓とした命と自然を大切に育むまち
・ 人口4万人のまち
・ 抜本的な発想と21世紀に合わせた社会構造のまち

問12 次の①～⑨について、今後、特に重要だと思うものはどれですか。

①住宅地について

N=491 2つまで回答

選択肢	人数	割合(%)
1. コンパクトでまとまりのある住宅地(まちなか)の形成	101	20.6%
2. 既存の市街地と連携した新しい住宅地の創出	131	26.7%
3. 既存の集落と調和した新しい住宅地の創出	121	24.6%
4. 分散化する集落の集合化など、まとまりのある集落の形成	108	22.0%
5. 老朽化した住宅の建て替えや空き家への住み替え促進、既存住宅地の改善	334	68.0%
6. 今のままでよい(新たな対応は必要ない)	43	8.8%
7. その他	11	2.2%
無回答・3つ以上回答	18	3.7%

<分析>

○「老朽化した住宅の建て替えや空き家への住み替え促進、既存住宅地の改善」が最も多く(68.0%)、全体の3分の2以上を占めている。次いで「既存の市街地と連携した新しい住宅地の創出」(26.7%)、「既存の集落と調和した新しい住宅地の創出」(24.6%)の順となっている。

「7.その他」の主な内容

・ 土地不足解消
・ 子育て世代が暮らしやすい、働きながら子育て出来る環境づくり
・ 高齢者へのDX(デジタルトランスフォーメーション) <sup>*</sup> 対応 <small>※デジタル技術によって、ビジネスや社会、生活の形・スタイルを変えること</small>
・ 老朽化住宅リフォームとその住宅への住み替え促進
・ 弱者に優しく、若者が暮らしやすい環境

②市中心部の商業地について

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. 既存商店街の活性化	126	25.7%
2. 業務機能(働く場)の充実	130	26.5%
3. 歩行空間の充実	17	3.5%
4. 休憩の場(ベンチ等)の整備	16	3.3%
5. 駐車場の整備・充実	23	4.7%
6. 循環バス等による交通利便性向上	43	8.8%
7. 魅力的な街並みづくり	75	15.3%
8. 今のままでよい(新たな対応は必要ない)	20	4.1%
9. その他	7	1.4%
無回答・複数回答	34	6.9%
計	491	

<分析>

○「業務機能(働く場)の充実」が最も多く(26.5%)、次いで「既存商店街の活性化」(25.7%)、「魅力的な街並みづくり」(15.3%)の順となっている。

「9.その他」の主な内容

・ スーパー、ディスカウントストアの新たな招致
・ ショッピングモール等の大型商業施設の設置

### ③産業・工業地について

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. エコタウンの機能の充実	102	20.8%
2. 新たな工業地の整備	155	31.6%
3. 住宅と工場の混在の解消	20	4.1%
4. 工場敷地内の緑化の推進	9	1.8%
5. 建物の美観や公害防止など周辺環境に配慮した工業地の形成	116	23.6%
6. 今のままでよい(新たな対応は必要ない)	52	10.6%
7. その他	9	1.8%
無回答・複数回答	28	5.7%
計	491	

<分析>

○「新たな工業地の整備」が最も多く(31.6%)、次いで「建物の美観や公害防止など周辺環境に配慮した工業地の形成」(23.6%)、「エコタウン機能の充実」(20.8%)の順となっている。

「7.その他」の主な内容

・ 教育産業の誘致、IT産業の誘致
・ 地区などへの工業団地建設による企業の誘致(半導体関係企業)

### ④農地の保全・活用について

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. 積極的に保全し、少なくとも現状面積を維持	143	29.1%
2. 地域活性化のための開発を優先(農地の減少はやむをえない)	101	20.6%
3. 新たな農地の創出	25	5.1%
4. 観光農園等として多角的に利用	134	27.3%
5. 今のままでよい(新たな対応は必要ない)	43	8.8%
6. その他	12	2.4%
無回答・複数回答	33	6.7%
計	491	

<分析>

○「積極的に保全し、少なくとも現状面積を維持」が最も多く(29.1%)、次いで「観光農園等として多角的に利用」(27.3%)、「地域活性化のための開発を優先(農地の現象はやむをえない)」(20.6%)の順となっている。

「6.その他」の主な内容

・ 若手の小規模農業者をどんどん受け入れる農業施策の推進
・ 休耕地の活用

## ⑤道路・交通について

N=491 2つまで回答

選択肢	人数	割合(%)
1. 周辺都市を結ぶ既存の幹線道路(国道3号・国道268号)の機能充実	143	29.1%
2. 市中心部と周辺集落を結ぶ主要な道路の機能充実	119	24.2%
3. 市街地・集落内の主要な生活道路における狭い道路の拡幅や行き止まりの解消等	183	37.3%
4. 中心市街地内での安全で円滑な歩行者・自転車利用のための改善	121	24.6%
5. 自動車利用の低減を目指した公共交通機関及び自転車の利用促進	50	10.2%
6. 市中心部と周辺集落をつなぐ交通サービスの向上	160	32.6%
7. 今のままでよい(新たな対応は必要ない)	34	6.9%
8. その他	12	2.4%
無回答・3つ以上回答	19	3.9%

### <分析>

○「市街地・集落内の主要な生活道路における狭い道路の拡幅や行き止まりの解消等」が最も多く(37.3%)、次いで「市中心部と周辺集落をつなぐ交通サービスの向上」(32.6%)、「周辺都市を結ぶ既存の幹線道路(国道3号・国道268号)の機能充実」(29.1%)の順となっている。

### 「8.その他」の主な内容

・ 市道の補修(6件)
・ 自転車の通行区分、車イスの歩行路の整備
・ 温泉街の道路(狭い道幅や交通設備)の整備
・ 信号を減らす。
・ 電柱を地下へ。

## ⑥公園・緑地等について

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. エコパーク水俣を健康づくり・交流の拠点として機能を充実する	196	39.9%
2. 身近に利用できる公園・広場を新たに整備する	57	11.6%
3. 身近な公園を住民が自主的に管理し、有効活用する	37	7.5%
4. 既存の公園の機能を充実する	68	13.8%
5. 既存の公園を適切に維持管理する	63	12.8%
6. 今のままでよい(新たな対応は必要ない)	32	6.5%
7. その他	6	1.2%
無回答・複数回答	32	6.5%
計	491	

### <分析>

○「エコパーク水俣を健康づくり・交流の拠点として機能を充実する」が最も多く(39.9%)、次いで「既存の公園の機能を充実する」(13.8%)、「既存の公園を適切に維持管理する」(12.8%)の順となっている。

### 「7.その他」の主な内容

・ グリーンスポーツ水俣の活用
・ エコパークに記念樹として桜を植える。

## ⑦風景や景観について

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. 水俣市の特徴である山・川・海などの自然環境を保全する	298	60.7%
2. 産業と暮らしが一体となった集落景観を保全する	50	10.2%
3. 住宅地内の緑化を推進する	6	1.2%
4. 住宅地の街並みについてのルールをつくる	8	1.6%
5. 中心市街地にまちの顔となる景観をつくる	68	13.8%
6. 今のままでよい(新たな対応は必要ない)	36	7.3%
7. その他	4	0.8%
無回答・複数回答	21	4.3%
計	491	

### <分析>

○「水俣市の特徴である山・川・海などの自然環境を保全する」が最も多く(60.7%)、全体の過半数を占めている。次いで「中心市街地にまちの顔となる景観をつくる」(13.8%)、「産業と暮らしが一体となった集落景観を保全する」(10.2%)の順となっている。

### 「7.その他」の主な内容

- ・ 湯の児海岸桜並木を新しく育てる。

## ⑧防災まちづくりについて

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. 建物の耐震化や不燃化(燃えにくい建物にする)を進める	55	11.2%
2. 防災マップや避難マニュアルなどの情報提供を図る	67	13.6%
3. 地域防災活動を行う	35	7.1%
4. 土砂くずれや洪水などの災害対策を行う	249	50.7%
5. 安全な場所へ要配慮者施設(高齢者福祉施設等)や居住を誘導する	62	12.6%
6. その他	5	1.0%
無回答・複数回答	18	3.7%
計	491	

### <分析>

○「土砂くずれや洪水などの災害対策を行う」が最も多く(50.7%)、全体の過半数を占めている。次いで「防災マップや避難マニュアルなどの情報提供を図る」(13.6%)、「安全な場所へ要配慮者施設(高齢者福祉施設等)や居住を誘導する」(12.6%)の順となっている。

### 「6.その他」の主な内容

- ・ 大規模風力発電など、新たな建造物を作らない。
- ・ 山林の伐採の始末や太陽光設置工事跡などの整備
- ・ 老朽化した校舎の補強や施設の整備(トイレなど)

## ⑨高齢社会への対応について

N=491

選択肢	人数	割合(%)
1. 高齢者福祉施設の充実	130	26.5%
2. 保健・医療施設の充実	92	18.7%
3. 道路の歩道設置、段差の解消	58	11.8%
4. 高齢者や障害者にやさしい住宅づくり	55	11.2%
5. 生きがいの場、健康づくりの場の充実	116	23.6%
6. 近居や多世帯住宅の支援	14	2.9%
7. その他	7	1.4%
無回答・複数回答	19	3.9%
計	491	

### <分析>

○「高齢者福祉施設の充実」が最も多く(26.5%)、次いで「生きがいの場、健康づくりの場の充実」(23.6%)、「保健・医療施設の充実」(18.7)%の順となっている。

### 「7.その他」の主な内容

- ・ 富裕高齢者向けの施設を作り、全国からの移住を募る。
- ・ 公民館・地域集会所を活用した、イベントではないメニューの充実化

**問13 水俣市全体の活性化に向けて、重点的に活用したり、整備すべき場所・資源は何だとお考えになりますか。**

N=491 3つまで回答

選択肢	人数	割合(%)
1. エコパーク水俣(道の駅みなまた、きらら館、水俣病資料館等)	146	29.7%
2. 新水俣駅(新幹線・肥薩おれんじ鉄道)やその周辺	147	29.9%
3. 水俣駅(肥薩おれんじ鉄道)やその周辺	93	18.9%
4. 水俣市役所周辺	17	3.5%
5. 水俣インターチェンジ周辺	51	10.4%
6. 袋インターチェンジ(仮称)周辺	42	8.6%
7. 産業団地がある臨海部	35	7.1%
8. エムズシティ周辺	130	26.5%
9. 水光社周辺	72	14.7%
10. 旧国道3号(水俣駅前通り)の商店街	111	22.6%
11. 浜町付近の商業ゾーン(熊本中央信用金庫水俣支店～市立図書館周辺)	46	9.4%
12. 温泉資源(湯の鶴・湯の児)	265	54.0%
13. 中山間地の集落	33	6.7%
14. 市域の7割以上を占める森林地域など、豊かな自然環境	71	14.5%
15. 特に活用すべき場所・資源はない	18	3.7%
16. その他	14	2.9%
無回答・4つ以上回答	14	2.9%

<分析>

○「温泉資源(湯の鶴・湯の児)」が最も多く(54.0%)、過半数を占めている。次いで「新水俣駅(新幹線・肥薩おれんじ鉄道)やその周辺」(29.9%)、「エコパーク水俣(道の駅みなまた、きらら館、水俣病資料館等)」(29.7%)の順となっている。

「16.その他」の主な内容

・ 水俣病に関わる歴史やそれを学べる資源の整備・活用(3件)
・ 現存する商業施設に代わる商業施設が必要と思う。
・ サービスエリアを作ってほしい。
・ 城山公園(水俣城)をもっと大切に!
・ 水天荘の跡地
・ キャンプ場
・ 現国道沿い

問14 水俣市のまちづくりに対する思いやご意見などがありましたら、ご記入ください。

◎経済の振興(53件)

・ 若者が集まる施設をつくる。商店街の空き地や空き店舗の有効活用や、大型商業施設の誘致(25件)
・ 若者が働ける場所の確保、企業誘致による雇用の創出(21件)
・ お子様から大人まで楽しめる遊戯施設や、レクリエーション施設を作り、集客を図る。(3件)
・ 水俣駅(おれんじ鉄道)、新水俣駅周辺の活性化(コンビニ、イベント、複合施設)(2件)
・ 環境に配慮した企業を誘致する。
・ 医療を受けられる体制の維持や、テレビなどで見えるオンライン診療の拡大や、その水俣の企業を大切にするなどして、新しい産業にも投資しながら、活気がある水俣にしてほしいです。

◎観光の振興(24件)

・ エコパークや自然環境を活かしたイベントを通し、湯の児・湯の鶴温泉や海、山をPRし観光客誘致につなげる。(11件)
・ 湯の児・湯の鶴温泉、中尾山の道路や環境を整備し、活性化する。(4件)
・ 市外の人に行ってみたいとか市内の人が連れていきたいと思うような、宿泊施設や飲食店を充実させる。商店街や駅周辺を活性化させる。(2件)
・ 閉校した校舎の整備利用、観光の方々の受け入れなど
・ 子供達家族、友人家族もバラ開花の時期には、久留米・荒尾・阿久根から遊びがてらに来て、食事・特産品等を求め、エコパークで子供・孫を遊ばせています。エコパークが充実してきていますが、水俣の特産品・土産品を尚一層充実して欲しいと思います。
・ 水俣市に観光で来た人が、中心部に気軽に車を止め、自転車に乗り換え、町(歴史や伝統的建物)を散策・買物が出来ると良いと思う。
・ 芦北～水俣の海岸線は九州一のみさだと思う。木を切って整備してほしい。
・ 新幹線、高速道路とインフラがありながら通過のまちとなり活用されてない。
・ アニメをつかって人を呼んだ方が良い。他の市や県はよくやってる。水俣は積極的にした方が多少は良い方向に行くのでは？
・ まちづくりに直接関係ありませんが、エコバラちゃんのキャラクターがせっかくいるのに活用しているように見えないので勿体ないと思いました。さつま町のさつまちゃんのように、看板・標識にどンドン出してあげていいような気がしますし、さつまちゃんを見て「さつま町に来た」と思うように、エコバラちゃんを見て「水俣に来た」と思う人もいると思います。

◎農林水産業の振興(1件)

・ 農村部の利便性向上、災害に対する整備や、農作物(田・畑)の害獣駆除に力を入れていただきたい。
--------------------------------------------------

◎経済成長へつなげる転入者の獲得(8件)

・ 他市町村からの移住しやすい環境を整える。きっかけ作り。(3件)
・ 人口の増加につながる様な政策、人口減少の為抜本的な対策(3件)
・ 若年者(高校生等)の県外流出防止対策検討実施、並びに県外よりのリターン者を含め、既存企業等の充実を計り増員する。(2件)

◎学校教育の充実(4件)

・ 教育施設や環境の充実、国際交流、文系大学の誘致(2件)
・ 図書館及び第一小学校を新しくし、子供が学ぶ環境の充実(2件)

### ◎持続可能な地域社会を担う人材育成(3件)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 若いこれから社会を作っていく(高校生を含む)人達、女性でプロジェクトを作って声を聞いてみるのはいかが。もっと地元民の声に耳を傾けるべき。(2件)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 教育と福祉に長じた街づくりをし、それに伴う働き手の移入・消費の拡大を目指す。通勤手当よりも、市内在住手当を厚くし、流出を防ぐ。</li></ul>

### ◎生涯学習の推進(3件)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 何歳からでも何歳になっても誰でも学べる生涯学習の施設。自分の得意分野を人に教えたり興味がある人は学べる。趣味のサークルのように、自由に取り組めて、誰でも自由に参加できる。教室がいくつもあり、楽しみや生きがいにつながる集いの場となるようなところがあると嬉しい。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 子供達が地元に残りたいと思えるまちづくり。人口が減少していると感じるので。水俣環境アカデミアが大学であればいいのにと感じます。教育機関の充実。福祉の充実。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 私は障害を持った子供を育てています。子供達の将来が不安です。働ける場所、施設の充実など皆が平等に生きていける水俣市になって欲しいです。切実な願いです。</li></ul>

### ◎文化の振興(1件)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 水俣の歴史や文化にもっと注目してほしい。 「文学散歩」や「史跡巡り」など、観光資源はたっぷり！ きちんと整備していけば、落ち着いたまちづくりができると思う。 水俣病に関する書籍や海外の映画など、世界からの視線をしっかり受け止め発展してほしい。</li></ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ◎子ども・子育て支援の充実(8件)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 若い方が残るような魅力もしくは、子育てがしやすい街にしてもらいたい。(7件)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 高齢者と若者が協力して子育てしていく環境作りをして水俣の魅力を発信してはどうか。</li></ul>

### ◎高齢者福祉の充実(3件)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 高齢者が集える場(2件)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 年配の方々が暮らしやすいまちになって欲しい。</li></ul>

### ◎水俣病問題への取組と「もやい直し」の推進(10件)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 水俣病の暗いイメージの名称を変える。明るい水俣市へ。(5件)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 水俣のダークな部分から目をそむけず、水俣にしかない資源としてとらえ水俣病の教訓を前面に打ち出した対外施策を行うべき。(4件)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 脱水俣病からの脱皮。ニュー水俣市への変ぼうへ。</li></ul>

### ◎生活環境の保全(15件)

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「海・山・水」の豊かな自然環境を維持・活用して、よりよいまちになることを期待したい。(6件)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 町通りに緑が少なく、花壇も草だらけで環境にも悪い。サクラの木を切られ、水俣川が寂しくなった。(3件)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 若い方に働く場所が多く有り、高齢の方が生きがいを感じられる、心豊かに生活できる環境づくり(3件)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ エコパーク水俣や、対岸にある恋路島が、これからも水俣市民の憩いの場となるよう維持して行って欲しい。(2件)</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 下水道整備の拡大をしないと人口は減っていくと思います。</li></ul>

### ◎都市基盤の整備(3件)

- ・ 特徴あり、魅力的なまちづくりを。(2件)
- ・ 人口が減るので、コンパクトなまちづくりに再生していく。

### ◎災害に強いまちの形成(7件)

- ・ 河川の氾濫が心配。堤防整備、避難所の整備をしてほしい。(5件)
- ・ 閉校した校舎の整備利用、災害時の避難者受け入れ。
- ・ お年寄りの避難場所も交通手段も心配。山を削って、小高い広い平地を作って、多くの人が避難できるような、お寺のような畳が広くある建物があればいいと思う。そこでそば店とか営んでいると、もしの時は非常食を提供できないのかなとか、駐車場や広場が広くあれば子供も遊べるのにな、とか考えていました。

### ◎住環境の整備(9件)

- ・ 家賃や土地代が高い。住宅取得のための助成や補助など、若い世帯が住宅を持てる環境を整備してほしい。(5件)
- ・ 空き家がとても多く、もったいないと思う。整備し安く貸し出したり、売り出すなど活用した方がよい。(4件)

### ◎交通基盤の整備(16件)

- ・ 駐車場の整備(5件)
- ・ 歩道・自転車専用レーンの整備(4件)
- ・ 段差をなくすなどの道路整備、市道全体の舗装。ガードレールの整備(水俣川沿い)。(3件)
- ・ 市内の道路があまりにも狭い。(2件)
- ・ 通勤時間帯の渋滞緩和の為に、高速道路の整備を早く進めて欲しい。
- ・ 平町通りの電柱を地下へと移動して欲しい。

### ◎公共交通の充実(3件)

- ・ 12区、13区内の乗合タクシーの充実(2件)
- ・ 高齢化は必ず進む事は予想され、ここ17区は市内への買い物、病院への交通手段が一番気になる問題。高齢者が免許を返納する事にためらう気持ちも理解でき、バスの便を増やす、団地の周辺に買い物支援のサービスが受けられる(訪問サービス)等、地元の商店街や企業を中心に新たな支援システム作りを期待したいです。

### ◎自発的なまちづくり活動による地域の活性化(1件)

- ・ 市内の平地はせまいので、周りの同じ屋根の色、壁の色等コンパクトにまとまりがある町並みに作り、又、周りの山なみに市内を見渡せる道路を作り、特色ある町を何か一つでも全市民が協力して作っていかたいと思う。

## II. 居住地別分析

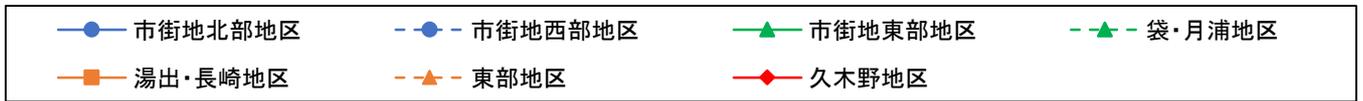
## 2. これまでの水俣市(全体)の「まちづくり」についてお尋ねします。

平成14年に策定した水俣市都市計画マスタープランでは、下記の1~5の5つの目指すべき生活像を掲げ、具体策を定めています。約20年前と比べて、それぞれの項目について採点をしてください。(居住年数が短い方は、分かる限りでお願いします)

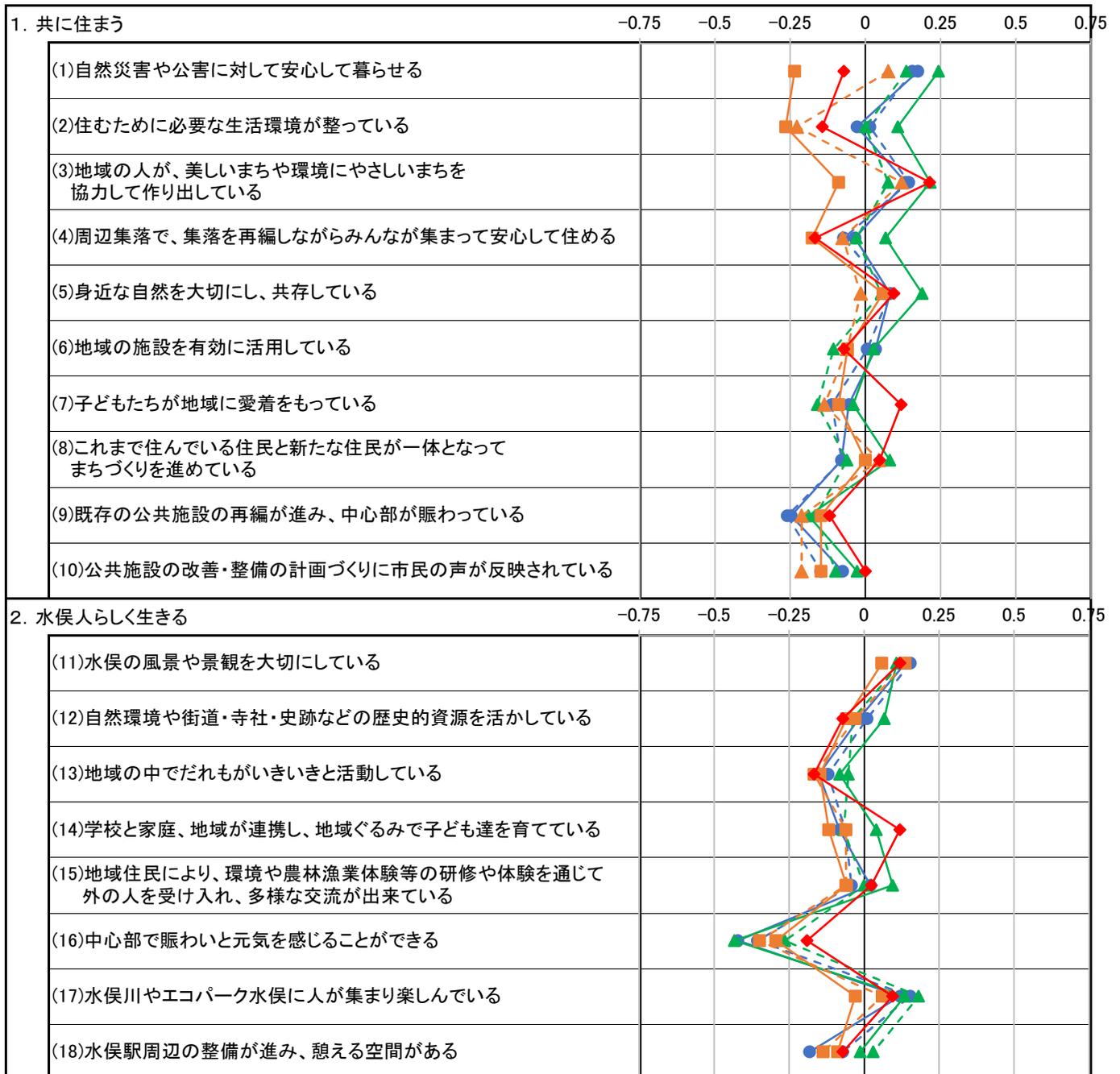
### <居住地別分析>

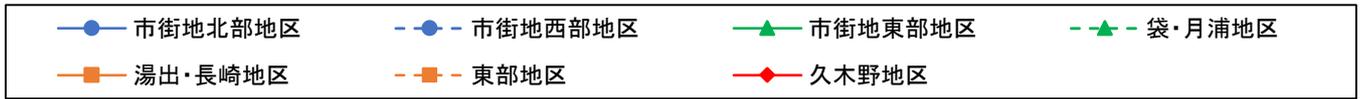
各項目の回答件数に以下の重みを乗じて合計し平均点を算出。

良くなった:1点、ややよくなった:0.5点、変わらない:0点、悪くなった:-1点

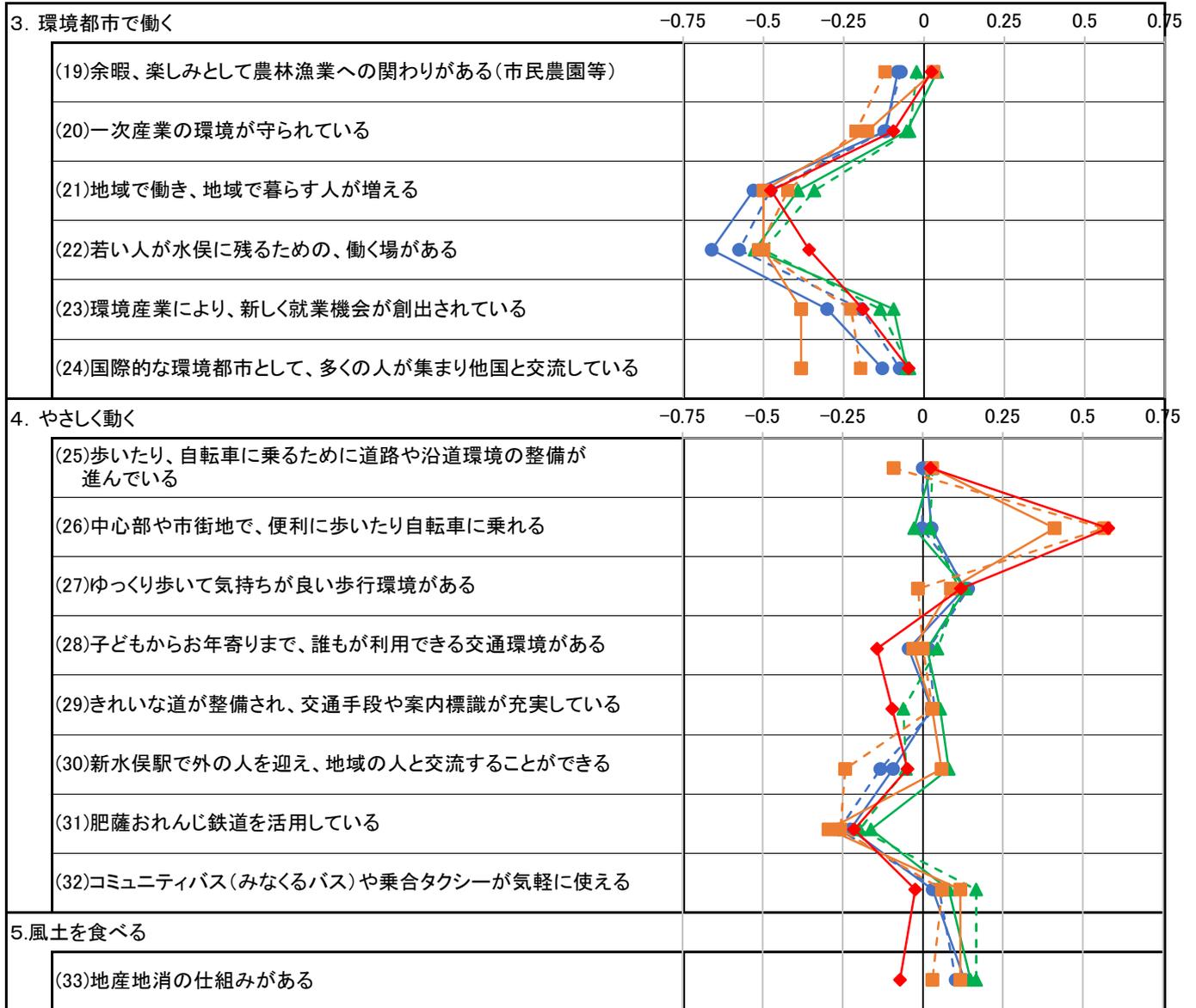


N=491





N=491



<分析>

- 全体で最も低くなった「(22)若い人が水俣に残るための、働く場がある」において、「市街地北部地区」「市街地西部地区」が他地区より比較的低くなっており、市街地であるほど満足度が低い傾向がみられる。
- 「(26)中心部や市街地で、便利に歩いたり自転車に乗れる」では市街地の3つの地区および「袋・月浦地区」と、それ以外の地区では大きく差が見受けられ、後者の方が満足度が高くなっている。
- 「久木野地区」では「(7)子どもたちが地域に愛着をもっている」「(14)学校と家庭、地域が連携し、地域ぐるみで子ども達を育てている」「(16)中心部で賑わいと元気を感ずることができる」が他地区と比較して満足度が高くなっており、一方で「(28)子どもからお年寄りまで、誰もが利用できる交通環境がある」「(33)地産地消の仕組みがある」が他地区と比較して低くなっている。

### 3. 日常生活についてお尋ねします。

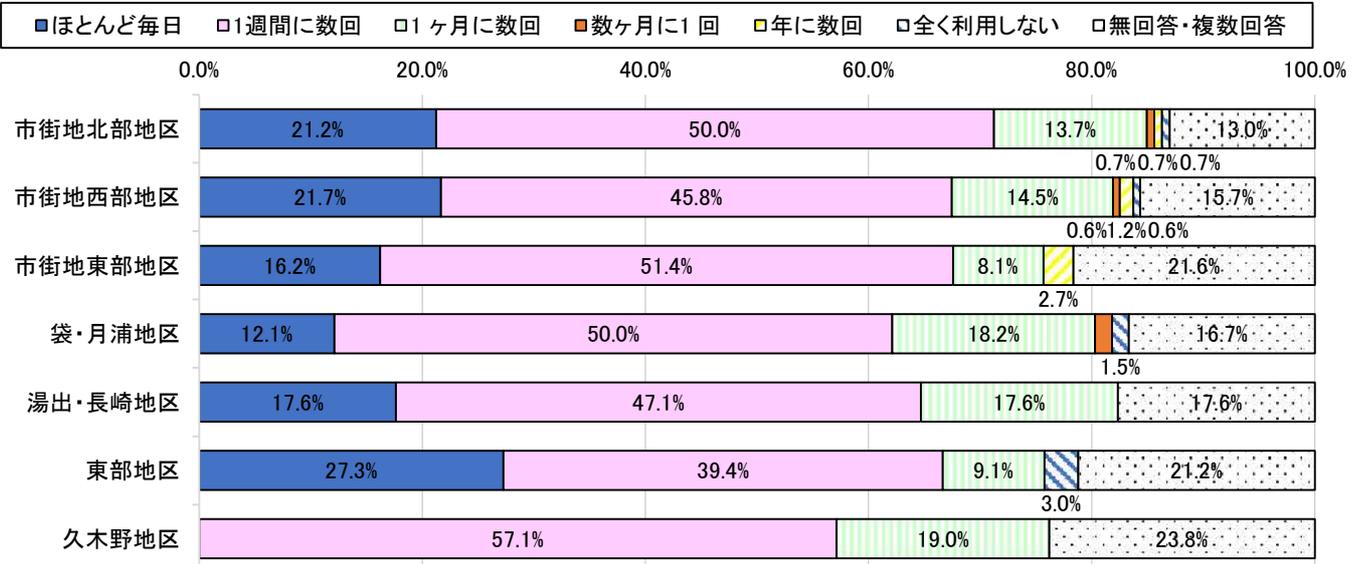
問8 あなたの日常生活の中で、以下のA～Fの各生活行動について、それぞれの「①利用頻度」、②「最も利用する施設」、③「移動手段(②までの主な手段)」を教えてください。①で「力」と回答した生活行動については、②③の回答は不要です。

#### <居住地別分析>

##### ①利用頻度

##### A) 生鮮食品や日常生活品の買い物

N=491

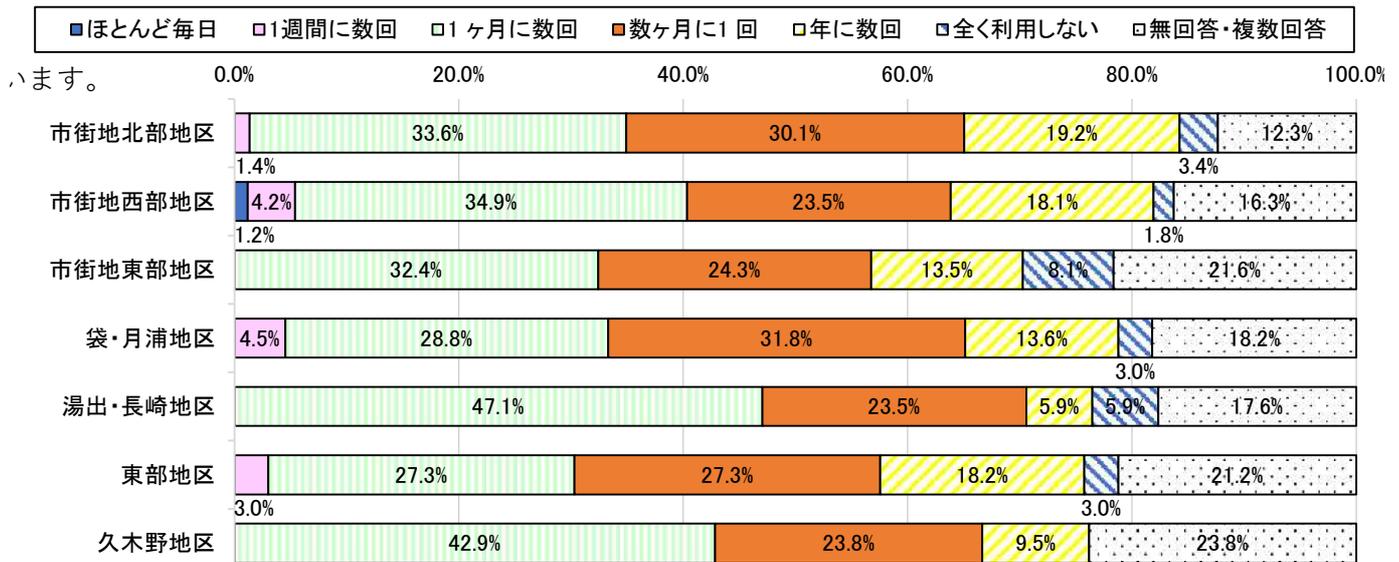


#### <分析>

○「1週間に数回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「市街地北部地区」で合わせて71.2%、次いで「市街地東部地区」が67.6%、「市街地西部地区」が67.5%の順となっており市街地に集中している。  
 ○一方で「1ヶ月に数回」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」で19.0%、次いで「袋・月浦地区」が18.2%、「湯出・長崎地区」が17.6%の順となっており郊外に集中している。

##### B) 病院・診療所などの医療施設

N=491

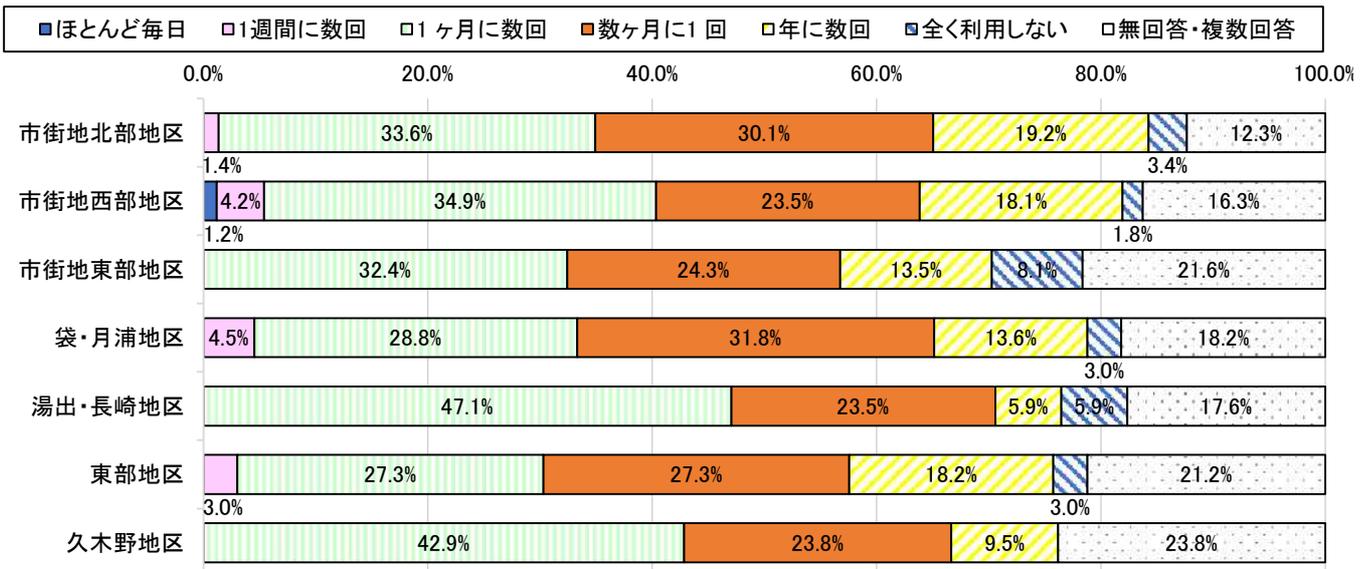


#### <分析>

○「1ヶ月に数回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」で合わせて47.1%、次いで「久木野地区」が42.9%、「市街地西部地区」が40.4%の順となっている。  
 ○一方で「年に数回」「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「市街地北部地区」で合わせて22.6%、次いで「市街地東部地区」が21.6%、「東部地区」が21.2%の順となっている。

### C) 外食

N=491

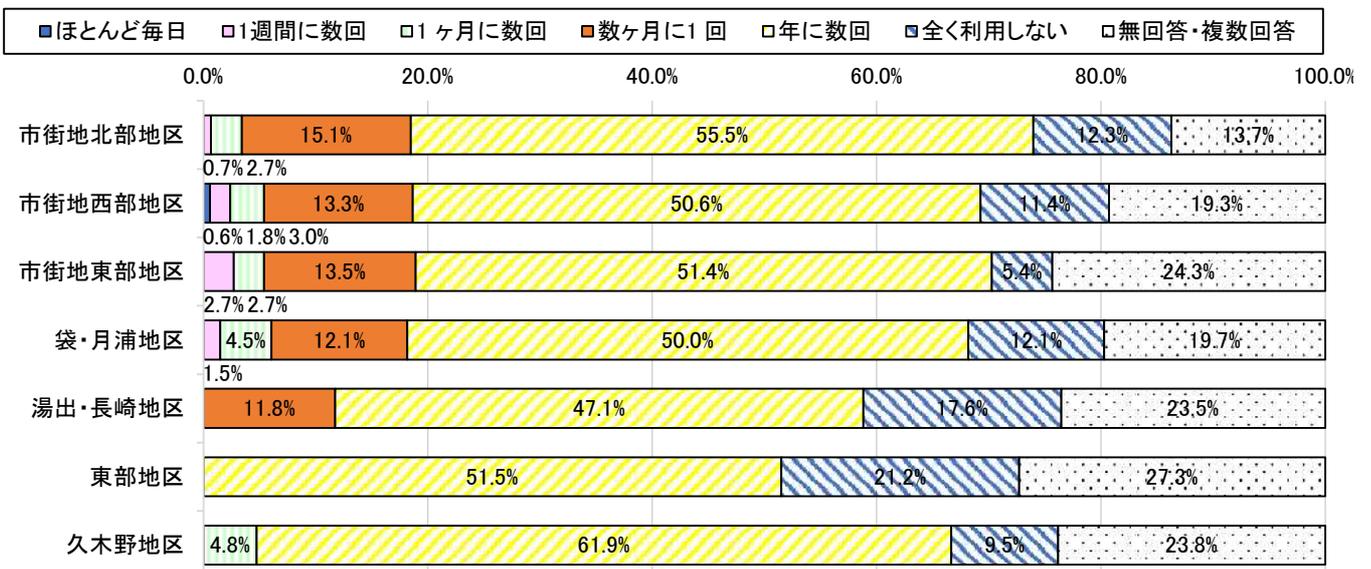


#### <分析>

○「1ヶ月に数回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「市街地西部地区」で合わせて37.9%、次いで「市街地北部地区」が35.6%、「湯出・長崎地区」が35.3%の順となっている。  
 ○一方で「年に数回」「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」で合わせて47.6%、次いで「袋・月浦地区」が33.4%、「東部地区」が33.3%の順となっている。

### D) 家具・家電などの買い回り品

N=491

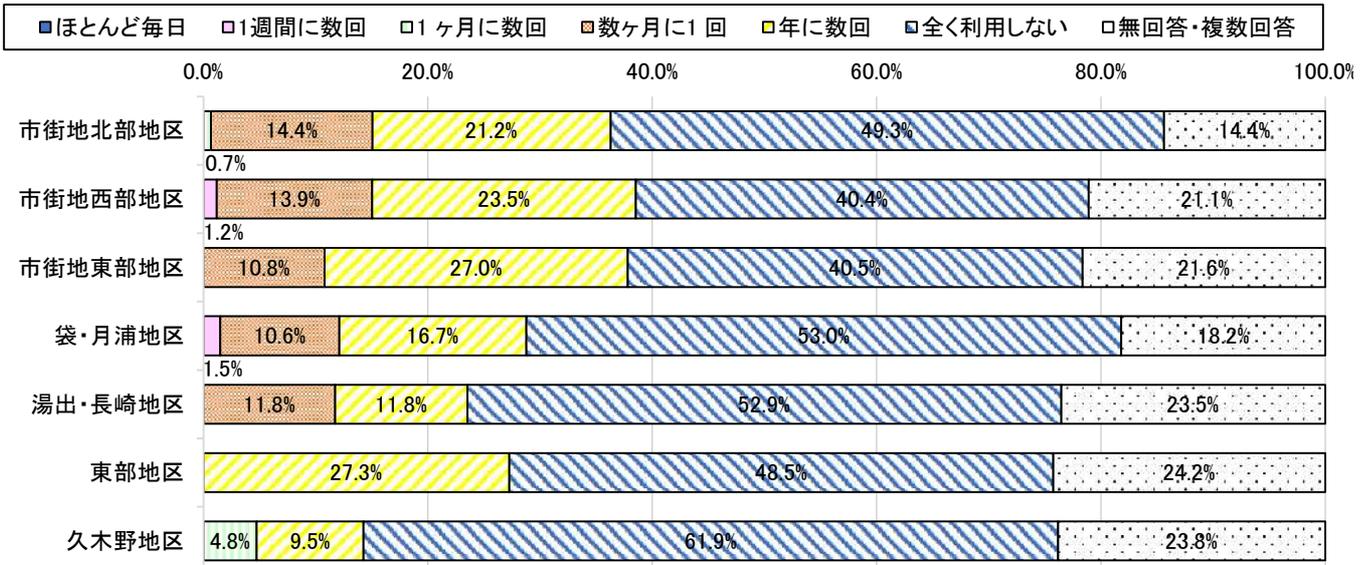


#### <分析>

○「数ヶ月に1回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「市街地東部地区」で合わせて18.9%、次いで「市街地西部地区」が18.7%、「市街地北部地区」が18.5%の順となっている。  
 ○一方で「年に数回」「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「東部地区」で合わせて72.7%、次いで「久木野地区」が71.4%、「市街地北部地区」が67.8%の順となっている。

### E) 映画・コンサートなどの娯楽

N=491

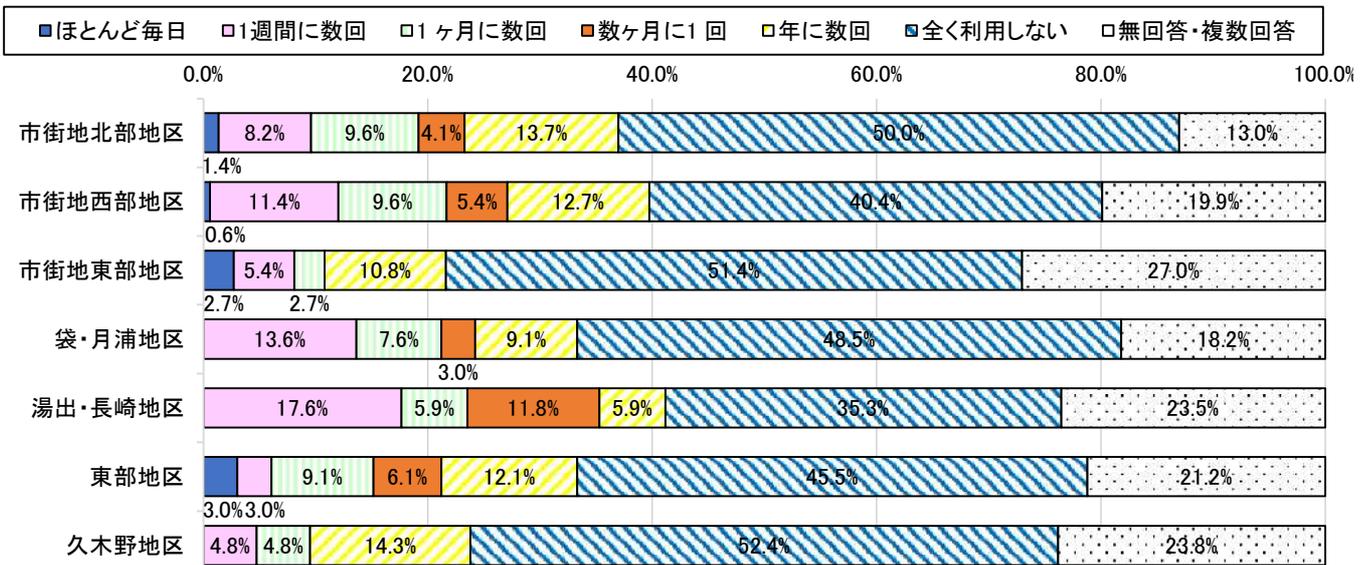


#### <分析>

○「数ヶ月に1回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「市街地北部地区」と「市街地西部地区」が同率で合わせて15.1%、次いで「袋・月浦地区」が12.1%、「湯出・長崎地区」が11.8%の順となっている。  
 ○一方で「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」で61.9%、次いで「袋・月浦地区」が53.0%、「湯出・長崎地区」が52.9%の順となっている。

### F) スポーツや屋外レクリエーションなどの活動

N=491



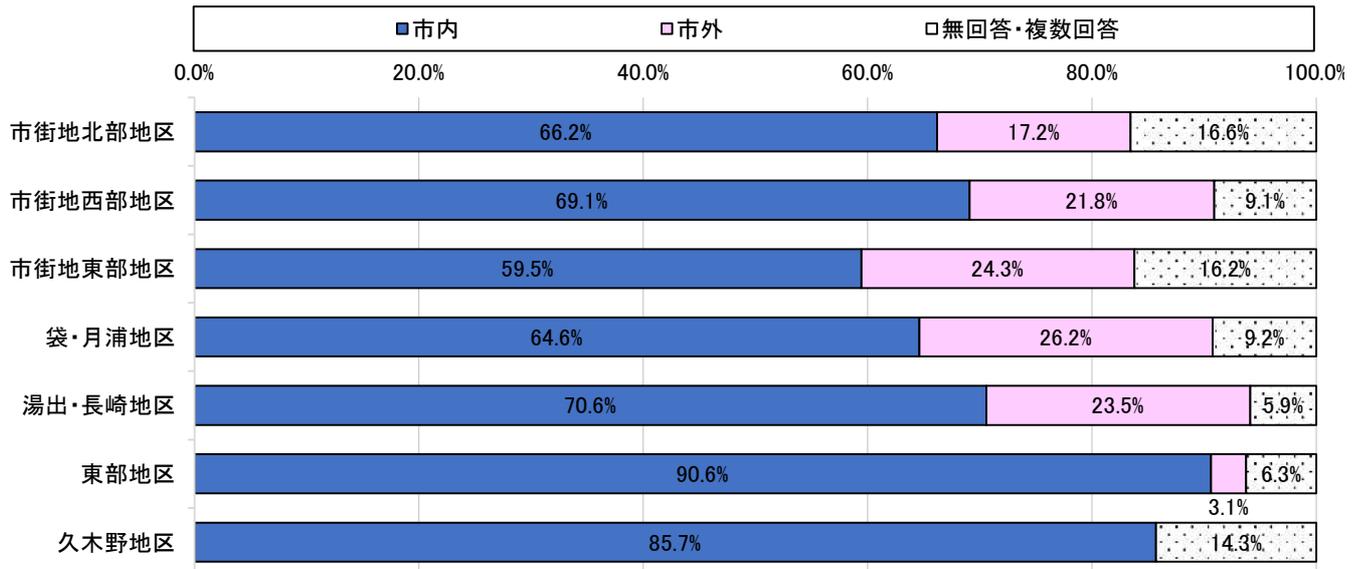
#### <分析>

○「数ヶ月に1回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」で35.3%、次いで「市街地西部地区」が27.0%、「袋・月浦地区」が24.2%の順となっている。  
 ○一方で「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」で52.4%、次いで「市街地東部地区」が51.4%、「市街地北部地区」が50.0%の順となっている。

## ②最も利用する施設

### A) 生鮮食品や日常生活品の買い物

N=487

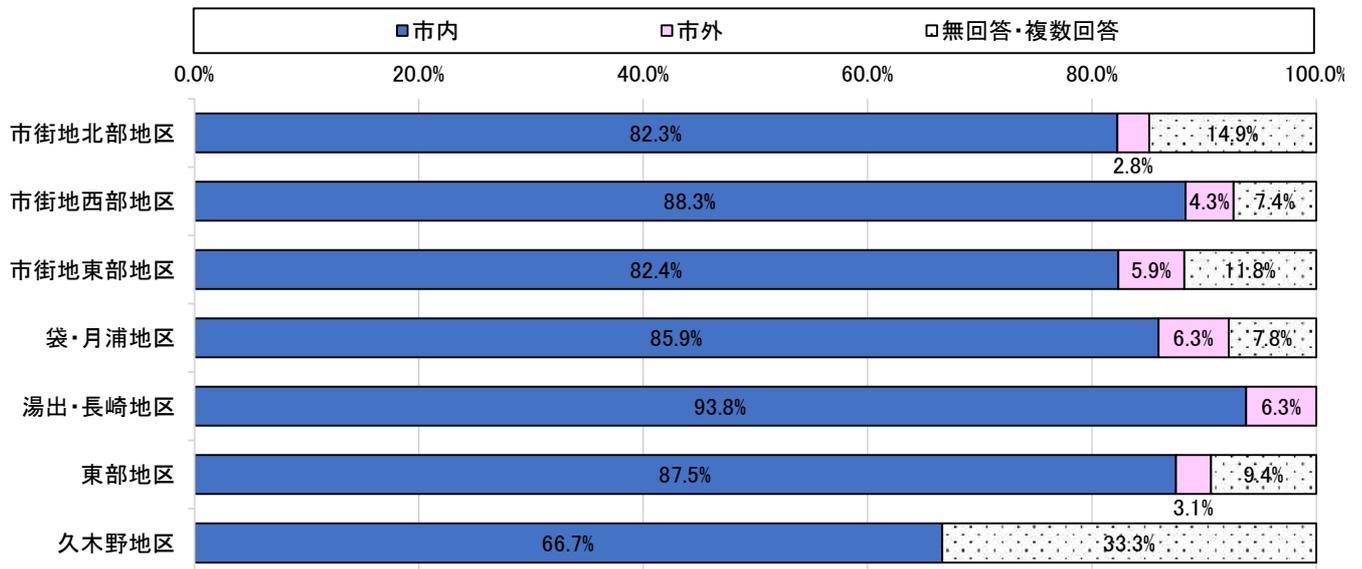


#### <分析>

- 「市内」と回答した割合が最も多いのは「東部地区」で90.6%と9割を超えている。次いで「久木野地区」が85.7%、「湯出・長崎地区」が70.6%の順となっており郊外に集中している。
- 一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「袋・月浦地区」で26.2%、次いで「市街地東部地区」が24.3%、「湯出・長崎地区」が23.5%の順となっている。

### B) 病院・診療所などの医療施設

N=476

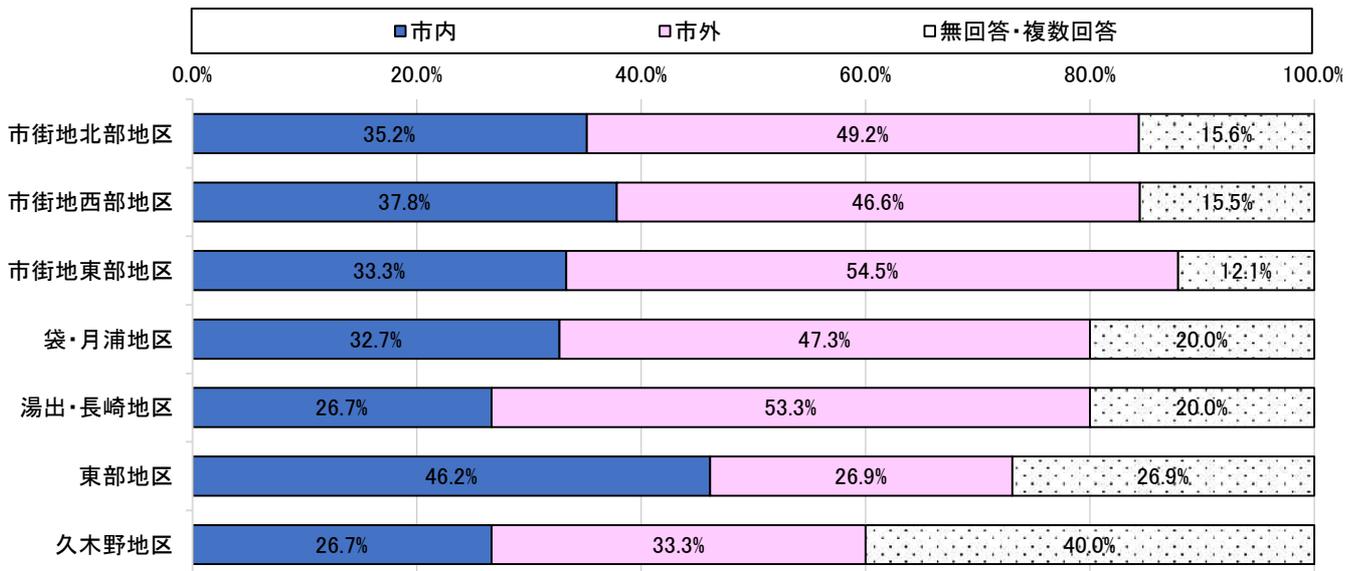


#### <分析>

- 「市内」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」で93.8%と9割を越えている。次いで「市街地西部地区」が88.3%、「東部地区」が87.5%の順となっている。
- 一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「袋・月浦地区」と「湯出・長崎地区」が同率で6.3%、「市街地東部地区」が5.9%、「市街地西部地区」が4.3%の順となっている。

### C) 外食

N=425

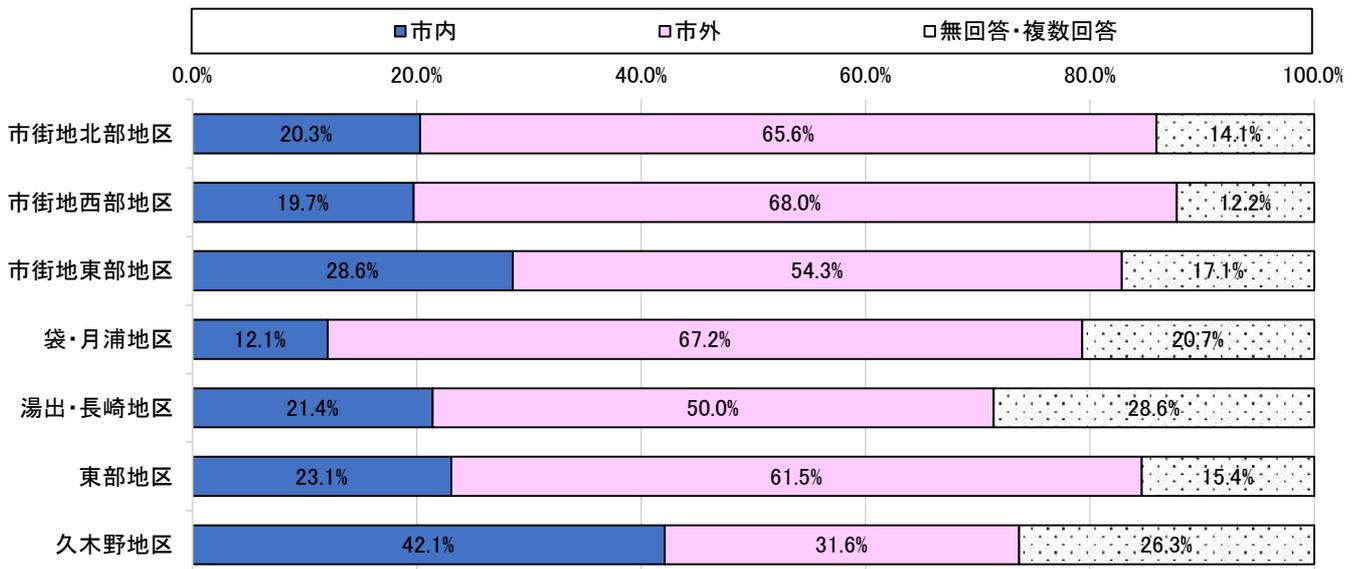


#### <分析>

○「市内」と回答した割合が最も多いのは「東部地区」で46.2%、次いで「市街地西部地区」が37.8%、「市街地北部地区」が35.2%の順となっている。  
 ○一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「市街地東部地区」で54.5%、次いで「湯出・長崎地区」が53.3%、「市街地北部地区」が49.2%の順となっている。

### D) 家具・家電などの買い回り品

N=432

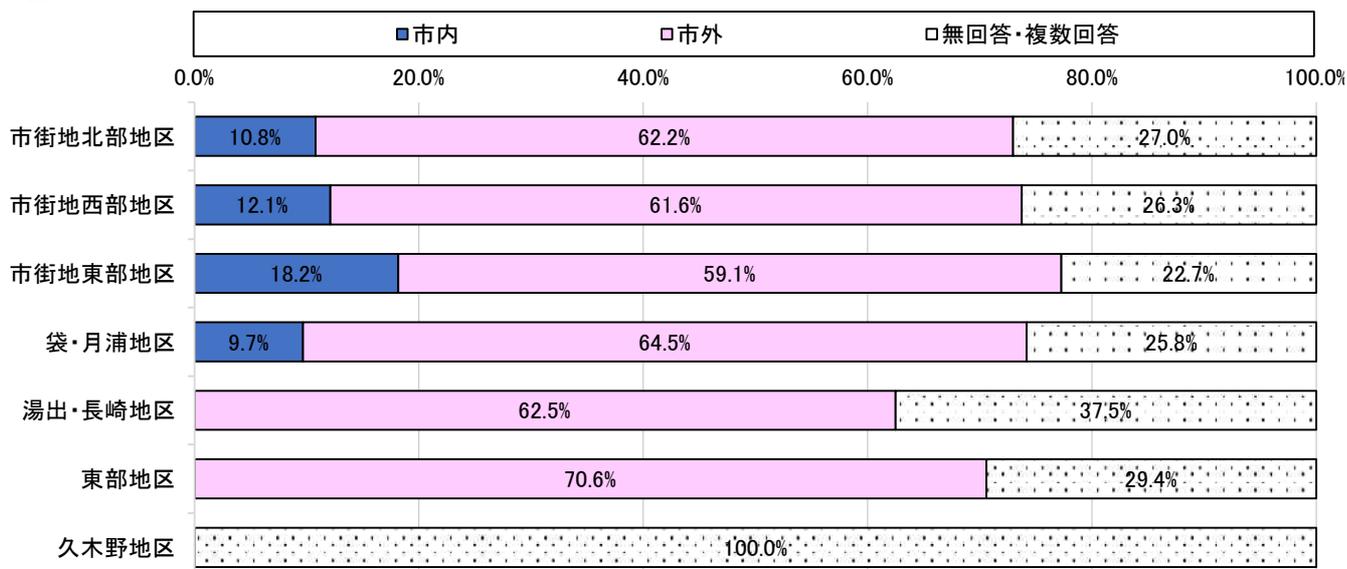


#### <分析>

○「市内」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」で42.1%と4割以上を占めている。次いで「市街地東部地区」が28.6%、「東部地区」が23.1%の順となっている。  
 ○一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「袋・月浦地区」で67.2%、次いで「市街地西部地区」が68.0%、「市街地北部地区」が65.6%の順となっている。

### E) 映画・コンサートなどの娯楽

N=264

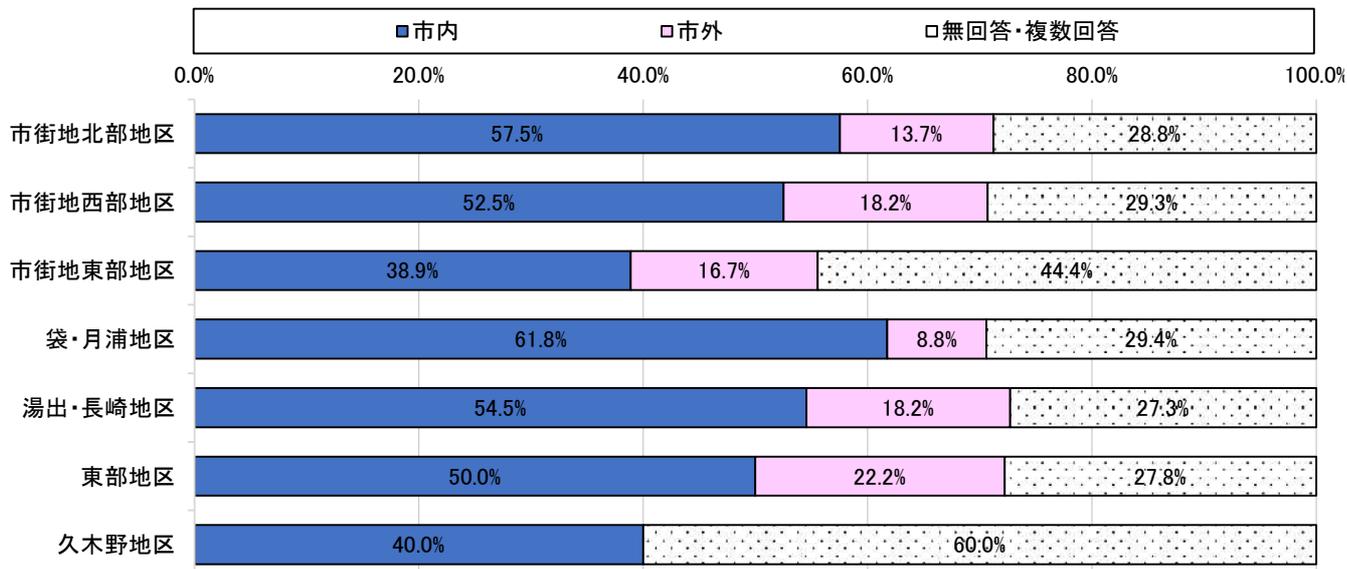


#### <分析>

○「市内」と回答した割合が最も多いのは「市街地東部地区」で18.2%、次いで「市街地西部地区」が12.1%、「市街地北部地区」が10.8%の順となっており市街地に集中している。  
 ○一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「東部地区」で70.6%、次いで「袋・月浦地区」が64.5%、「湯出・長崎地区」が62.5%の順となっている。

### F) スポーツや屋外レクリエーションなどの活動

N=268



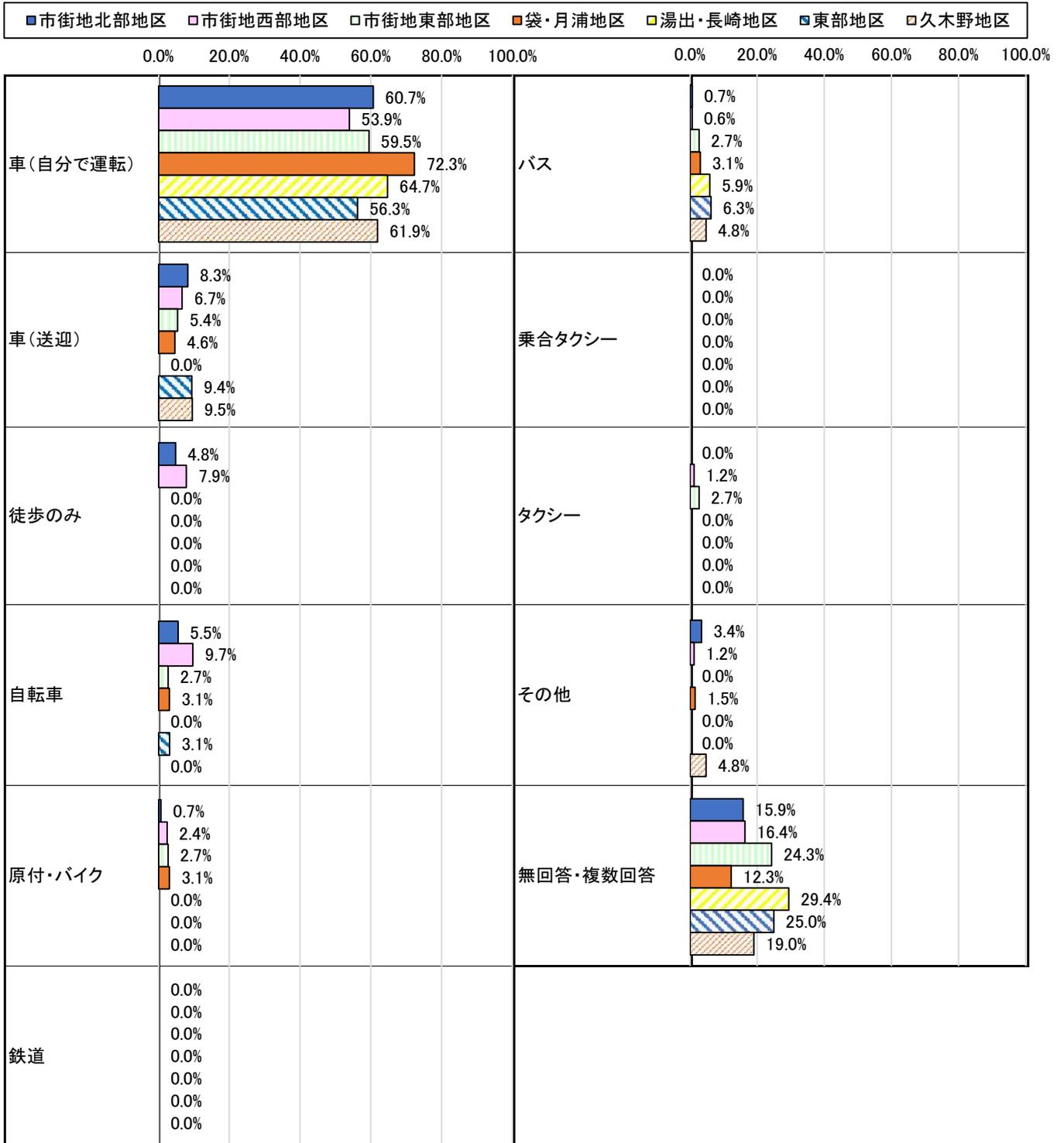
#### <分析>

○「市内」と回答した割合が最も多いのは「袋・月浦地区」で61.8%、次いで「市街地北部地区」が57.5%、「湯出・長崎地区」が54.5%の順となっている。  
 ○一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「東部地区」で22.2%、次いで「市街地西部地区」と「湯出・長崎地区」が同率で18.2%、「市街地東部地区」が16.7%の順となっている。

### ③移動手段

#### A) 生鮮食品や日常生活品の買い物

N=487

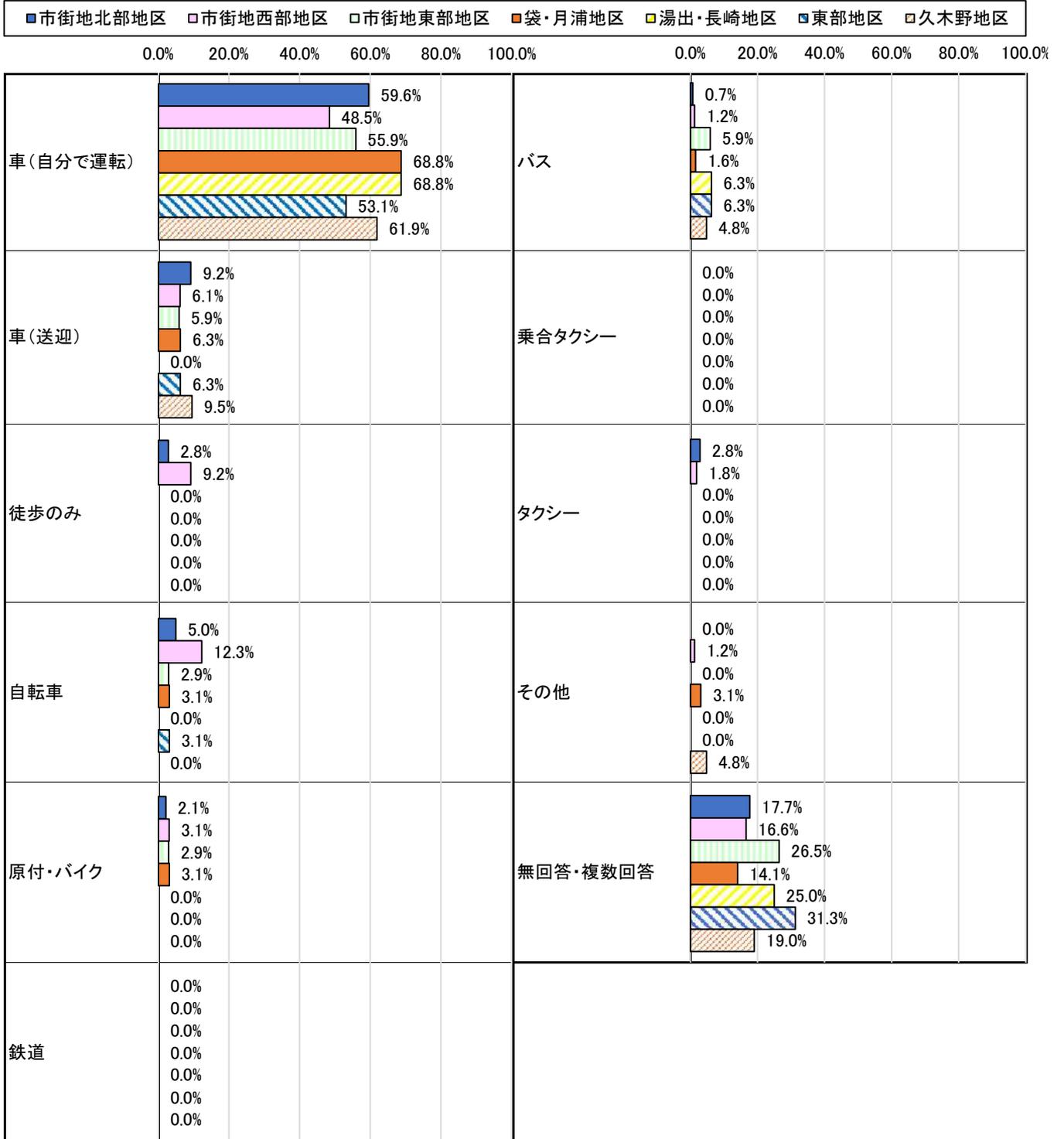


#### <分析>

- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「袋・月浦地区」で72.3%と4分の3弱が回答している。次いで「湯出・長崎地区」が64.7%、「久木野地区」が61.9%の順となり郊外に集中している。
- 「徒歩のみ」「自転車」と回答した割合は「市街地北部地区」「市街地西部地区」に多く、「車(送迎)」「バス」と回答した割合は「東部地区」「久木野地区」を中心とした郊外に多くなっている。

B) 病院・診療所などの医療施設

N=476

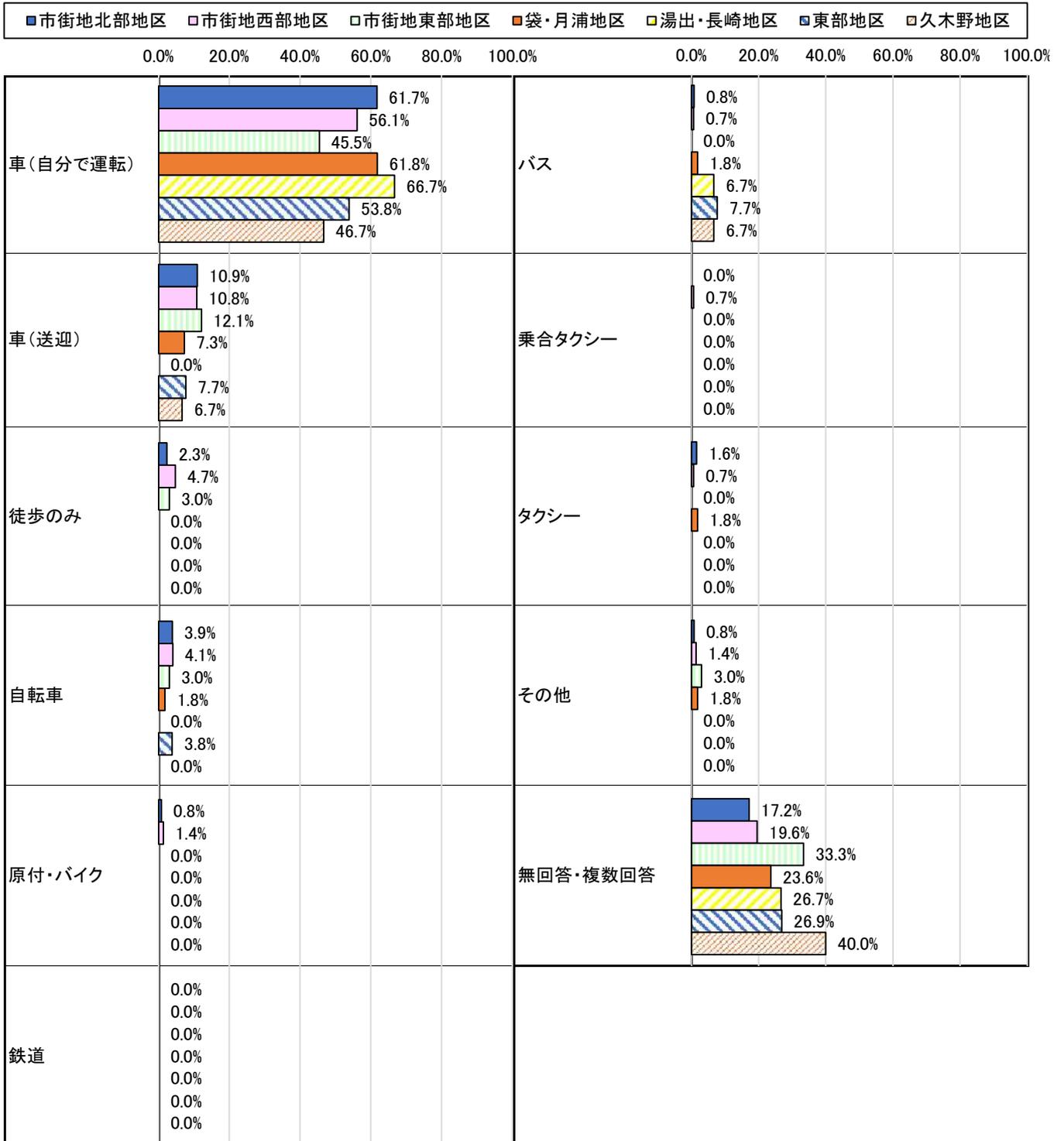


<分析>

- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「袋・月浦地区」と「湯出・長崎地区」が同率で68.8%、次いで「久木野地区」が61.9%、「市街地北部地区」が59.6%の順となっている。
- 「車(送迎)」では「市街地北部地区」「久木野地区」で、「徒歩のみ」「自転車」では「市街地西部地区」の回答が多くなっている。

C) 外食

N=425



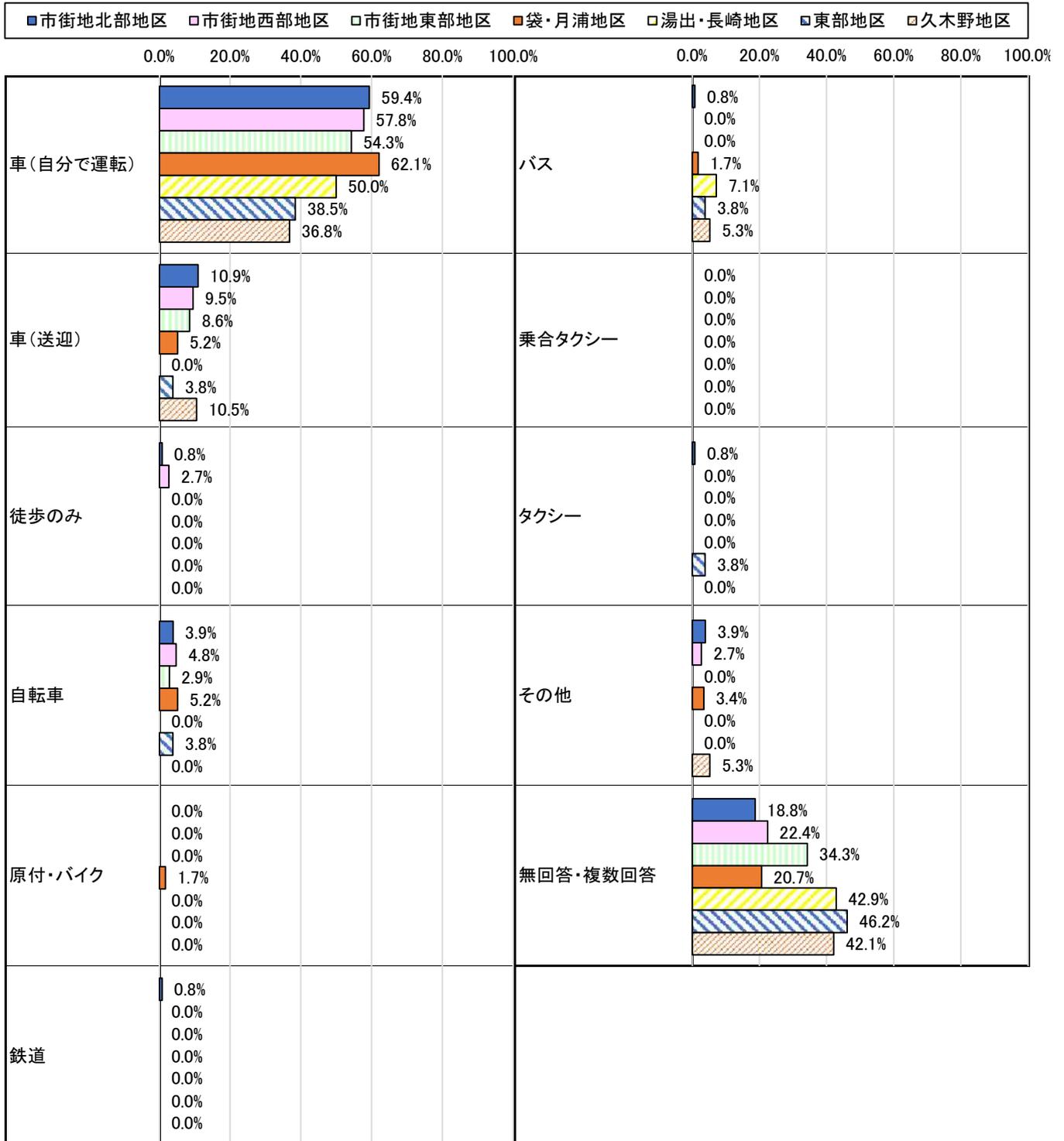
<分析>

○「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」で66.7%と3分の2を占めている。次いで「袋・月浦地区」が61.8%、「市街地北部地区」が61.7%の順となっている。

○また最も低いのは「市街地東部地区」で45.5%、次いで「久木野地区」が46.7%、「東部地区」53.8%の順となっている。

## D) 家具・家電などの買い回り品

N=432

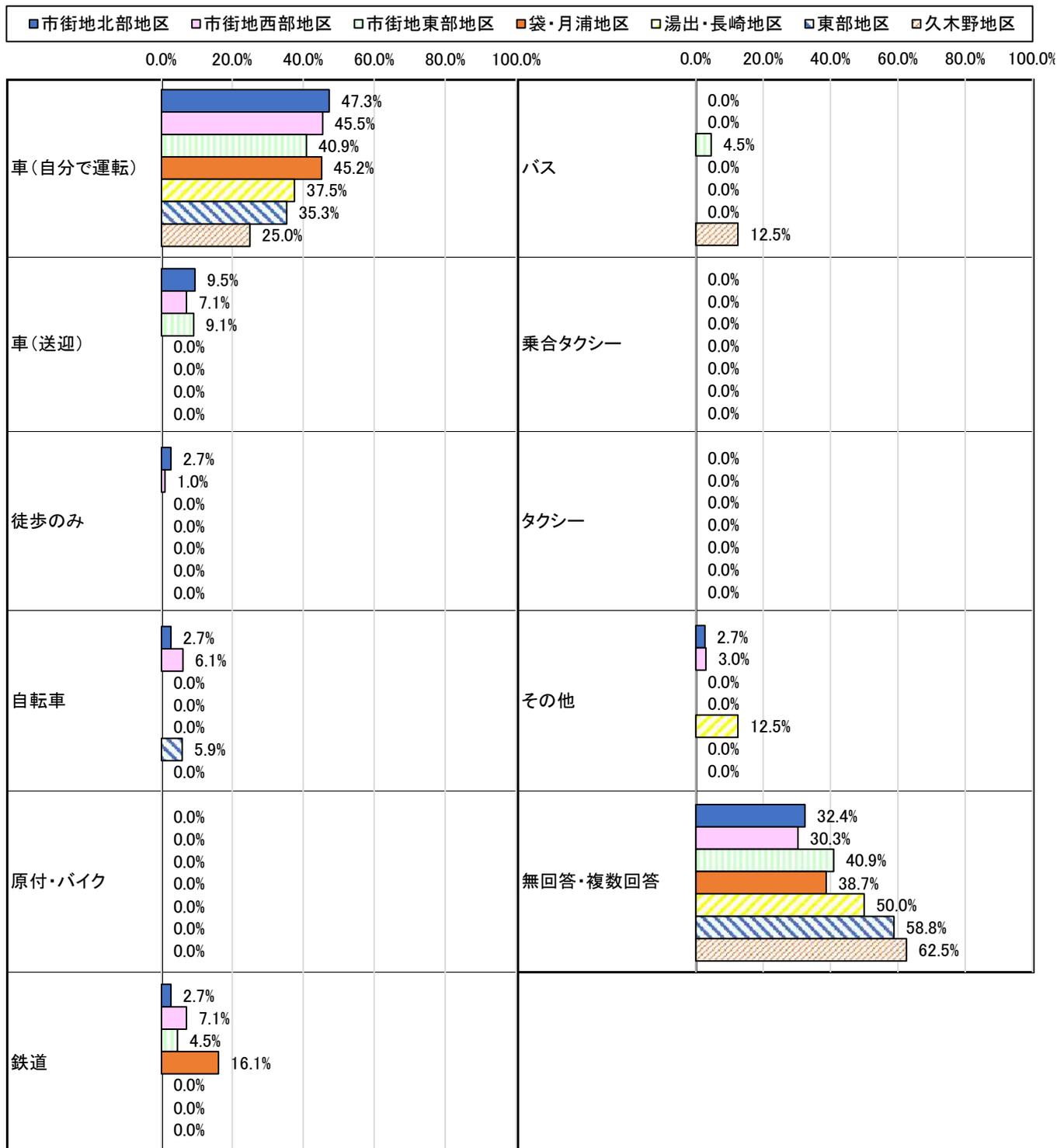


### <分析>

- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「袋・月浦地区」で62.1%、次いで「市街地北部地区」が59.4%、「市街地西部地区」が57.8%の順となっており「袋・月浦地区」以外では市街地に集中している。
- またそれ以外で他の居住地と比較して多いのは「自転車」で「袋・月浦地区」が5.2%、「バス」で「湯出・長崎地区」が7.1%、「東部地区」で「タクシー」が3.8%となっている。

### E) 映画・コンサートなどの娯楽

N=264

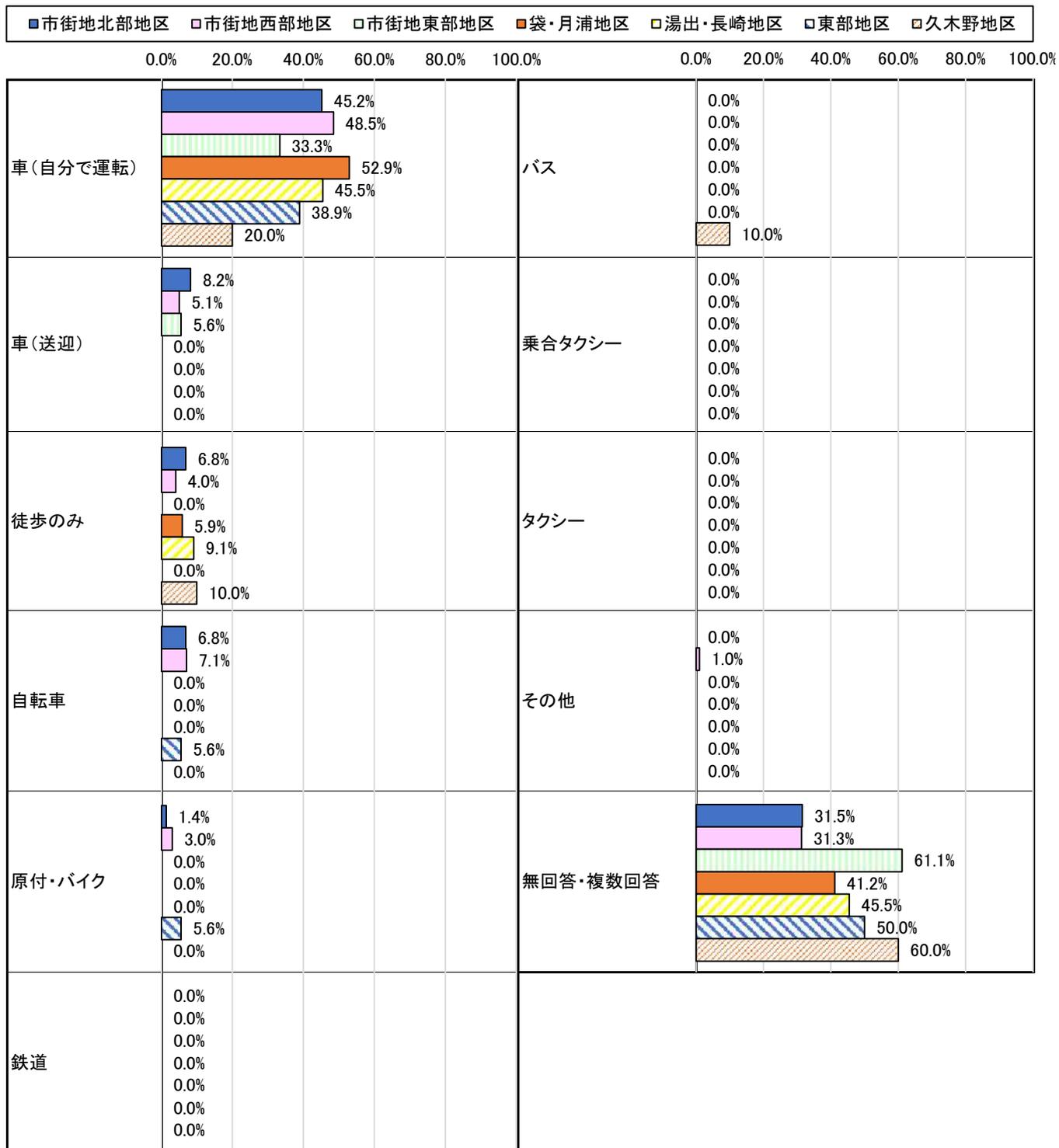


#### <分析>

- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「市街地北部地区」が47.3%、次いで「市街地西部地区」が45.5%、「袋・月浦地区」が45.2%、の順となっており「袋・月浦地区」以外では市街地に集中している。
- 「鉄道」と回答した割合が最も多いのは「袋・月浦地区」で16.1%、次いで「市街地西部地区」が7.1%、「市街地東部地区」が4.5%の順となっている。

F) スポーツや屋外レクリエーションなどの活動

N=268



<分析>

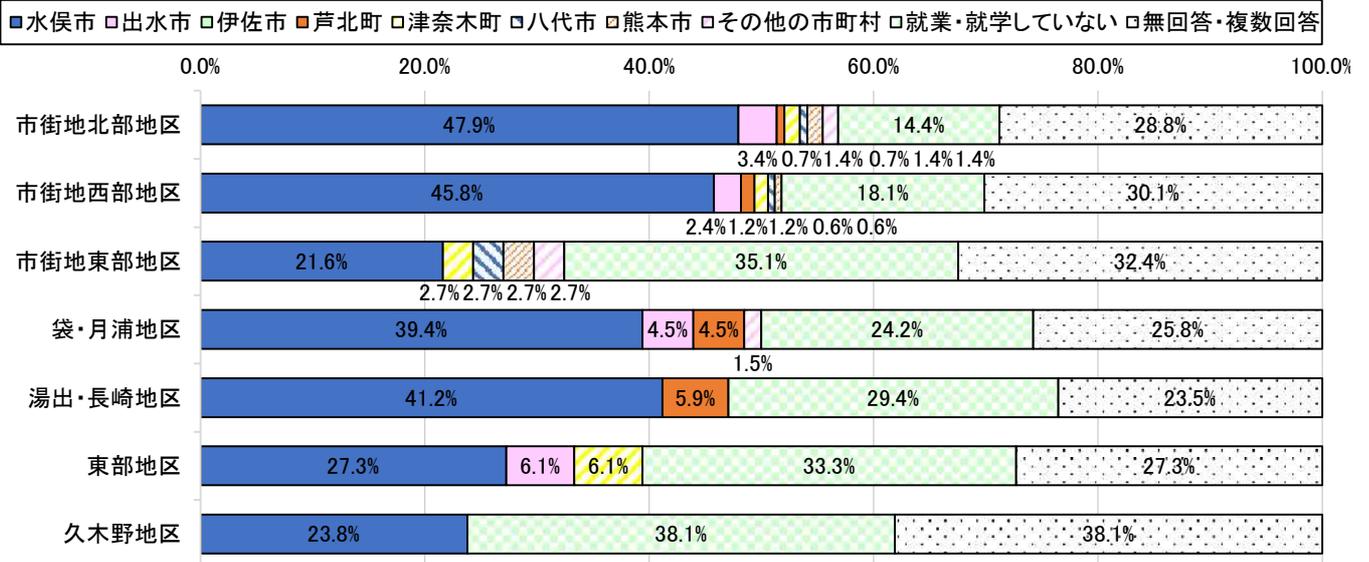
- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「袋・月浦地区」で52.9%、次いで「市街地西部地区」が48.5%、「湯出・長崎地区」が45.5%の順となっており「袋・月浦地区」以外ではすべて半数以下となっている。
- 「徒歩のみ」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」で10.0%、次いで「湯出・長崎地区」が9.1%、「市街地北部地区」が6.8%の順となっている。

問9 通勤・通学についてお聞きます。

<居住地別分析>

(1)通勤・通学の場所はどこですか。

N=491

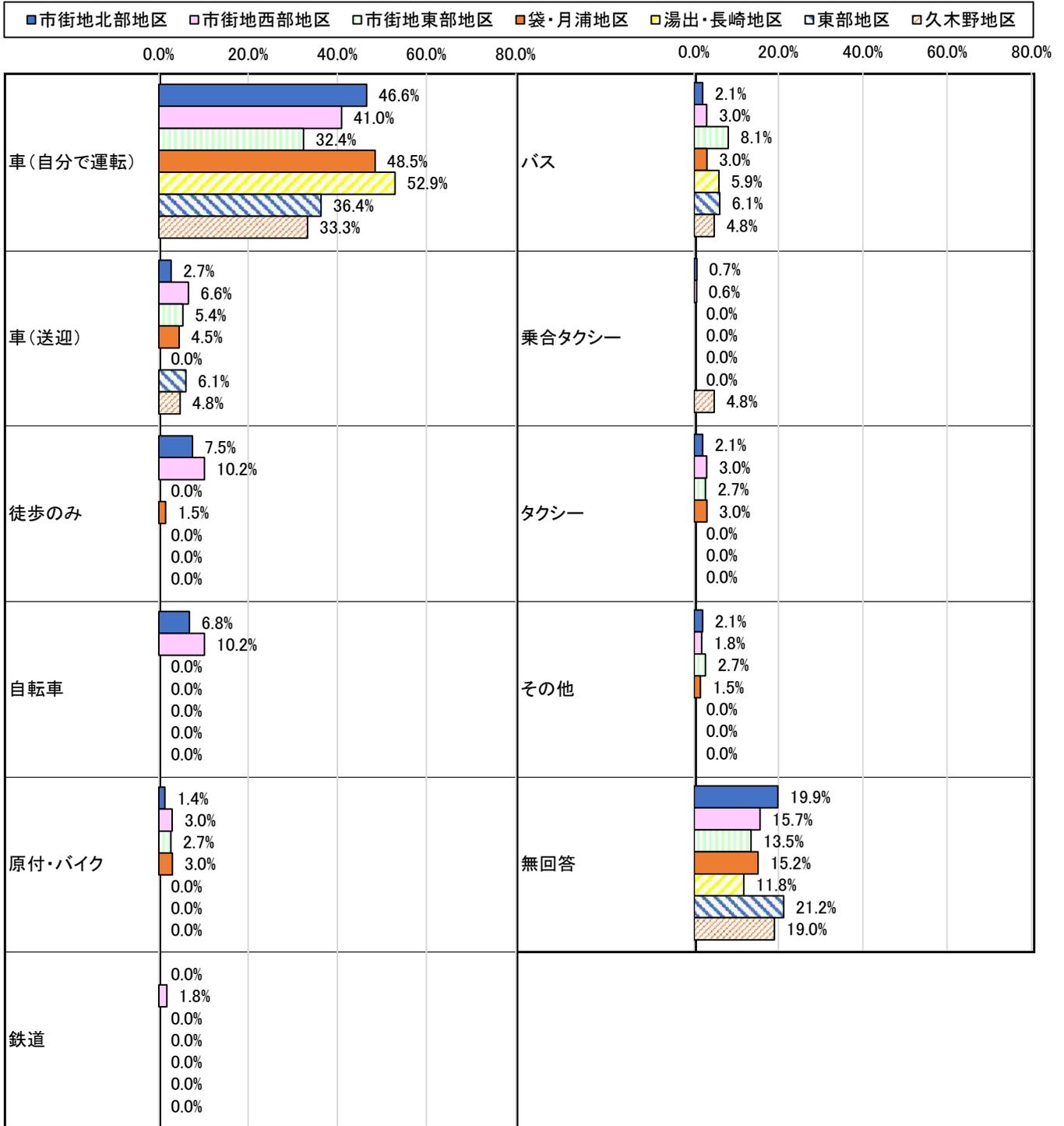


<分析>

○「水俣市」と回答した割合が最も多いのが「市街地北部地区」で47.9%、次いで「市街地西部地区」が45.8%、「湯出・長崎地区」が41.2%の順となっている。  
 ○それ以外では「東部地区」で「出水市」「津奈木町」が同率で6.1%ずつ、「湯出・長崎地区」で「芦北町」が5.9%、「袋・月浦地区」で「出水市」「芦北町」が同率で4.5%ずつの割合となっている。

(2)主な移動手段は何ですか。

N=387 複数回答



<分析>

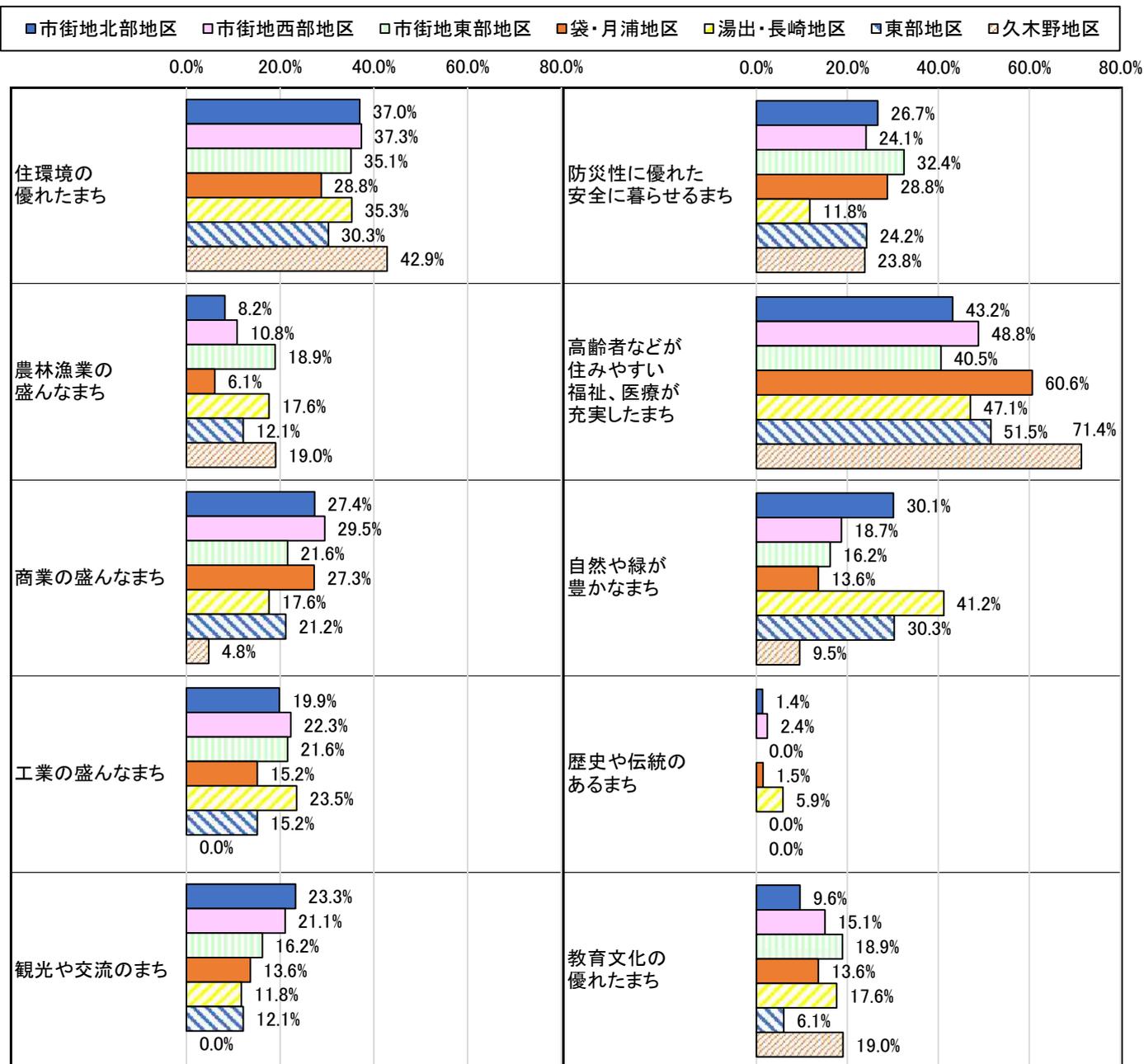
- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのが「湯出・長崎地区」で52.9%、次いで「袋・月浦地区」が48.5%、「市街地北部地区」が46.6%の順となっている。
- また「市街地東部地区」では「車(自分で運転)」と回答した割合が最も低く、一方で「バス」と回答した割合が最も多くなっている。
- さらに「市街地西部地区」では「車(送迎)」「徒歩のみ」「自転車」と回答した割合が多くなっている。

## 4. 将来(おおむね20年後)の水俣市全体のことについてお尋ねします。

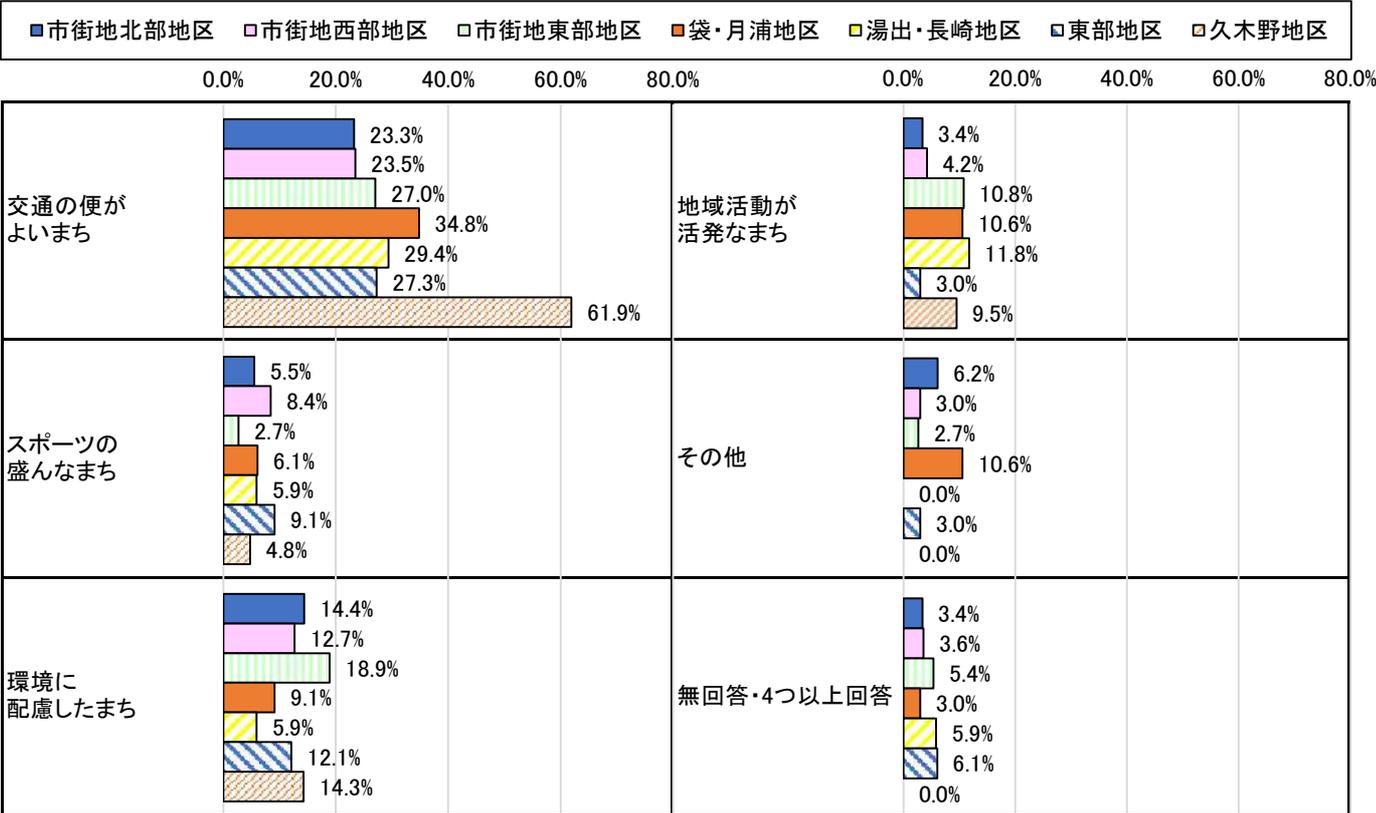
問11 将来、水俣市をどんなまちにしたいと思いますか。

### <居住地別分析>

N=491 3つまで回答



N=491 3つまで回答



<分析>

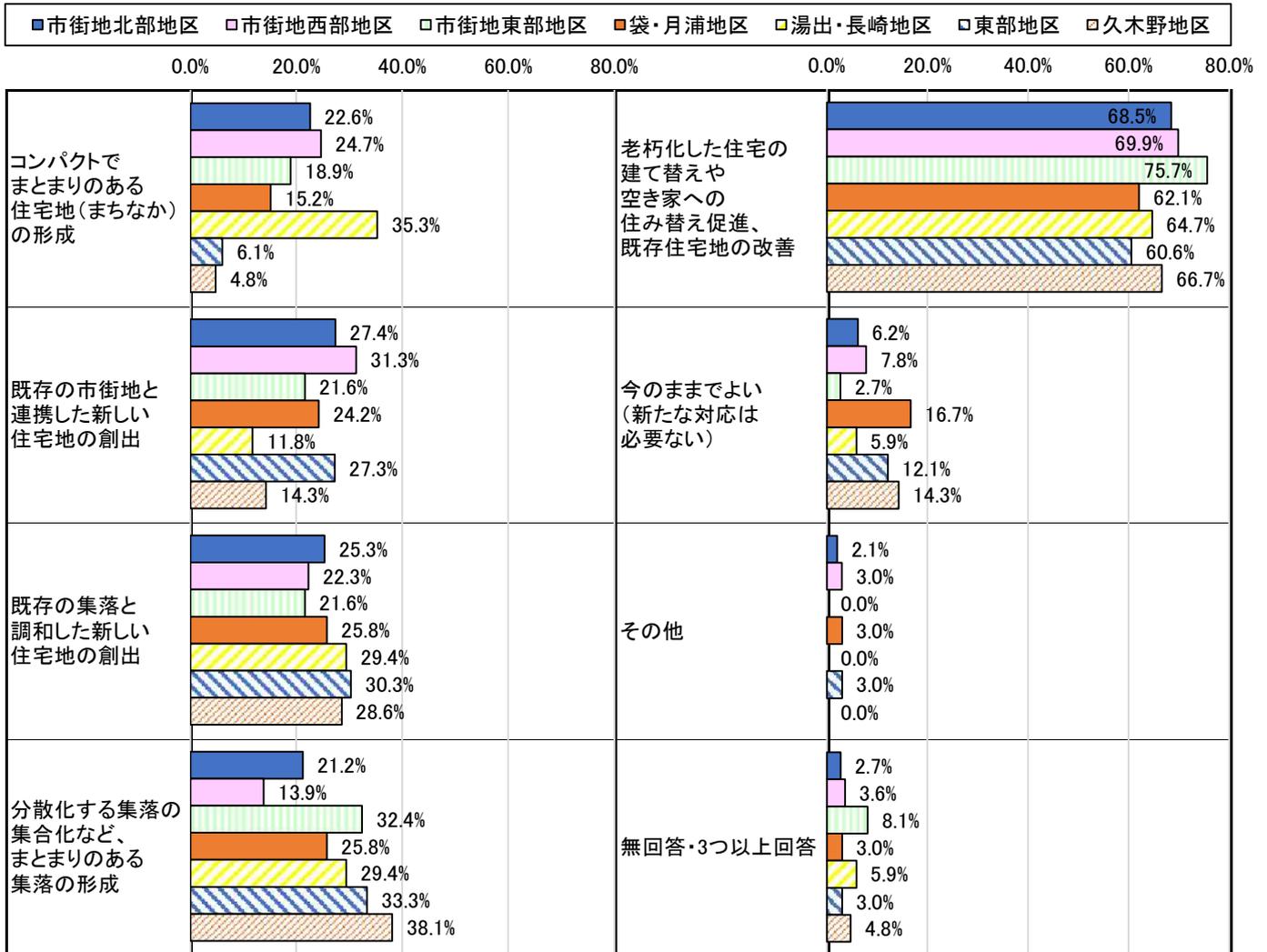
- 「久木野地区」では「住環境の優れたまち」「高齢者などが住みやすい福祉、医療が充実したまち」「交通の便がよいまち」と回答した割合が他地区と比較して多くなっている。
- 「袋・月浦地区」でも「高齢者などが住みやすい福祉、医療が充実したまち」「交通の便がよいまち」と回答した割合が多くなっている。
- 「湯出・長崎地区」では「自然や緑が豊かなまち」「工業の盛んなまち」「地域活動が活発なまち」と回答した割合が多くなっている。

問12 次の①～⑨について、今後、特に重要だと思うものはどれですか。

<居住地別分析>

①住宅地について

N=491 2つまで回答

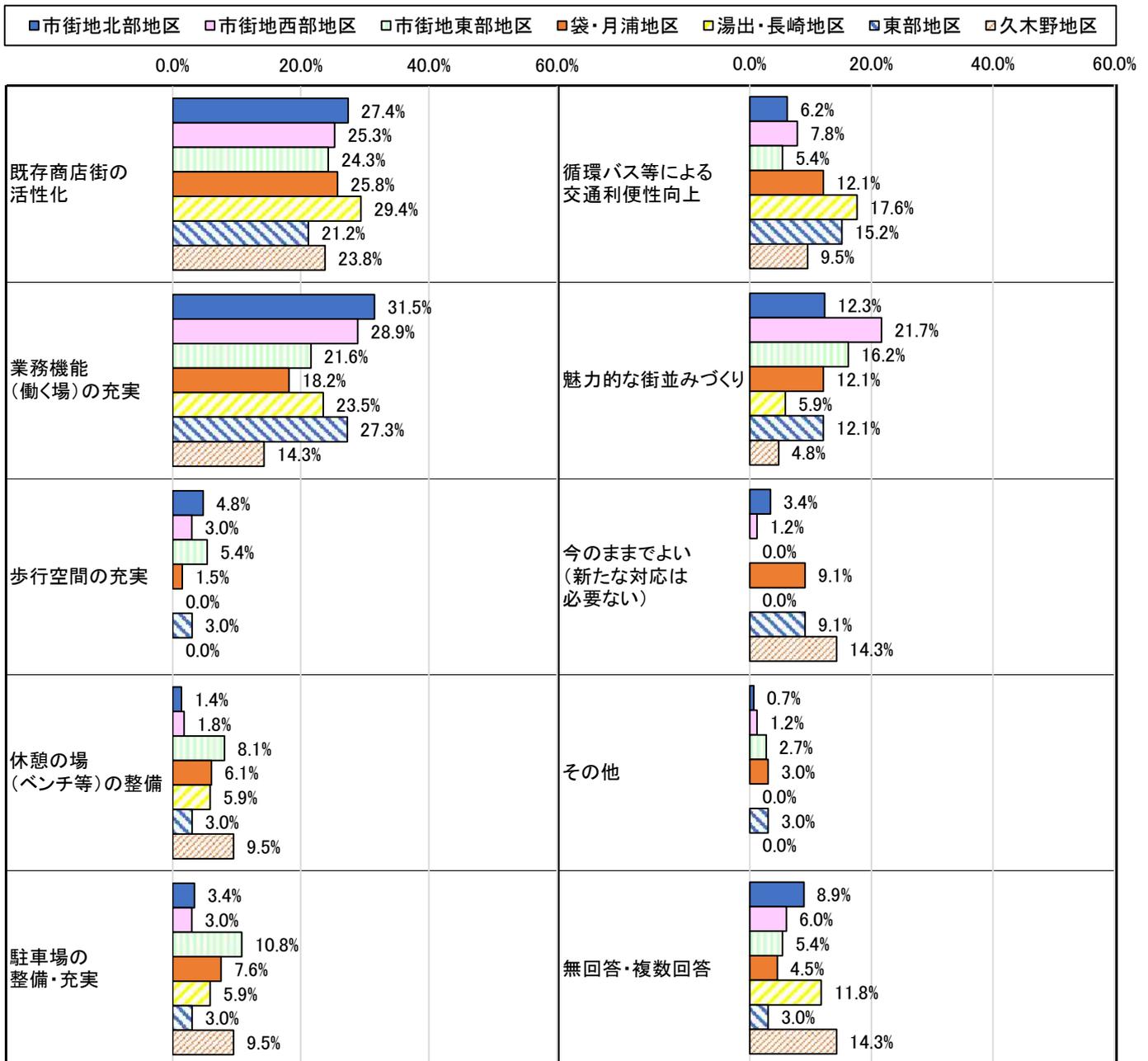


<分析>

- 「コンパクトでまとまりのある住宅地(まちなか)の形成」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」で3割を越えている。
- 「分散化する集落の集合化など、まとまりのある集落の形成」では「久木野地区」が最も多く(38.1%)、次いで「東部地区」(33.3%)、「市街地東部地区」(32.4%)の順となっていて、比較的郊外の地域で多い傾向にある。
- 「老朽化した住宅の建て替えや空き家への住み替え促進、既存住宅地の改善」では「市街地東部地区」が最も多く(75.7%)、次いで「市街地西部地区」(69.9%)、「市街地北部地区」(68.5%)の順となっていて、特に市街地で多い傾向にある。

## ②市中心部の商業地について

N=491

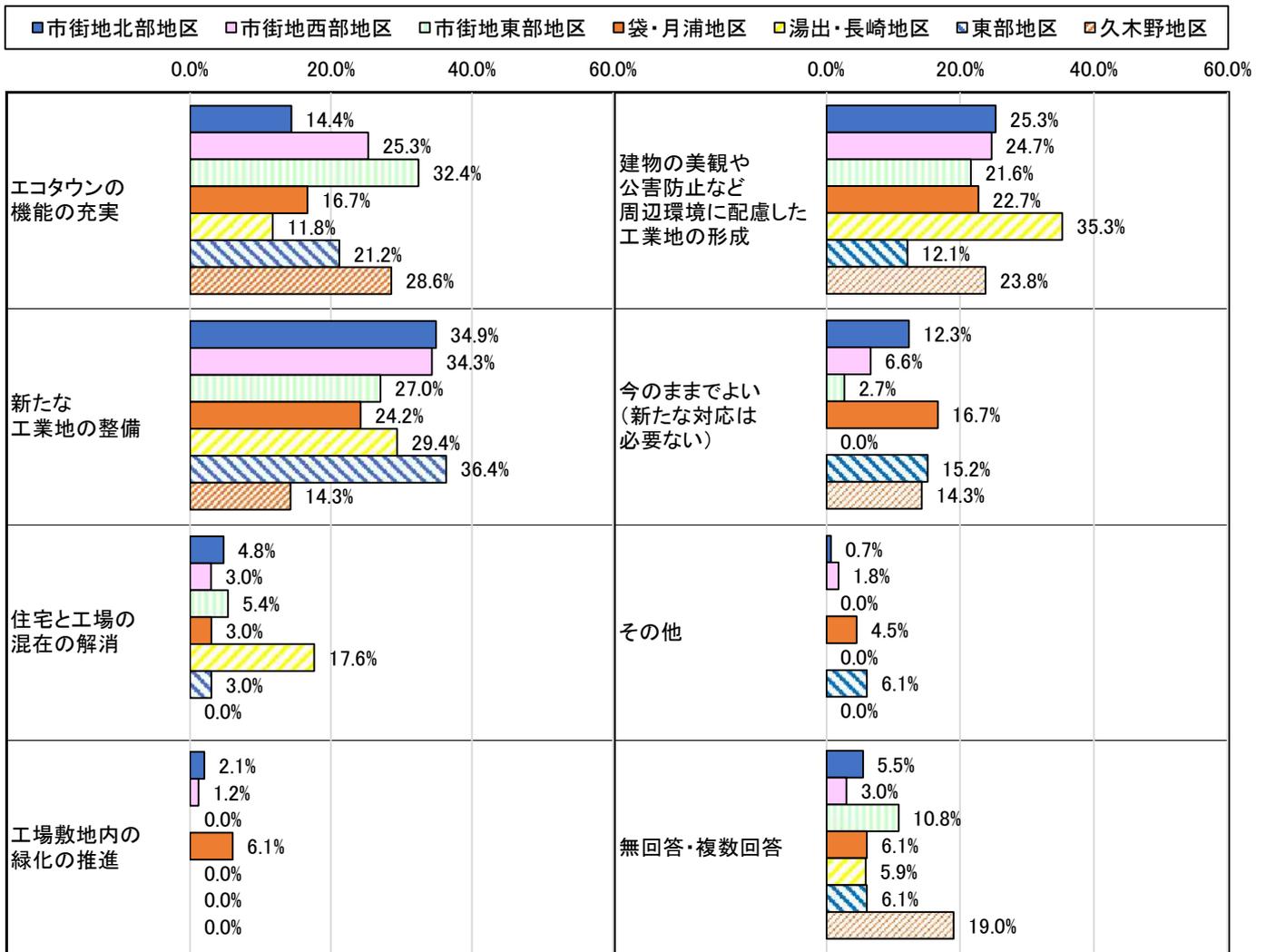


### <分析>

- 「魅力的な街並みづくり」と回答した割合が多い上位3地区は「市街地北部地区」「市街地西部地区」「市街地東部地区」となっており、市街地に集中している。
- 「休憩の場(ベンチ等)の整備」「駐車場の整備・充実」と回答した割合が最も多いのは「市街地東部地区」(それぞれ8.1%と10.8%)で、次いで「袋・月浦地区」(6.1%と7.6%)、「湯出・長崎地区」(5.9%と5.9%)の順となっており、上位3つの居住地が一致している。
- 「循環バス等による交通利便性向上」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」(17.6%)で、次いで「東部地区」(15.2%)、「袋・月浦地区」(12.1%)の順となっており、郊外に集中している。

### ③産業・工業地について

N=491

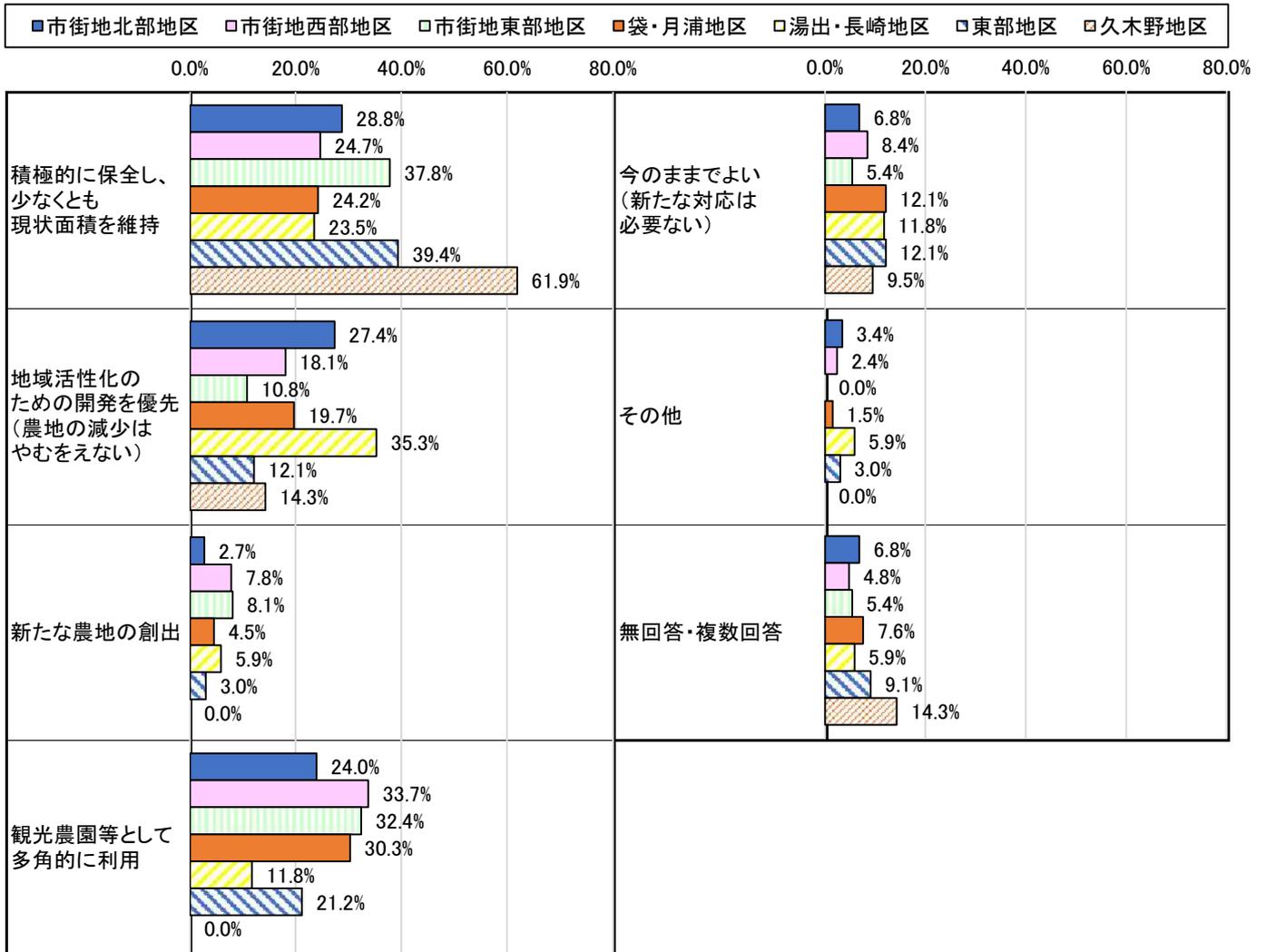


#### <分析>

- 「新たな工業地の整備」と回答した割合が最も多いのは「東部地区」(36.4%)で、次いで「市街地北部地区」(34.9%)、「市街地西部地区」(34.3%)の順となっており、上位3つとも3割を超えている。
- 「住宅と工場の混在の解消」「建物の美観や公害防止など周辺環境に配慮した工業地の形成」と回答した割合が最も多いのはいずれも「湯出・長崎地区」で、他の居住地と比較して突出して多くなっている。
- また「今のままでよい(新たな対応は必要ない)」と回答した割合は各居住地で一定数存在するが、「湯出・長崎地区」のみ0.0%となっている。

#### ④農地の保全・活用について

N=491

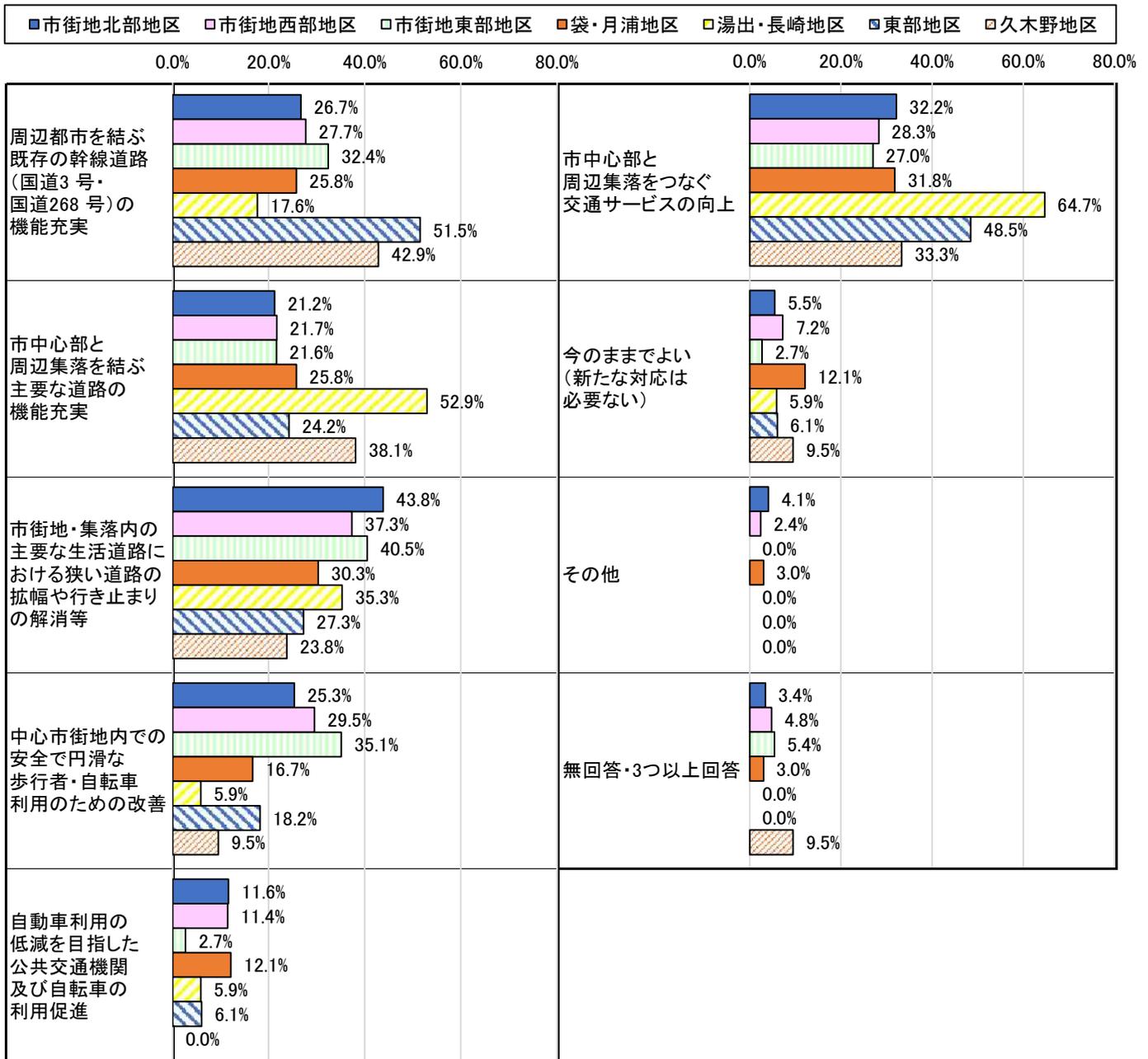


#### <分析>

- 「積極的に保全し、少なくとも現状面積を維持」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」で6割を超えている。次いで「東部地区」(39.4%)、「市街地東部地区」(37.8%)の順となっており、上位3地区がすべて30%を越えている。
- 地域活性化のための開発を優先（農地の減少はやむをえない）」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」(35.3%)で、次いで「市街地北部地区」(27.4%)、「袋・月浦地区」(19.7%)の順となっている。
- 「新たな農地の創出」「観光農園等として多角的に利用」と回答した割合は各居住地で一定数存在するが、「久木野地区」のみ0.0%となっている。

## ⑤道路・交通について

N=491 2つまで回答

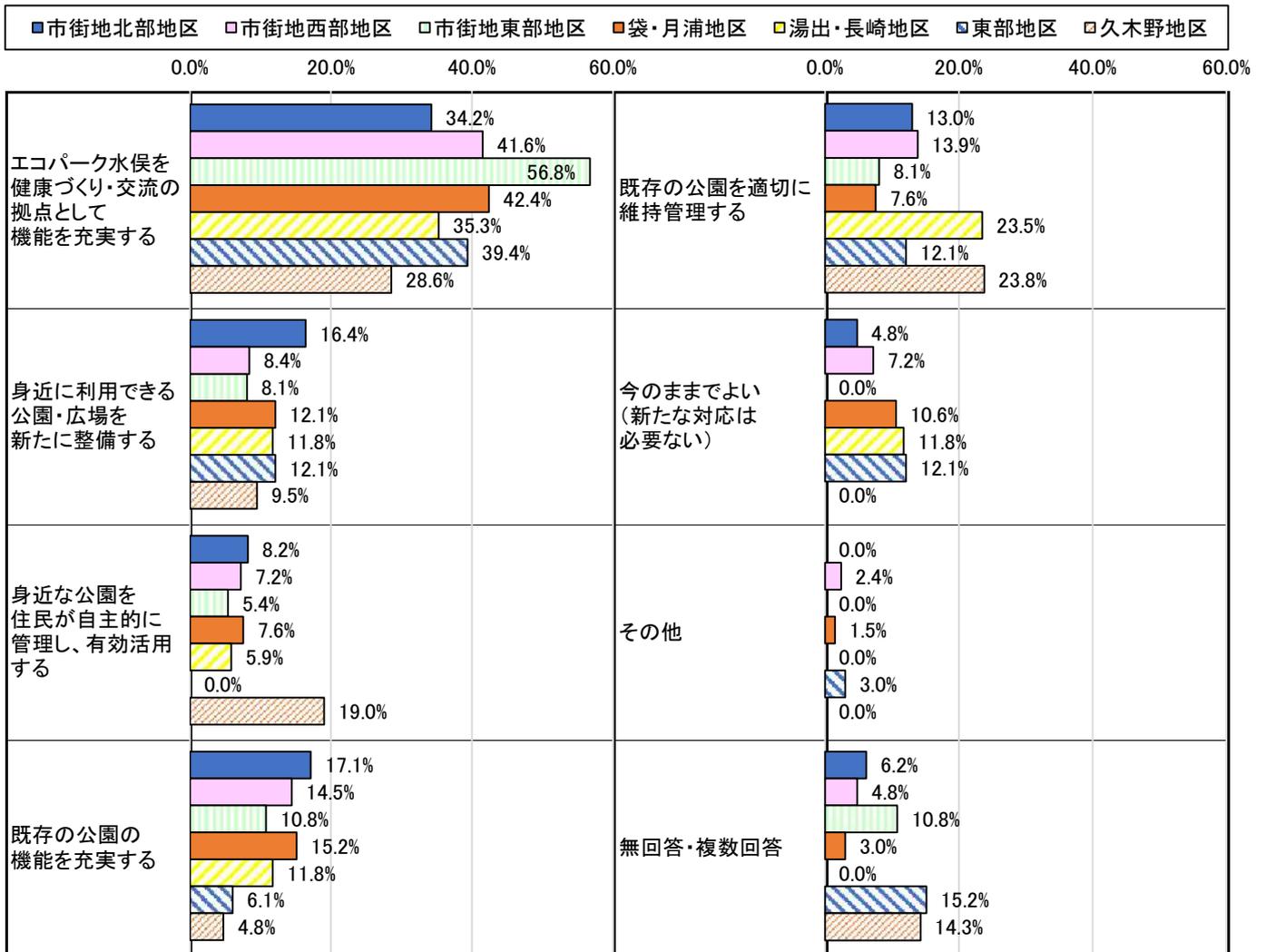


### <分析>

- 「市中心部と周辺集落をつなぐ交通サービスの向上」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」で6割を超えている。次いで「東部地区」(48.5%)が、「市街地北部地区」(32.2%)の順となっている。
- 上記「湯出・長崎地区」以外に50%以上回答されているのは「周辺都市を結ぶ既存の幹線道路(国道3号・国道268号)の機能充実」の「東部地区」(51.5%)で、「市中心部と周辺集落を結ぶ主要な道路の機能充実」の「湯出・長崎地区」(64.7%)の2つとなっている。
- 「市街地・集落内の主要な生活道路における狭い道路の拡幅や行き止まりの解消等」および「中心市街地内での安全で円滑な歩行者・自転車利用のための改善」と回答した割合が多い上位3地区はいずれも「市街地北部地区」「市街地西部地区」「市街地東部地区」で、市街地に集中している。

## ⑥公園・緑地等について

N=491

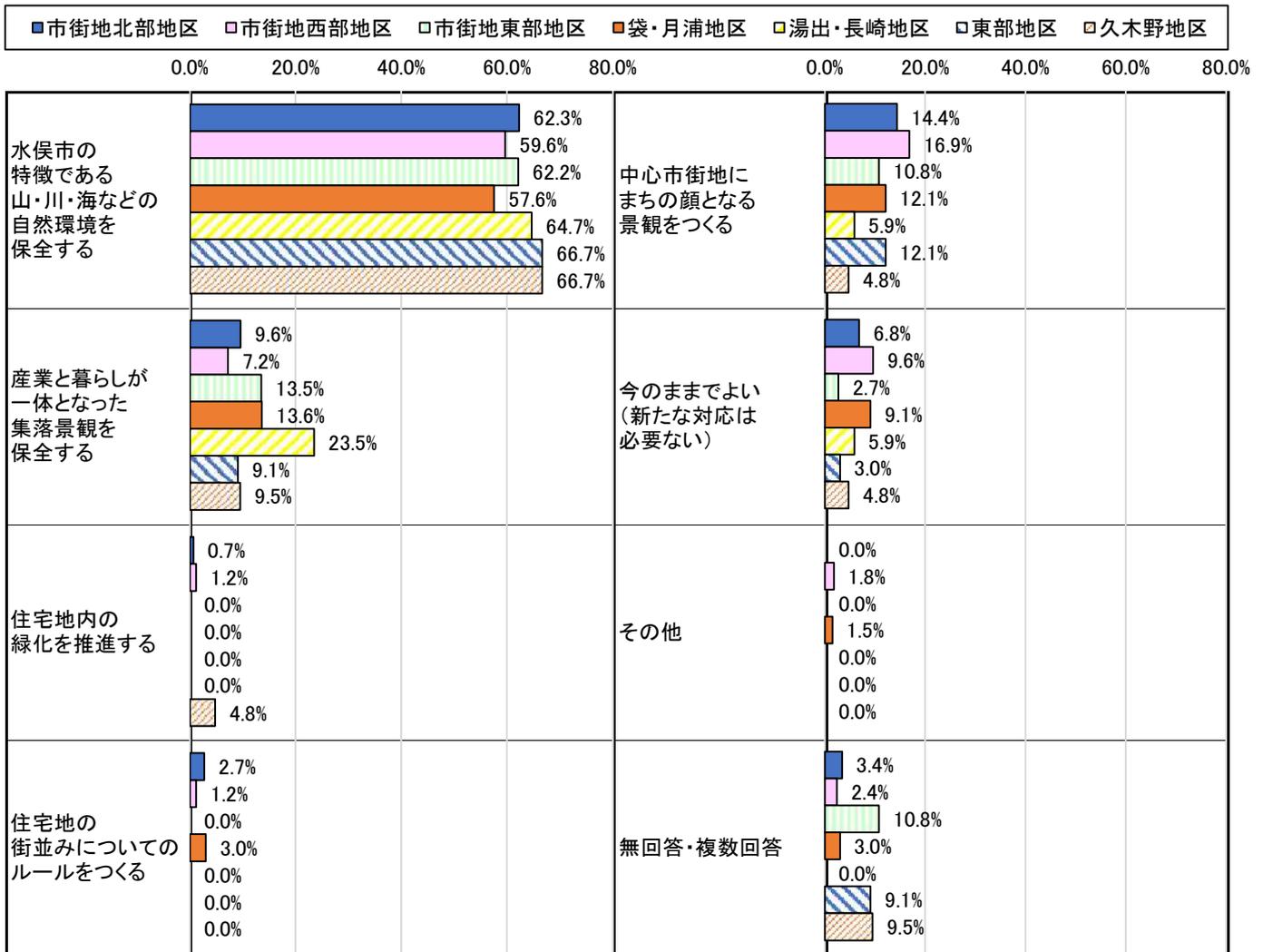


### <分析>

- 「エコパーク水俣を健康づくり・交流の拠点として機能を充実する」と回答した割合が最も多いのは「市街地東部地区」で過半数を占めている。次いで「袋・月浦地区」(42.4%)、「市街地西部地区」(41.6%)の順となっている。
- 「身近に利用できる公園・広場を新たに整備する」と回答した割合が最も多いのは「市街地北部地区」(16.4%)で、他地区と比較して多くなっている。
- 同様に「身近な公園を住民が自主的に管理し、有効活用する」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」(19.0%)で、他の居住地と比較して多くなっている。また「東部地区」では0.0%となっている。
- 「今のままでよい(新たな対応は必要ない)」と回答した割合は他の居住地では一定数存在するが、「市街地東部地区」「久木野地区」の2地区は0.0%となっている。

## ⑦風景や景観について

N=491

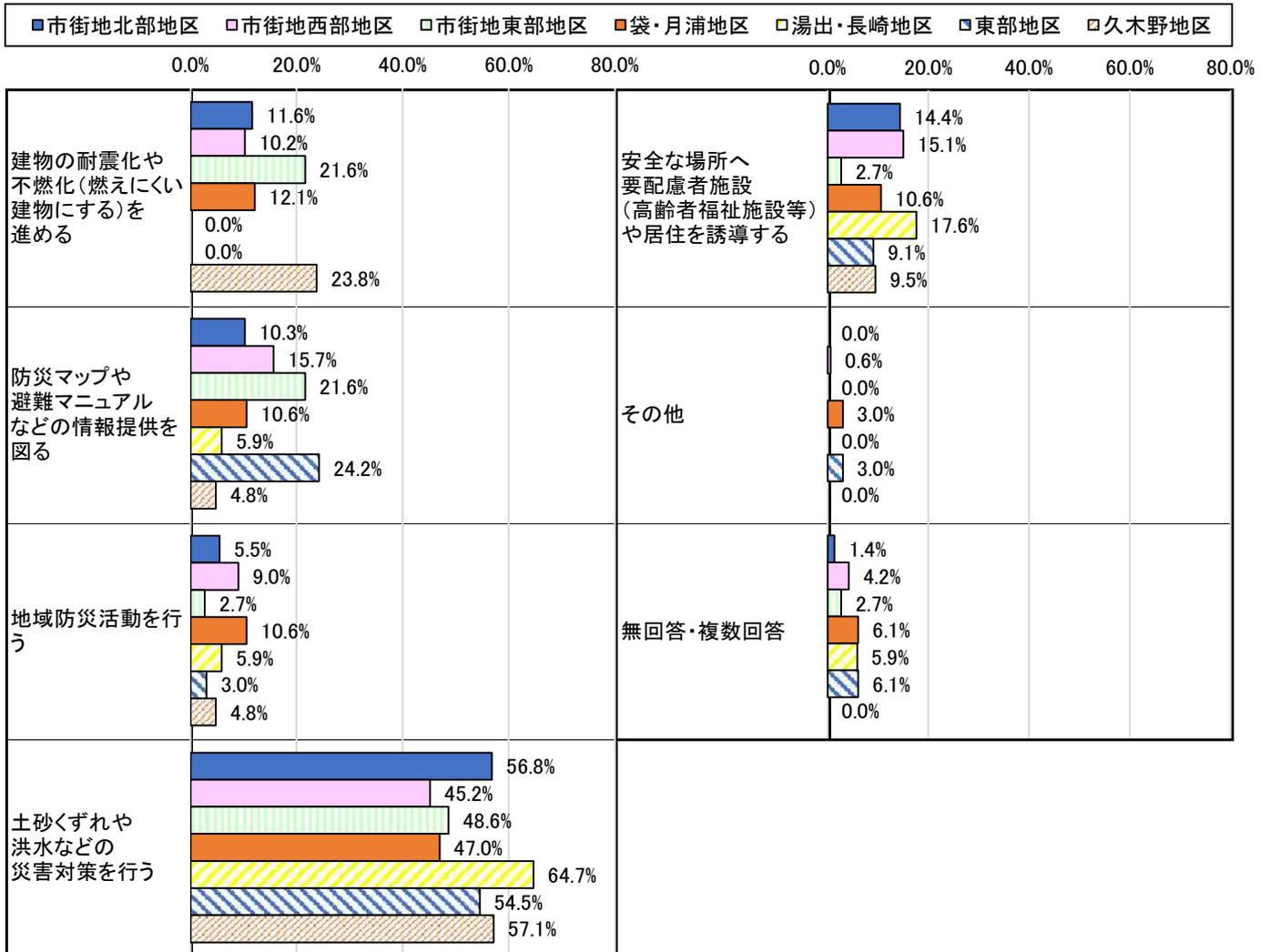


### <分析>

- 「水俣市の特徴である山・川・海などの自然環境を保全する」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」と「東部地区」(同率で66.7%)で3分の2を占めている。次いで「湯出・長崎地区」(64.7%)、「市街地北部地区」(62.3%)の順となっており、郊外地域だけでなく他の地域を含め全体的に多い割合となっている。
- 「産業と暮らしが一体となった集落景観を保全する」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」(23.5%)で、次いで「袋・月浦地区」(13.6%)、「市街地東部地区」(13.5%)の順となっている。
- 「中心市街地にまちの顔となる景観をつくる」と回答した割合が最も多いのは「市街地西部地区」(16.9%)で、次いで「市街地北部地区」(14.4%)、「袋・月浦地区」および「東部地区」(同率で12.1%)の順となっている。

### ⑧防災まちづくりについて

N=491

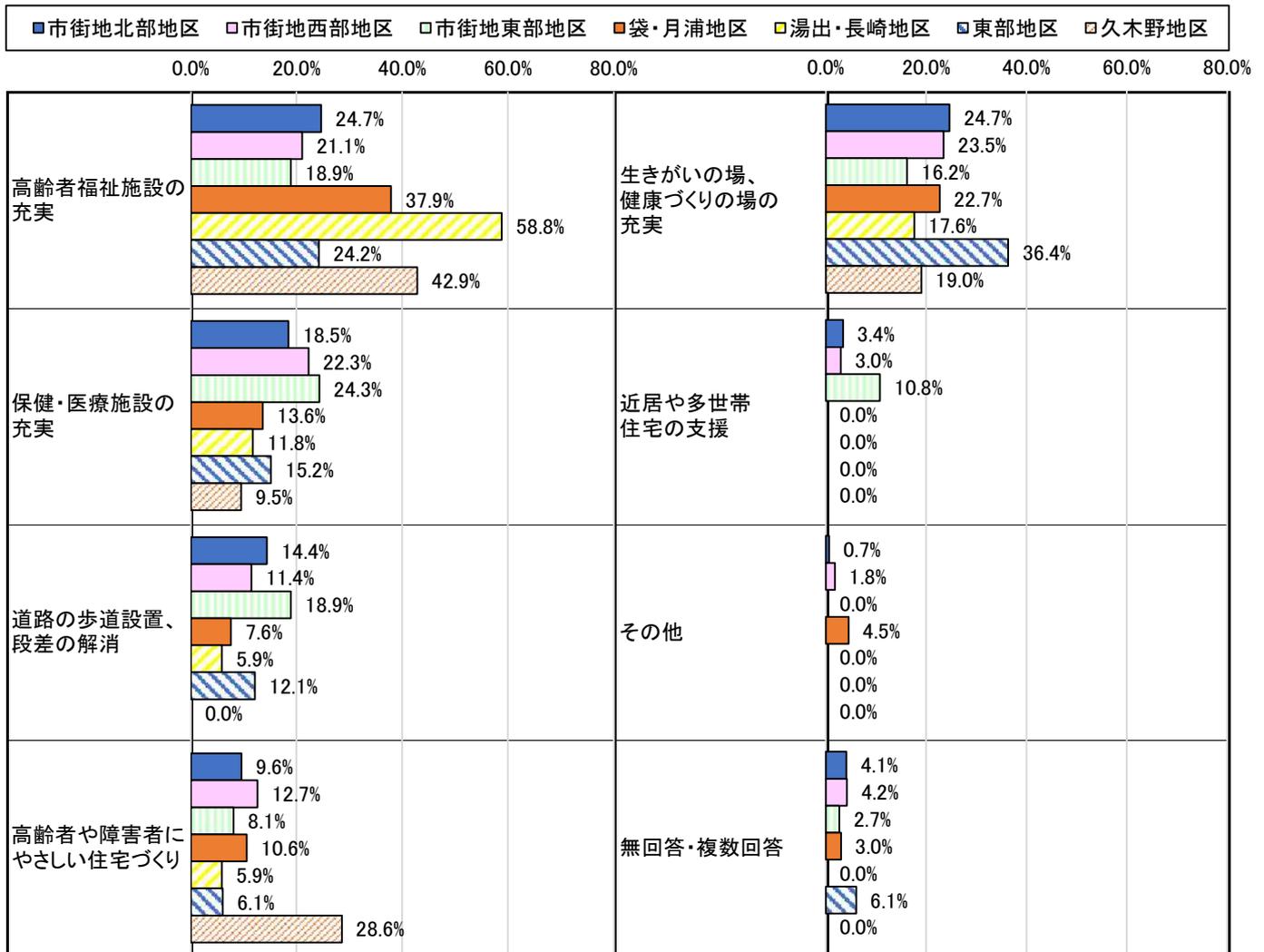


#### <分析>

- 「土砂くずれや洪水などの災害対策を行う」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」で6割を超えている。次いで「市街地北部地区」(56.8%)、「久木野地区」(57.1%)の順となっているが、すべての居住地で4割を超えている。
- 上記以外で20%を超えているのは「建物の耐震化や不燃化(燃えにくい建物にする)を進める」の「市街地東部地区」(21.6%)、「久木野地区」(23.8%)、「防災マップや避難マニュアルなどの情報提供を図る」の「市街地東部地区」(21.6%)、「東部地区」(24.2%)の4地区となっている。

## ⑨高齢社会への対応について

N=491



### <分析>

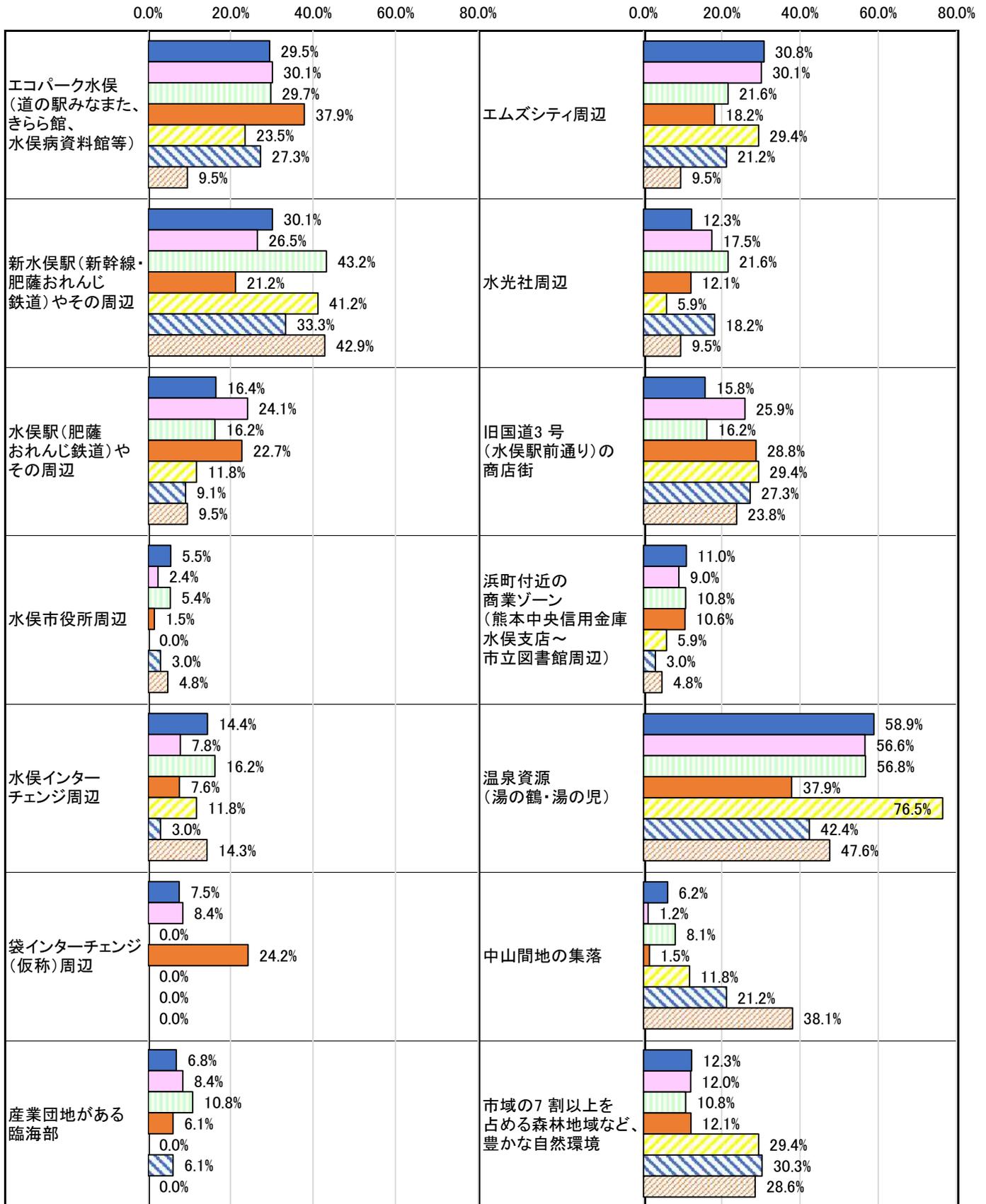
- 「高齢者福祉施設の充実」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」で過半数を占めている。次いで「久木野地区」(42.9%)、「袋・月浦地区」(37.9%)の順となっており、郊外地域に集中している。
- 「保健・医療施設の充実」と「道路の歩道設置、段差の解消」と回答した割合では、上位3地区がいずれも「市街地北部地区」「市街地西部地区」「市街地東部地区」となっており、市街地地域に集中している。
- 「高齢者や障害者にやさしい住宅づくり」と回答した割合が最も多いのは「久木野地区」(28.6%)で、他の居住地と比較して突出している。
- 同様に「生きがいの場、健康づくりの場の充実」と回答した割合が最も多いのは「東部地区」(36.4%)で、他の居住地と比較して突出している。

問13 水俣市全体の活性化に向けて、重点的に活用したり、整備すべき場所・資源は何だとお考えになりますか。

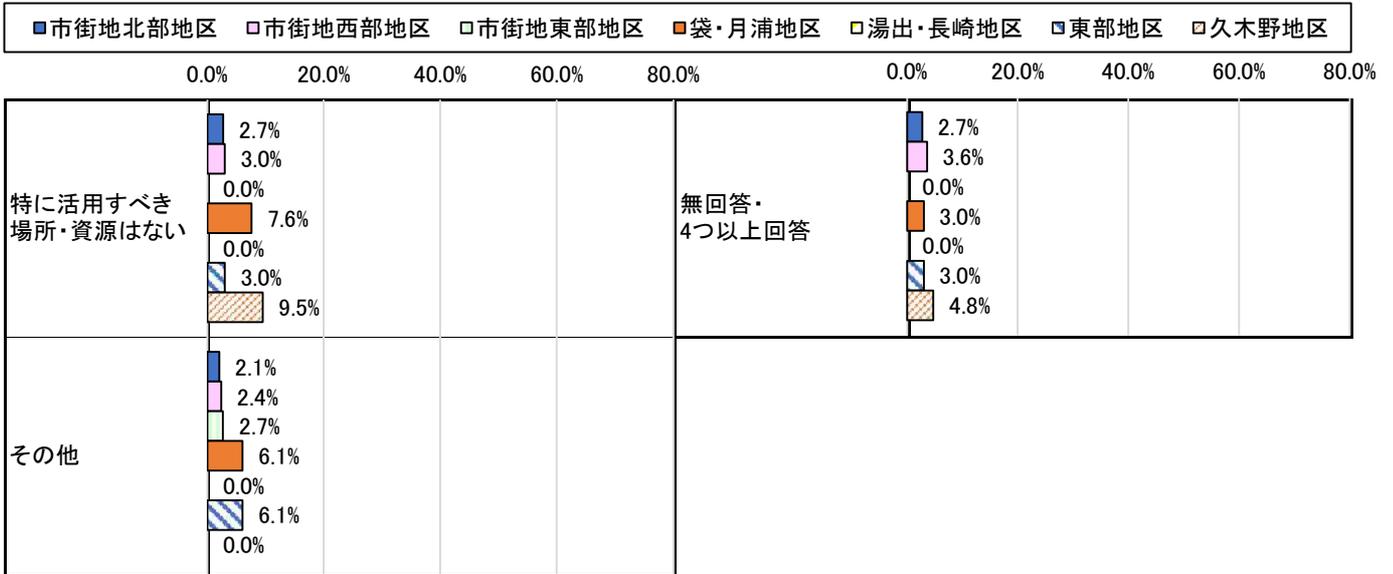
<居住地別分析>

N=491 3つまで回答

■市街地北部地区 □市街地西部地区 □市街地東部地区 ■袋・月浦地区 □湯出・長崎地区 □東部地区 □久木野地区



N=491 3つまで回答



<分析>

- 「袋・月浦地区」では「エコパーク水俣(道の駅みなまた、きらら館、水俣病資料館等)」(37.9%)、「袋インターチェンジ(仮称)周辺」(24.2%)が他地区と比較して多くなっている。
- 「エムズシティ周辺」と回答した割合が最も多いのは「市街地北部地区」(30.8%)で、次いで「市街地西部地区」(30.1%)の順となっている。また「水光社周辺」と回答した割合が最も多いのは「市街地東部地区」(21.6%)で、次いで「東部地区」(18.2%)、「市街地西部地区」(17.5%)、「市街地北部地区」(12.3%)の順となっており、いずれも市街地で多くなっている。
- 「温泉資源(湯の鶴・湯の児)」と回答した割合が最も多いのは「湯出・長崎地区」(76.5%)で他地区と比較して群を抜いて多くなっており、他地区でも比較的すべての地区で高い割合となっている。
- 「市域の7割以上を占める森林地域など、豊かな自然環境」と回答した割合が最も多いのは「東部地区」(30.3%)で、次いで「湯出・長崎地区」(29.4%)、「久木野地区」(28.6%)となっており、郊外で多い傾向にある。

### III. 年代別分析

## 2. これまでの水俣市(全体)の「まちづくり」についてお尋ねします。

平成14年に策定した水俣市都市計画マスタープランでは、下記の1～5の5つの目指すべき生活像を掲げ、具体策を定めています。約20年前と比べて、それぞれの項目について採点をしてください。(居住年数が短い方は、分かる限りでお願いします)

### <年代別分析>

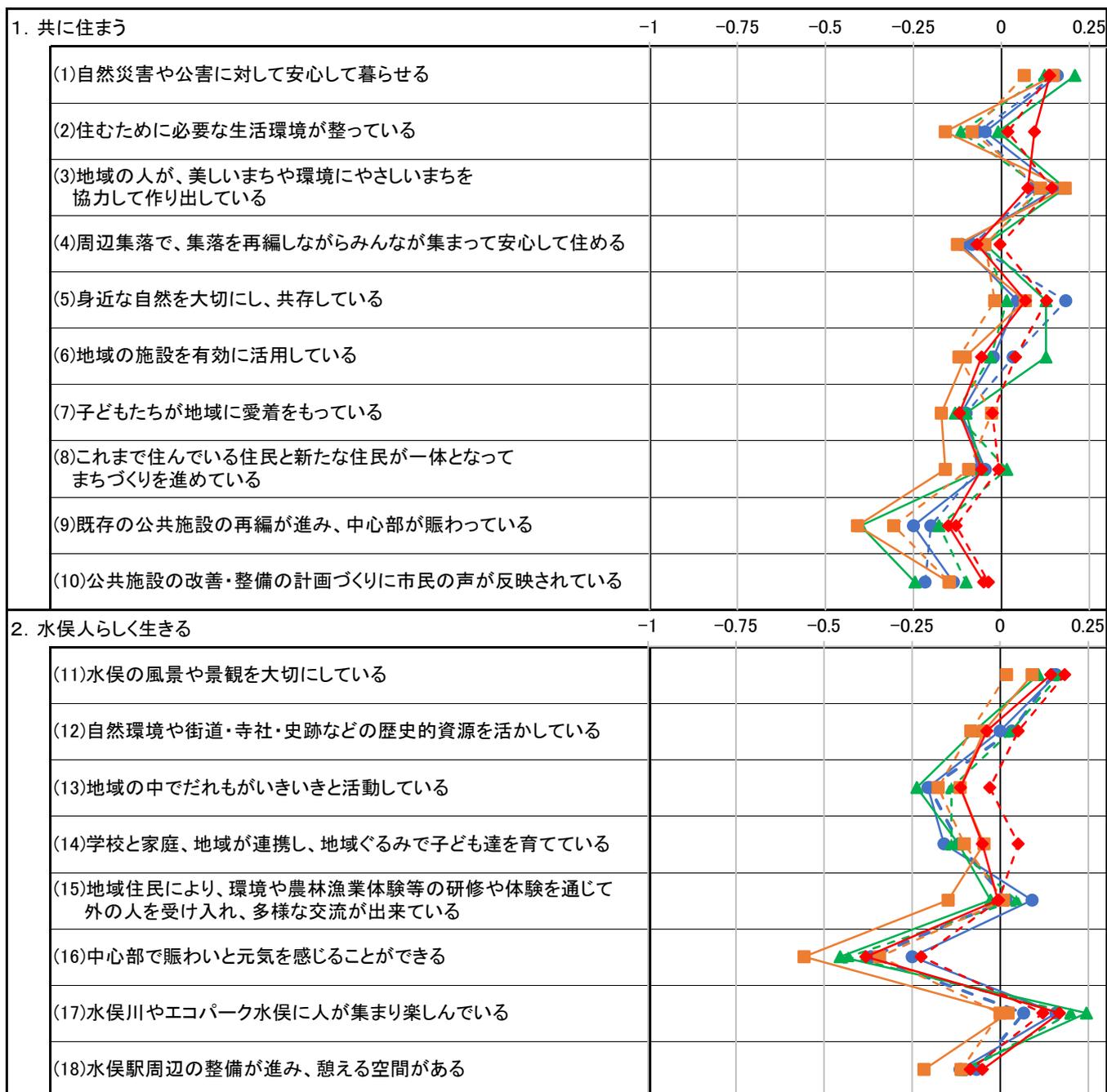
#### 平均分布

各項目の回答件数に以下の重みを乗じて合計し平均点を算出。

良くなった:1点、ややよくなった:0.5点、変わらない:0点、悪くなった:-1点

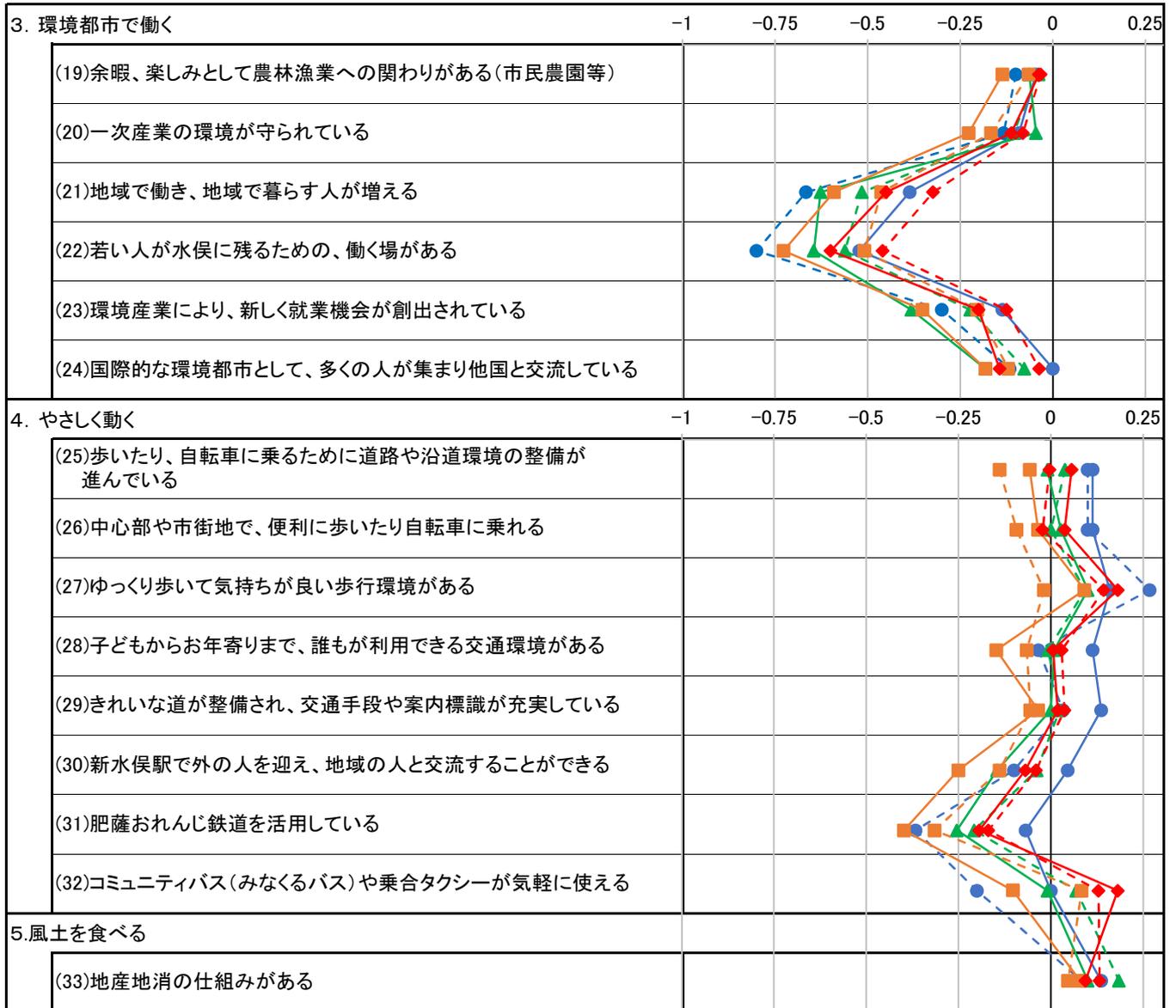


N=491





N=491



<分析>

○各項目の満足度において、年代別の差はあまり見受けられなかった。

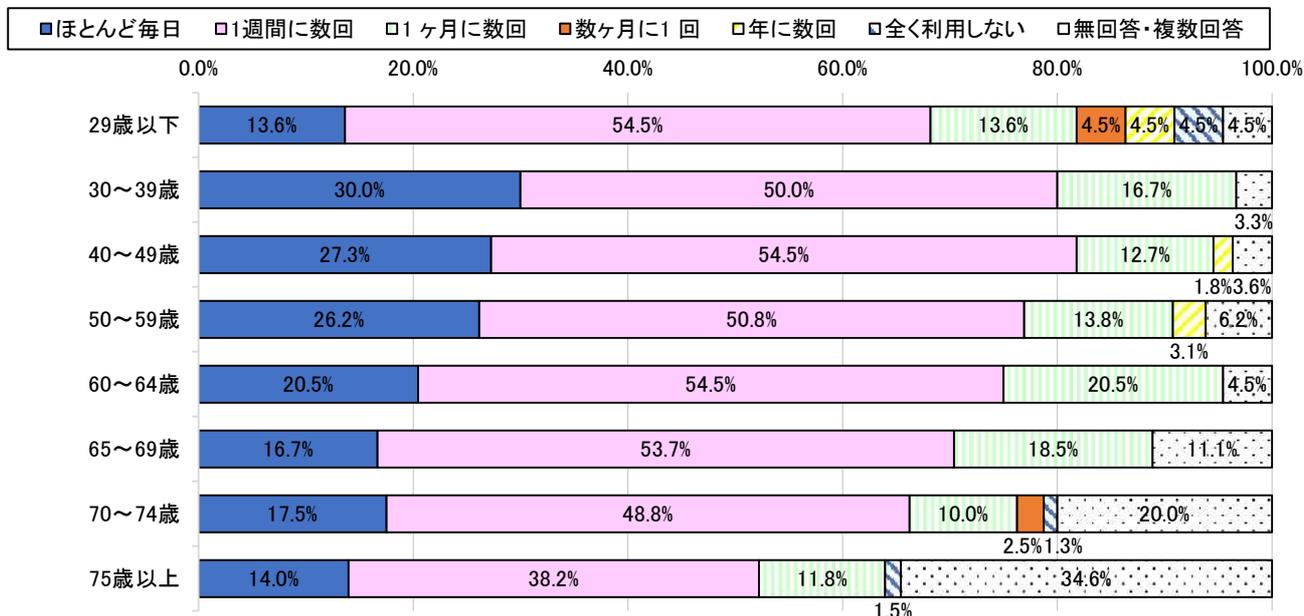
### 3. 日常生活についてお尋ねします。

問8 あなたの日常生活の中で、以下のA～Fの各生活行動について、それぞれの「①利用頻度」、②「最も利用する施設」、③「移動手段(②までの主な手段)」を教えてください。①で「力」と回答した生活行動については、②③の回答は不要です。

#### <年代別分析>

##### A) 生鮮食品や日常生活品の買い物

N=491

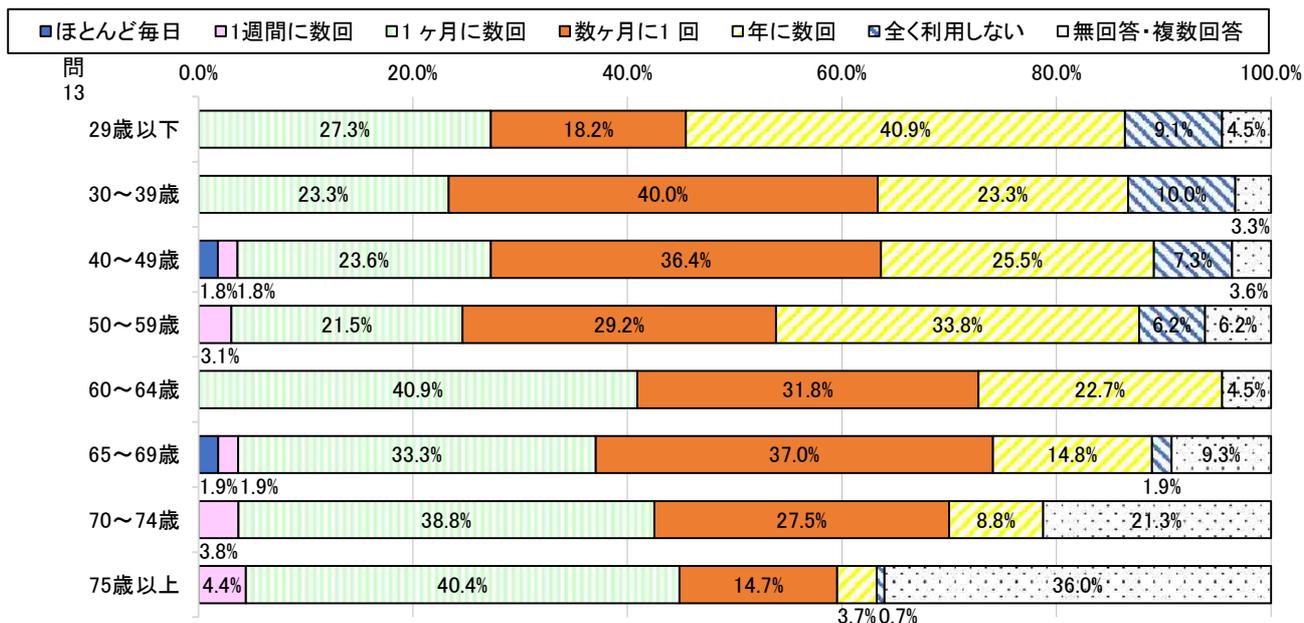


#### <分析>

○「1週間に数回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「40～49歳」で、合わせて8割を超えている、次いで「30～39歳」(80.0%)、「50～59歳」(77.0%)の順となっており、働き盛りの年代と一致する。  
 ○一方で「1ヶ月に数回」と回答した割合が最も多いのは「60～64歳」(合わせて20.5%)で、次いで「65～69歳」(18.5%)、「30～39歳」(16.7%)の順となっている。

##### B) 病院・診療所などの医療施設

N=491

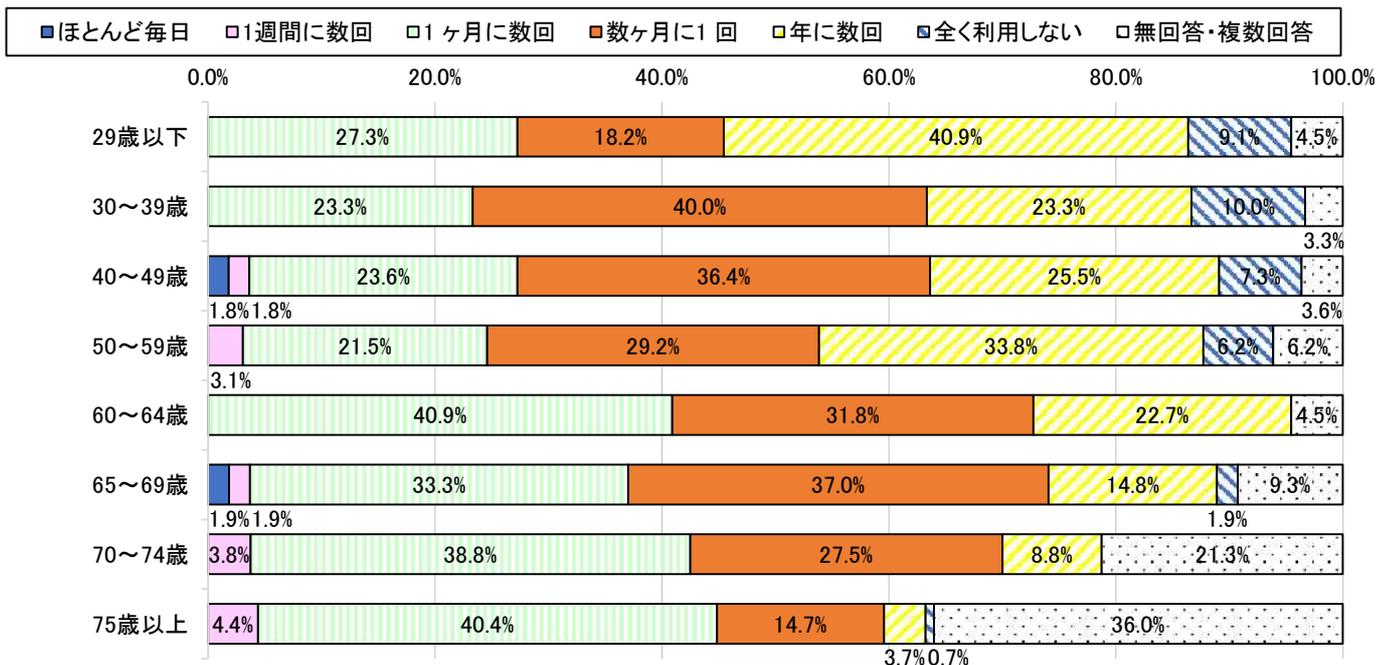


#### <分析>

○「1ヶ月に数回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「75歳以上」(合わせて44.8%)で、次いで「70～74歳」(合わせて42.6%)、「60～64歳」(40.9%)の順となっている。  
 ○一方で「年に数回」「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」(50.0%)で、次いで「50～59歳」(40.0%)、「30～39歳」(33.3%)の順となっている。

### C) 外食

N=491

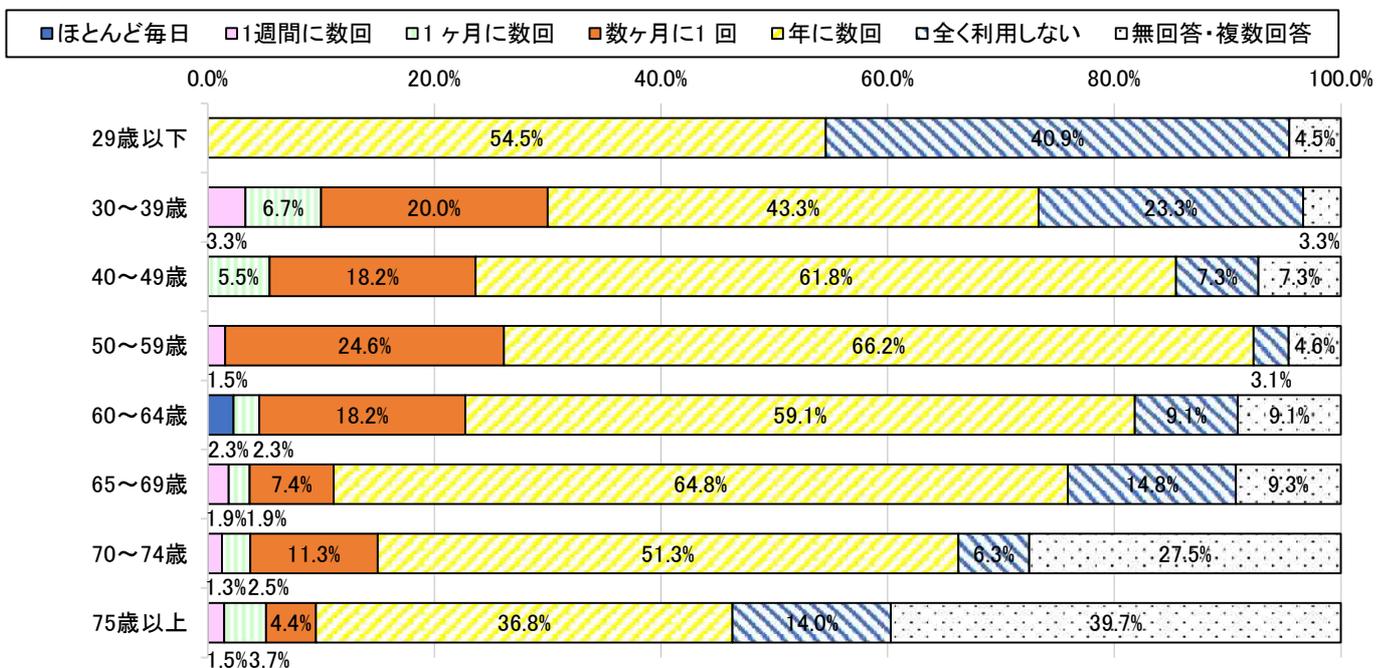


#### <分析>

○「1ヶ月に数回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」(合わせて63.3%)で、次いで「40～49歳」(56.4%)、「60～64歳」(45.5%)の順となっている。  
 ○一方で「年に数回」「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」(45.4%)で、次いで「65～69歳」(42.6%)、「75歳以上」(31.6%)の順となっている。

### D) 家具・家電などの買い回り品

N=491

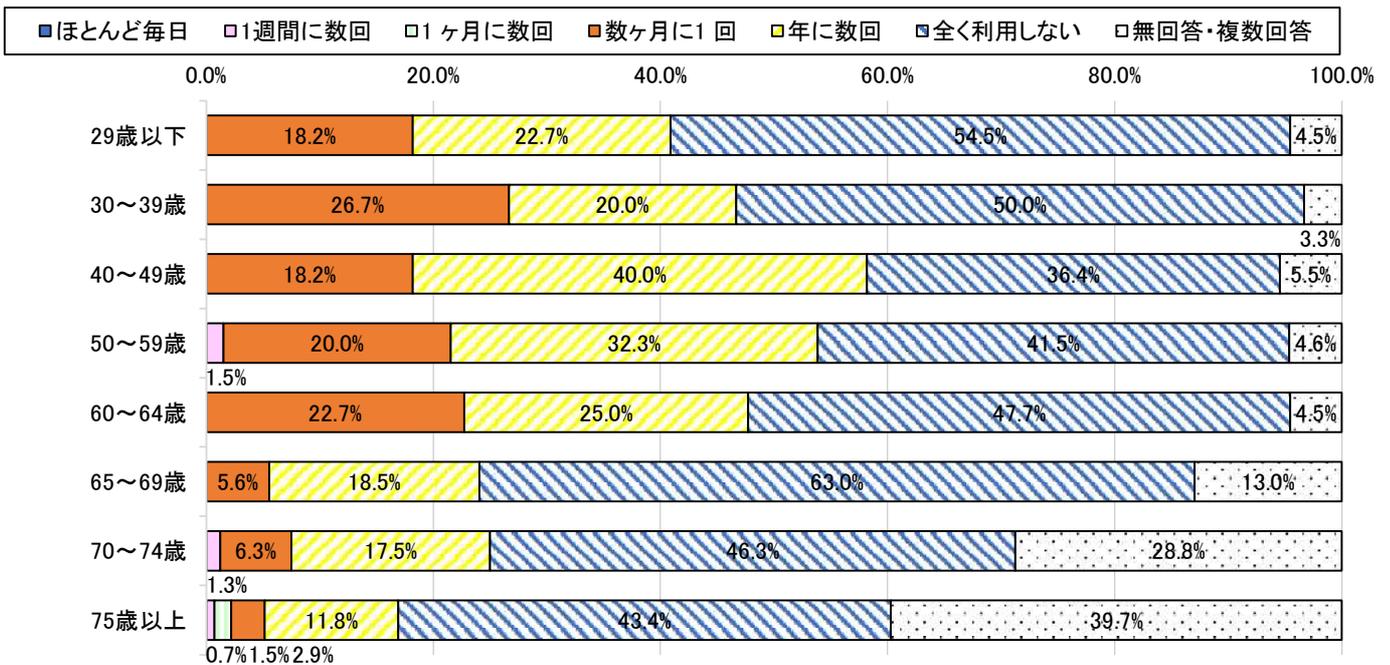


#### <分析>

○「数ヶ月に1回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」(合わせて30.0%)で、次いで「50～59歳」(26.1%)、「40～49歳」(23.7%)の順となっており、働き盛りの年代と一致する。  
 ○一方で「年に数回」「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」(95.5%)で大多数を占めている。次いで「65～69歳」(79.6%)、「50～59歳」(69.3%)の順となっている。

## E) 映画・コンサートなどの娯楽

N=491

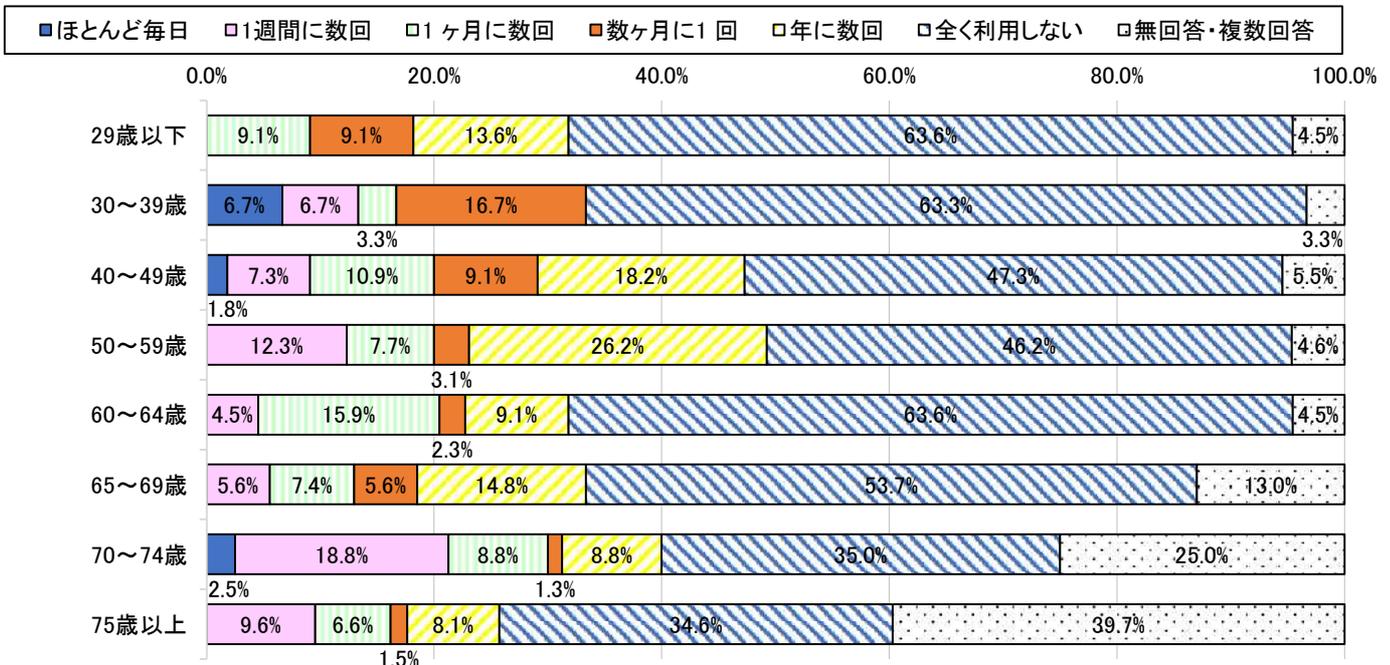


### <分析>

○「数ヶ月に1回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」(合わせて26.7%)で、次いで「60～64歳」(22.7%)、「50～59歳」(21.5%)の順となっている。  
 ○一方で「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「65～69歳以下」(63.0%)で、次いで「29歳以下」(54.5%)、「30～39歳」(50.0%)の順となっている。

## F) スポーツや屋外レクリエーションなどの活動

N=491



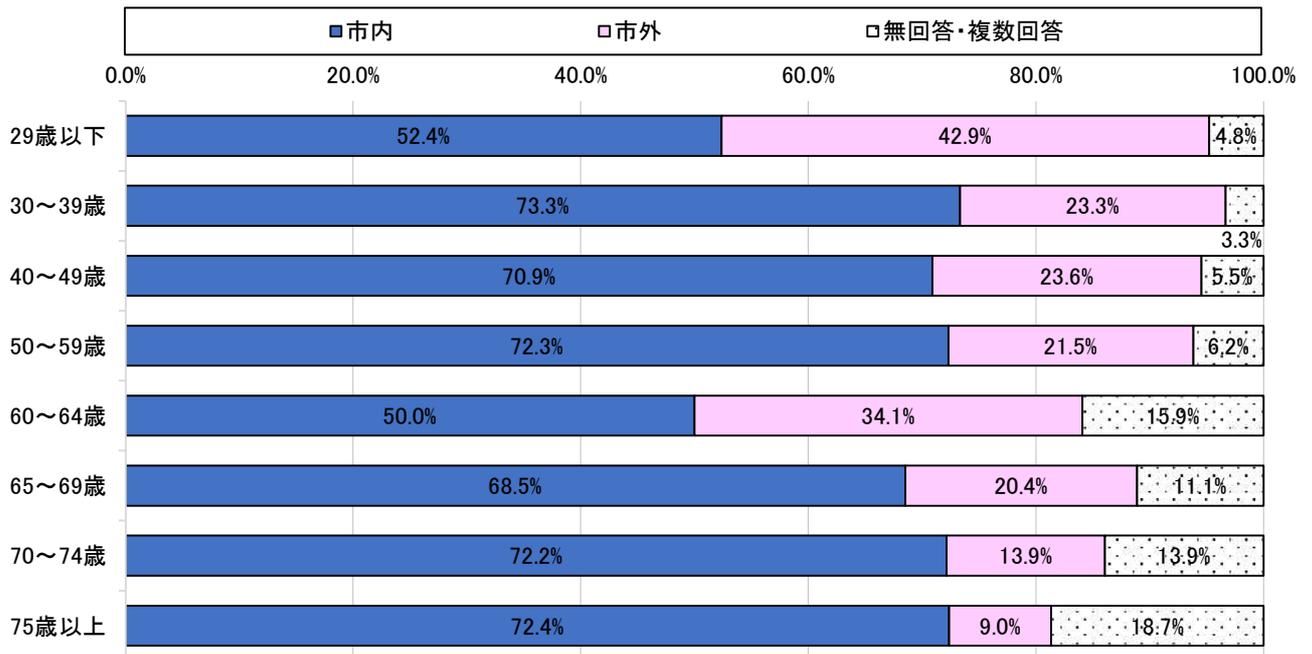
### <分析>

○「数ヶ月に1回」以上の頻度と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」(合わせて33.4%)で、次いで「70～74歳」(31.4%)、「40～49歳」(29.1%)の順となっている。  
 ○一方で「全く利用しない」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」と「60～64歳以下」(同率で63.6%)で、次いで「30～39歳以下」(63.3%)、「65～69歳」(53.7%)の順となっている。

## ②最も利用する施設

### A) 生鮮食品や日常生活品の買い物

N=487

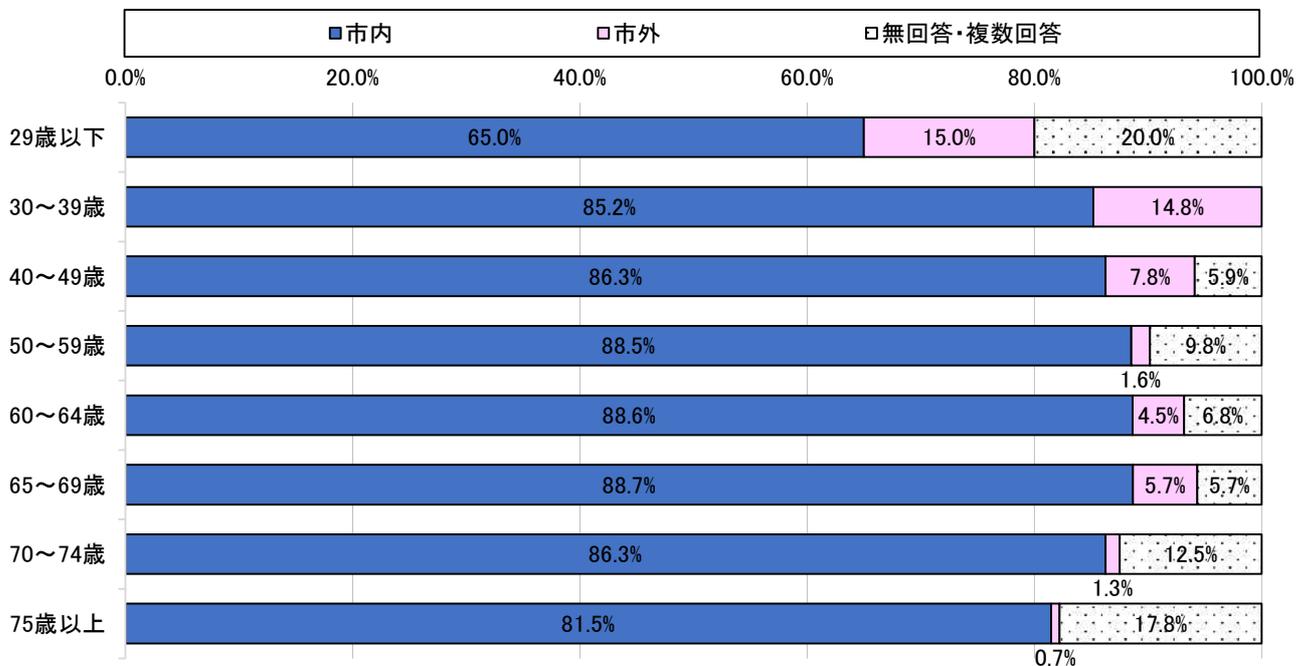


#### <分析>

- 「市内」と回答した割合が最も多いのは「75歳以上」(72.4%)で、次いで「30～39歳」(73.3%)、「50～59歳」(72.3%)の順となっている。
- 一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」(42.9%)で、次いで「60～64歳」(34.1%)、「40～49歳」(23.6%)の順となっている。

### B) 病院・診療所などの医療施設

N=476

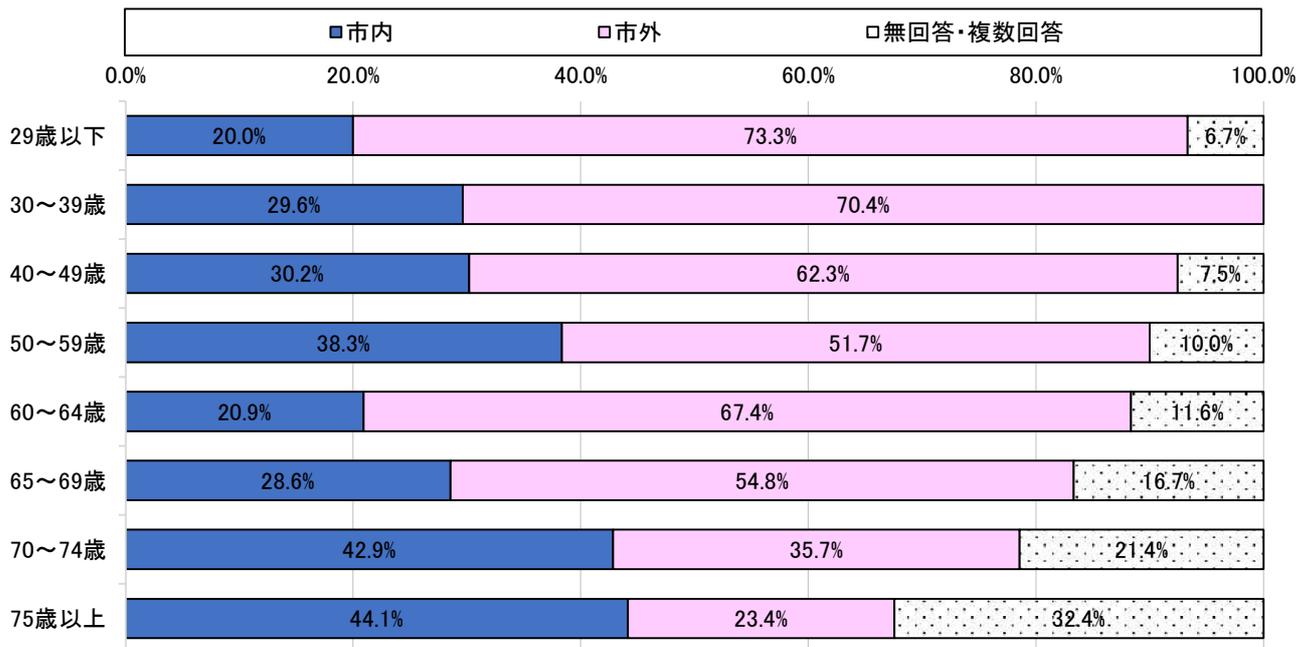


#### <分析>

- 「市内」と回答した割合が最も多いのは「65～69歳」(88.7%)で、次いで「60～64歳」(88.6%)、「50～59歳」(88.5%)の順となっており、上位3世代が僅差となっている。
- 一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」(15.0%)で、次いで「30～39歳」(14.8%)、「40～49歳」(7.8%)の順となっており、若年者に多い傾向にある。

### C) 外食

N=425

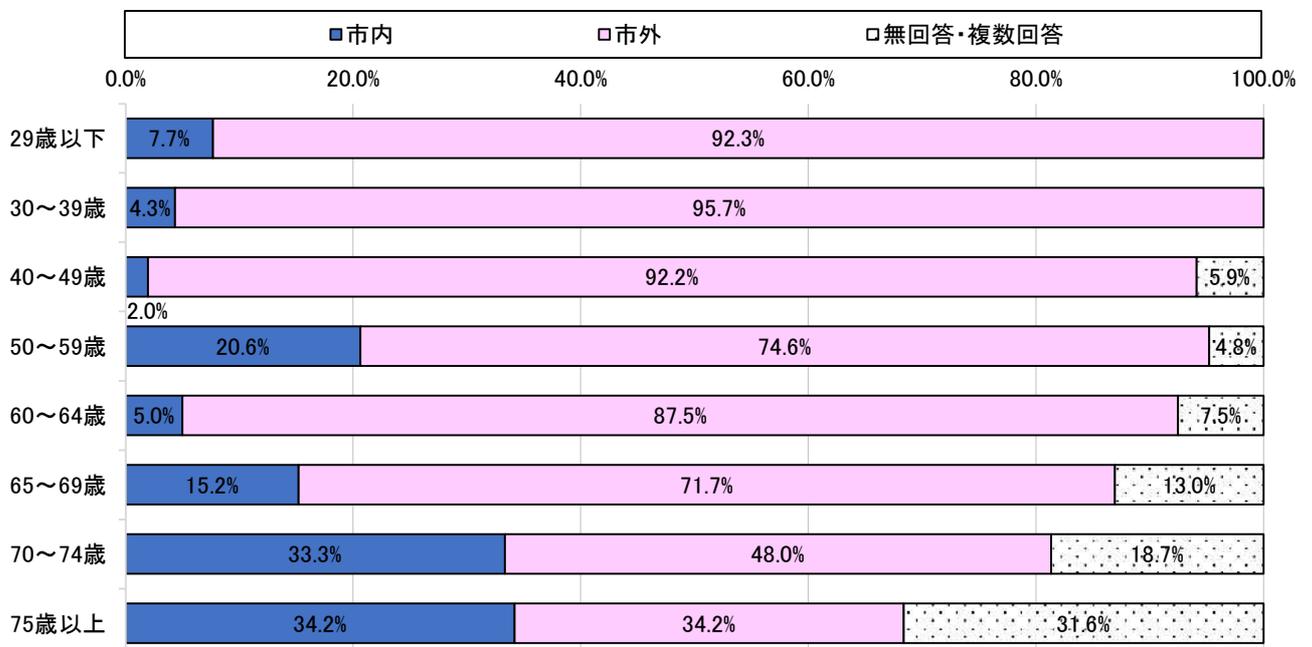


#### <分析>

○「市内」と回答した割合が最も多いのは「75歳以上」(44.1%)で、次いで「70～74歳」(42.9%)、「50～59歳」(38.3%)の順となっている。  
 ○一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」(73.3%)で、次いで「30～39歳」(70.4%)、「60～64歳」(67.4%)の順となっている。

### D) 家具・家電などの買い回り品

N=432

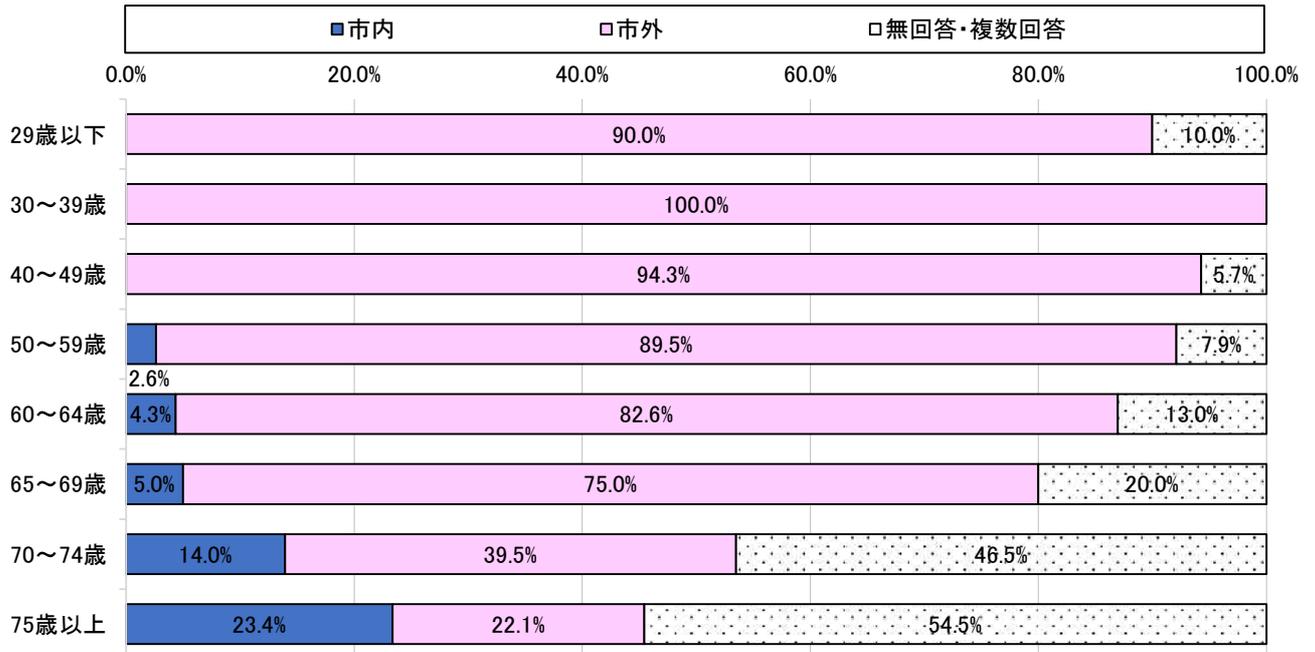


#### <分析>

○「市内」と回答した割合が最も多いのは「75歳以上」(34.2%)で、次いで「70～74歳」(33.3%)、「50～59歳」(20.6%)の順となっている。  
 ○一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」(95.7%)で、次いで「29歳以下」(92.3%)、「40～49歳」(92.2%)の順となっており、いずれも9割を超え、かつ若年者に集中している。

E) 映画・コンサートなどの娯楽

N=264

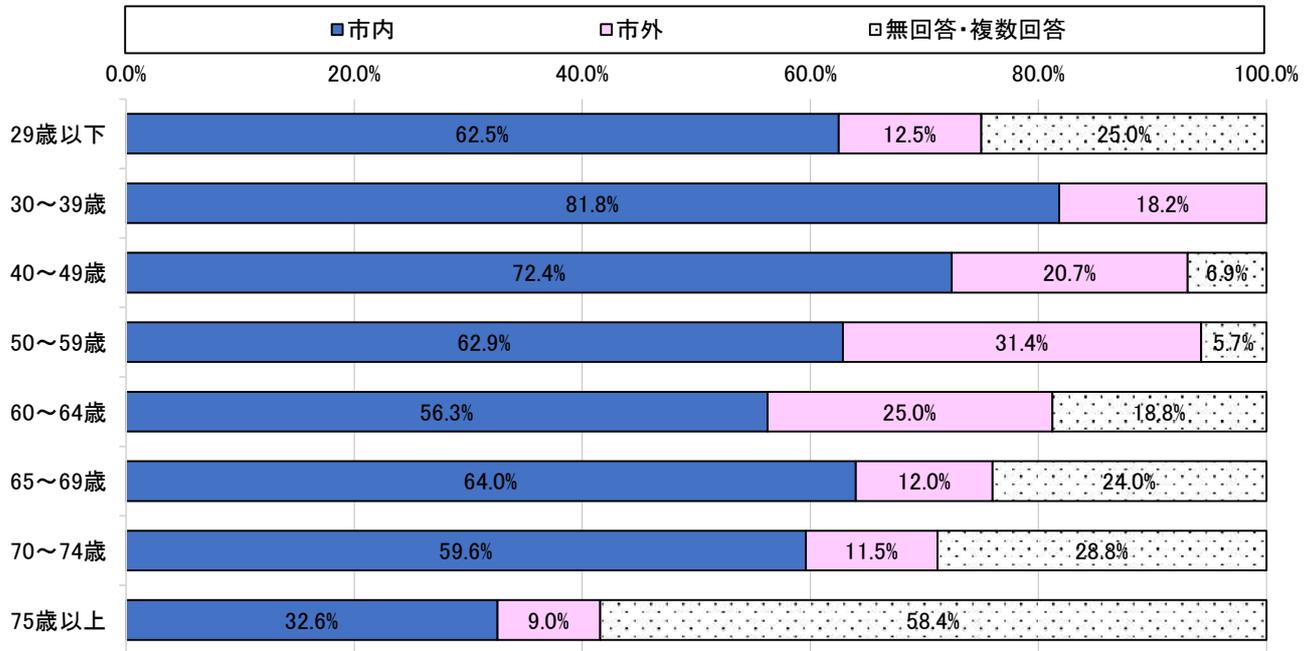


<分析>

○「市内」と回答した割合が最も多いのは「75歳以上」(23.4%)で、次いで「70～74歳」(14.0%)、「65～69歳」(5.0%)の順となっており、高齢者に集中している。  
 ○一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」(100.0%)で、次いで「40～49歳以下」(94.3%)、「29歳以下」(90.0%)の順となっており、若年者に集中している。

F) スポーツや屋外レクリエーションなどの活動

N=268



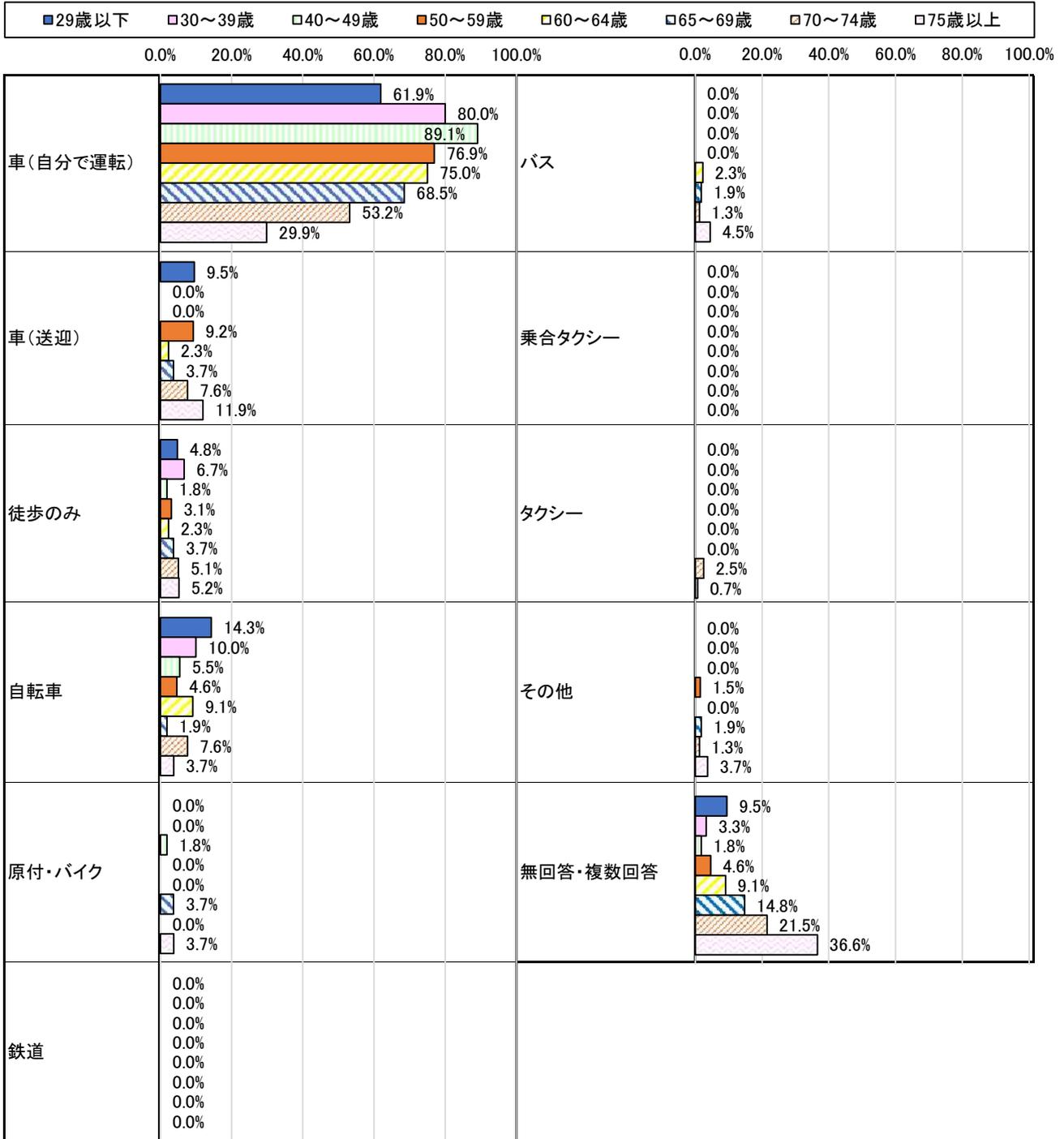
<分析>

○「市内」と回答した割合が最も多いのは「30～39歳以上」(81.8%)で、次いで「40～49歳」(72.4%)、「65～69歳」(64.0%)の順となっている。  
 ○一方で「市外」と回答した割合が最も多いのは「50～59歳」(31.4%)で、次いで「60～64歳」(25.0%)、「40～49歳」(20.7%)の順となっており、中年世代に集中している。

### ③移動手段

#### A) 生鮮食品や日常生活品の買い物

N=487

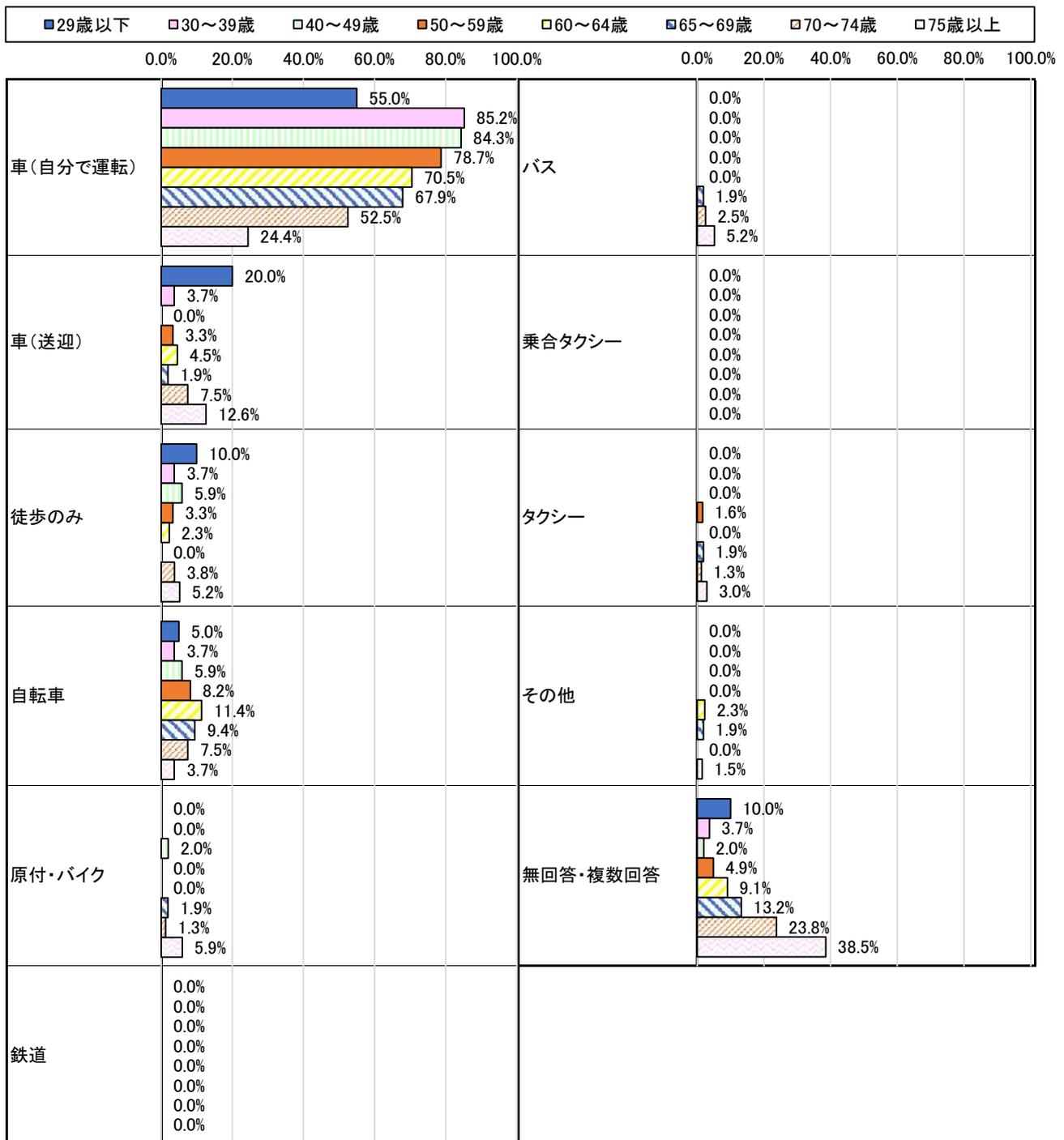


#### <分析>

- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「40~49歳」で9割弱が回答している。次いで「30~39歳」(80.0%)、「50~59歳」(76.9%)の順となっており、働き盛りの年代と一致する。
- それ以外の回答で10%を越えているのは、「車(送迎)」と回答した「75歳以上」(11.9%)、「自転車」と回答した「29歳以下」(14.3%)、「30~39歳」(10.0%)の3つである。

## B) 病院・診療所などの医療施設

N=476

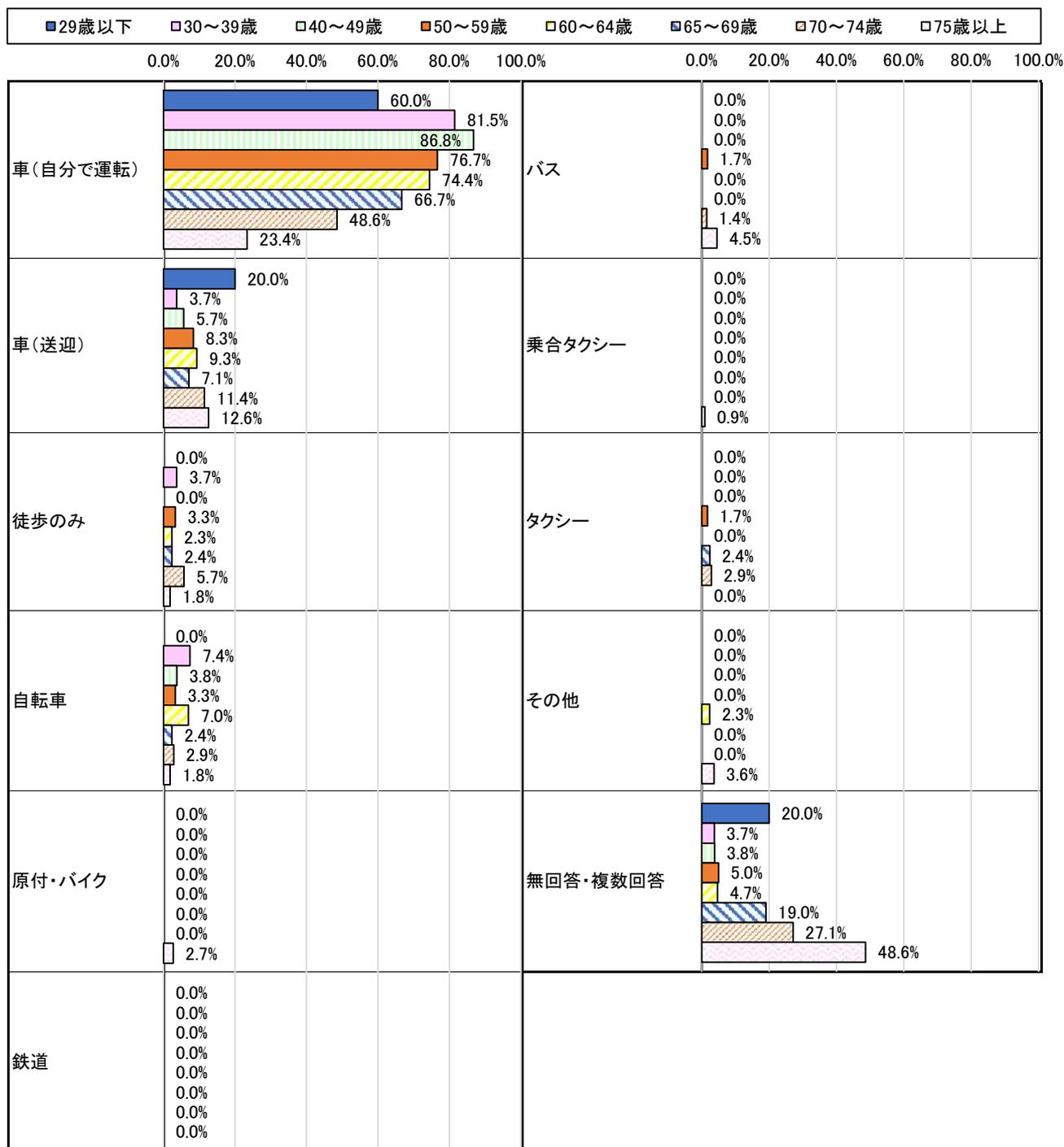


### <分析>

- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」(85.2%)で、次いで「40～49歳」(84.3%)、「50～59歳」(78.7%)の順となっている。また「29歳以下」では55.0%と比較的低い割合となっている。
- それ以外の回答で10%を越えているのは、「車(送迎)」と回答した「29歳以下」(20.0%)と「75歳以上」(12.6%)、「自転車」と回答した「60～64歳」(11.4%)の3つである。

### C) 外食

N=425

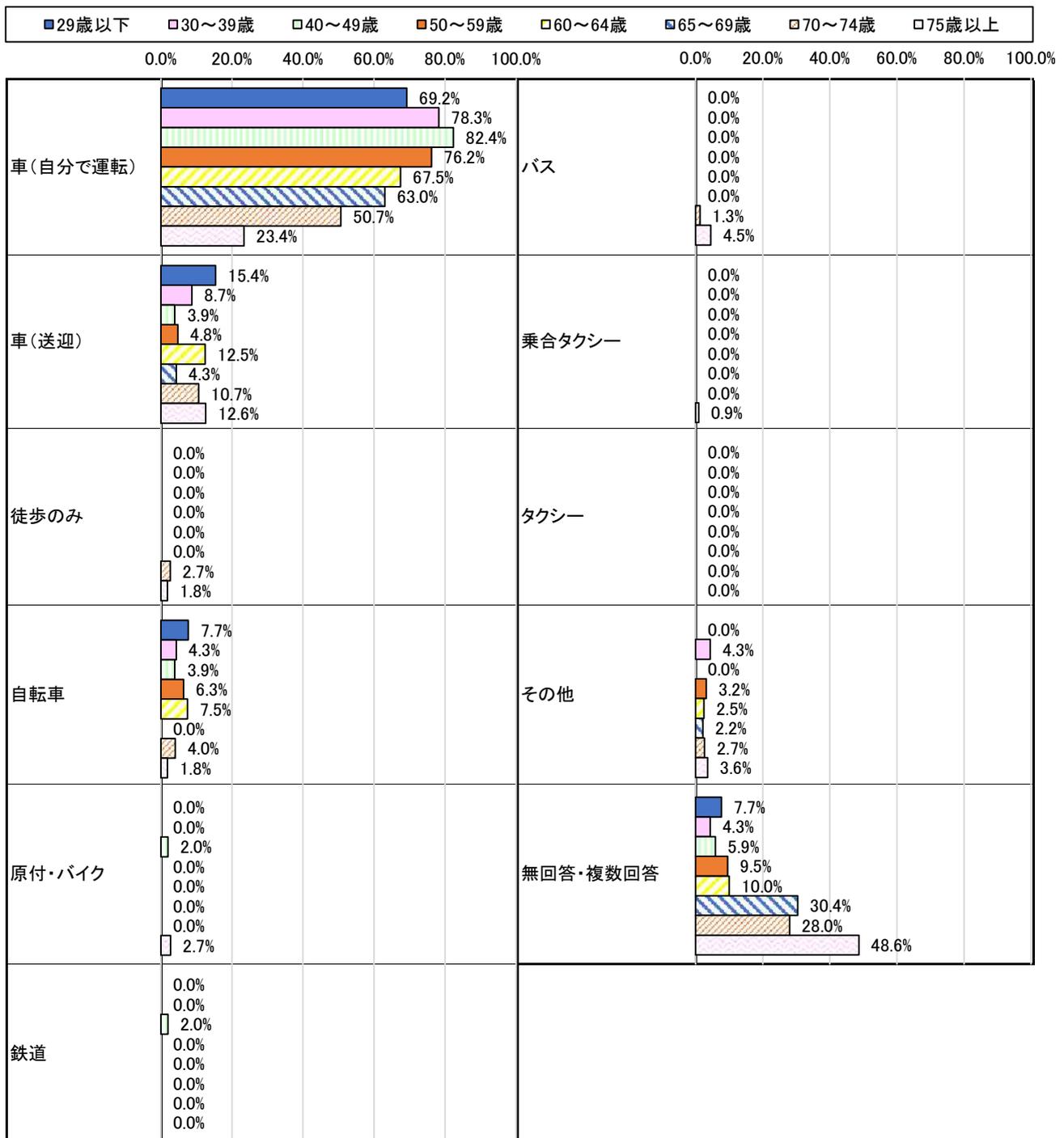


#### <分析>

- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「40～49歳」(86.8%)で、次いで「30～39歳」(81.5%)、「50～59歳」(76.7%)の順となっている。
- それ以外で他の年代と比較して多いのは「車(送迎)」で「29歳以下」(20.0%)、「徒歩のみ」で「70～74歳」(5.7%)、「自転車」で「30～39歳」(7.4%)、「60～64歳」(7.0%)となっている。

D) 家具・家電などの買い回り品

N=432

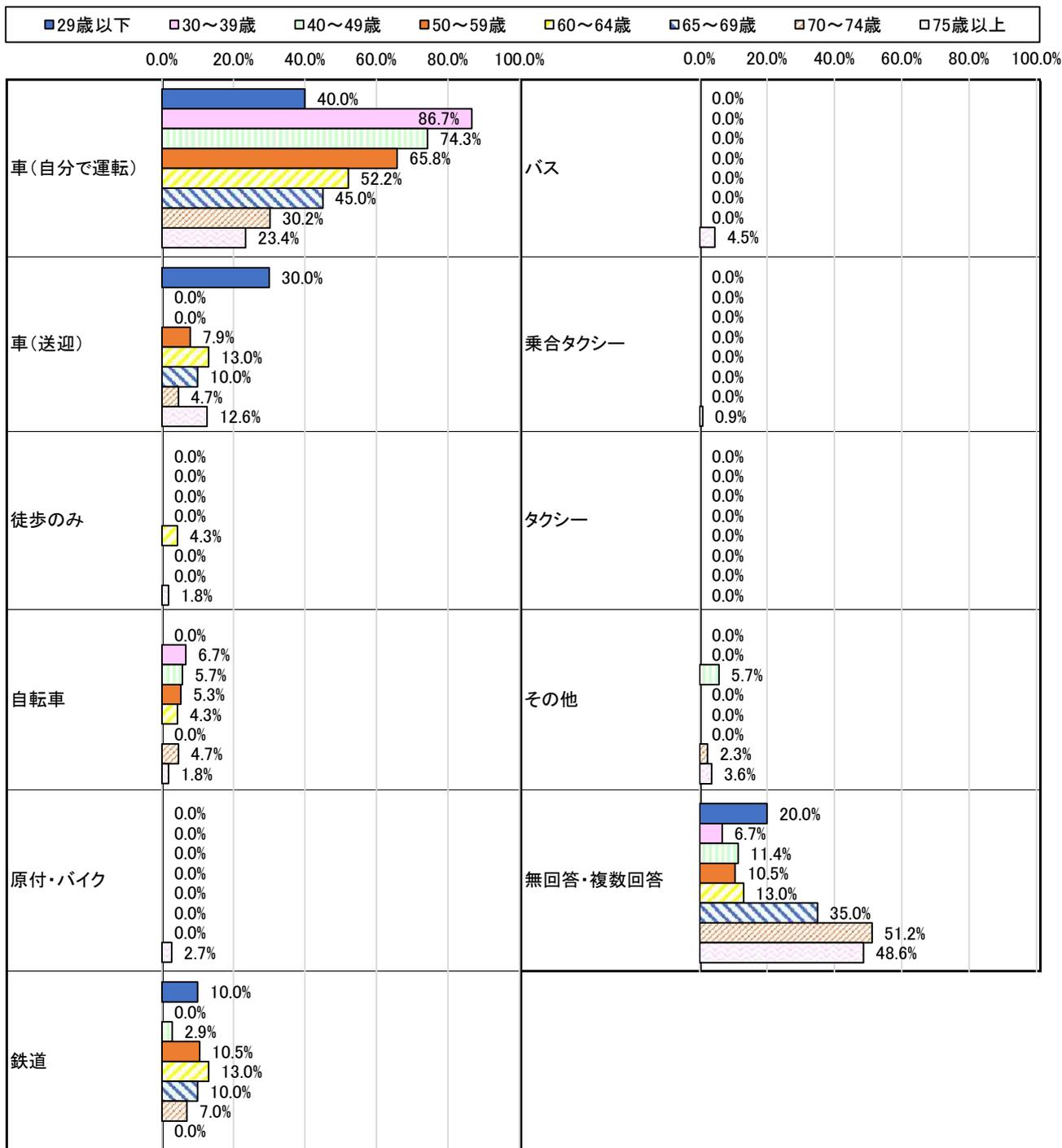


<分析>

○「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「40～49歳」で8割を越えている。次いで「30～39歳」(78.3%)、「50～59歳」(76.2%)の順となっている。

### E) 映画・コンサートなどの娯楽

N=264

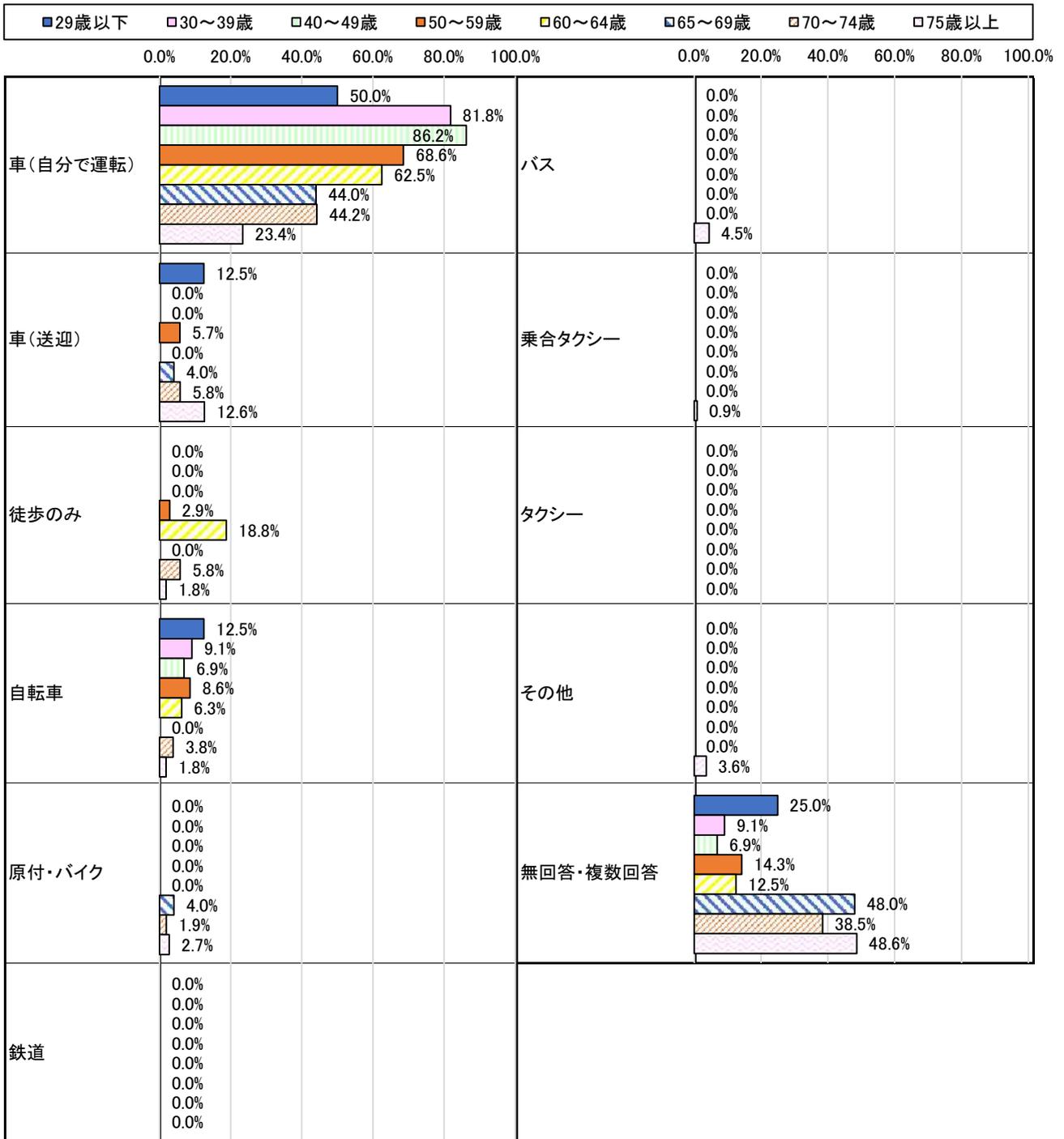


#### <分析>

- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」で8割を超えている。次いで「40～49歳」(74.3%)、「50～59歳」(65.8%)の順となっている。
- 「鉄道」と回答した割合が最も多いのは「60～64歳」(13.0%)で、次いで「50～59歳」(10.5%)、「29歳以下」と「65～69歳」(同率で10.0%)の順となっている。

F) スポーツや屋外レクリエーションなどの活動

N=268



<分析>

- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのは「40~49歳」(86.2%)で、次いで「30~39歳」(81.8%)、「50~59歳」(68.6%)の順となっている。
- それ以外の回答で10%を越えているのは、「車(送迎)」と回答した「29歳以下」(12.5%)、「75歳以上」(12.6%)、「徒歩のみ」と回答した「60~64歳」(18.8%)、「自転車」と回答した「29歳以下」(12.5%)の4つである。

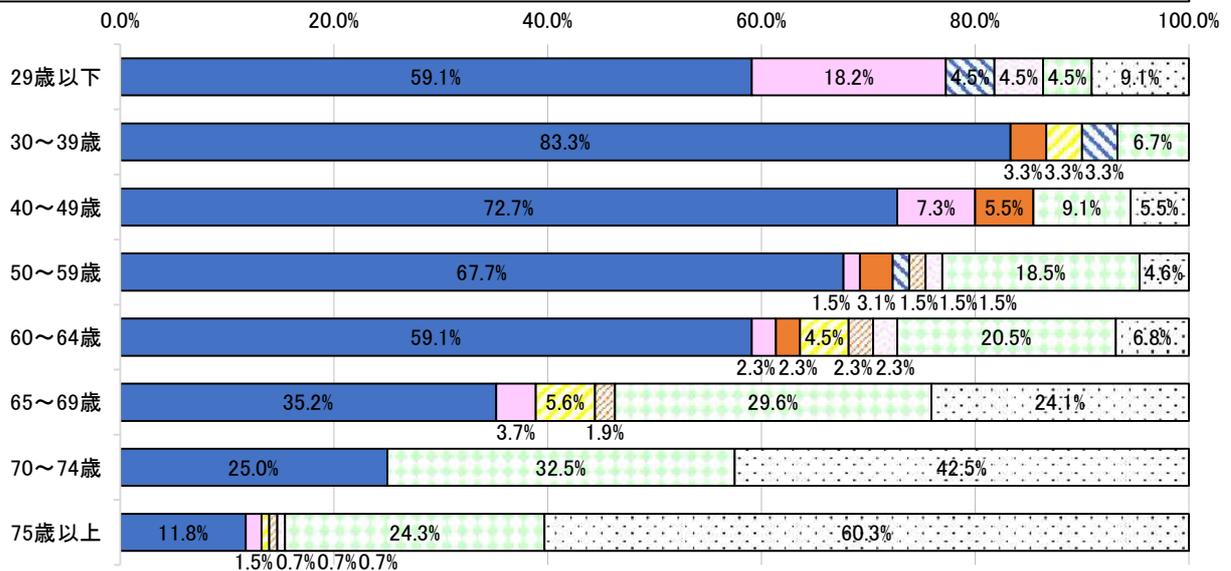
問9 通勤・通学についてお聞きします。

<年代別分析>

(1)通勤・通学の場所はどこですか。

N=491

■水俣市 □出水市 □伊佐市 ■芦北町 □津奈木町 □八代市 □熊本市 □その他の市町村 □就業・就学していない □無回答・複数回答



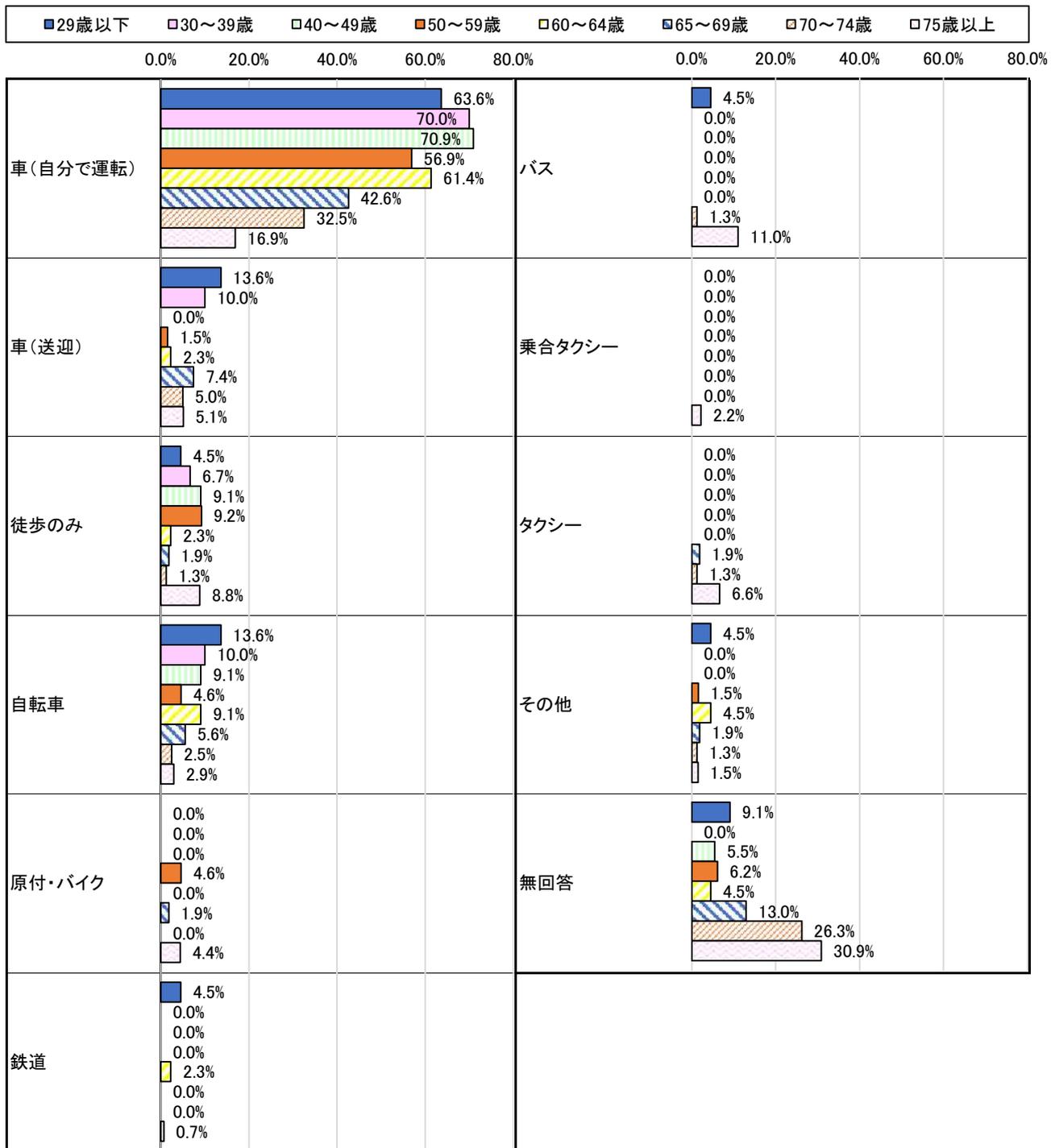
<分析>

○「水俣市」と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」で同年代の8割を超えている。次いで「40～49歳」（72.7%）、「50～59歳」（67.7%）の順となっている。それ以外でも64歳までの各年代で過半数を占めている。また「29歳以下」では「出水市」と回答した割合が18.2%と最も多く、次いで「40～49歳」（7.3%）、「65～69歳」（3.7%）の順となっている。

○他では「津奈木町」と回答した割合が「65～69歳」で5.6%、「芦北町」と回答した割合が「40～49歳」で5.5%となっている。

## (2)主な移動手段は何ですか。

N=387 複数回答



### <分析>

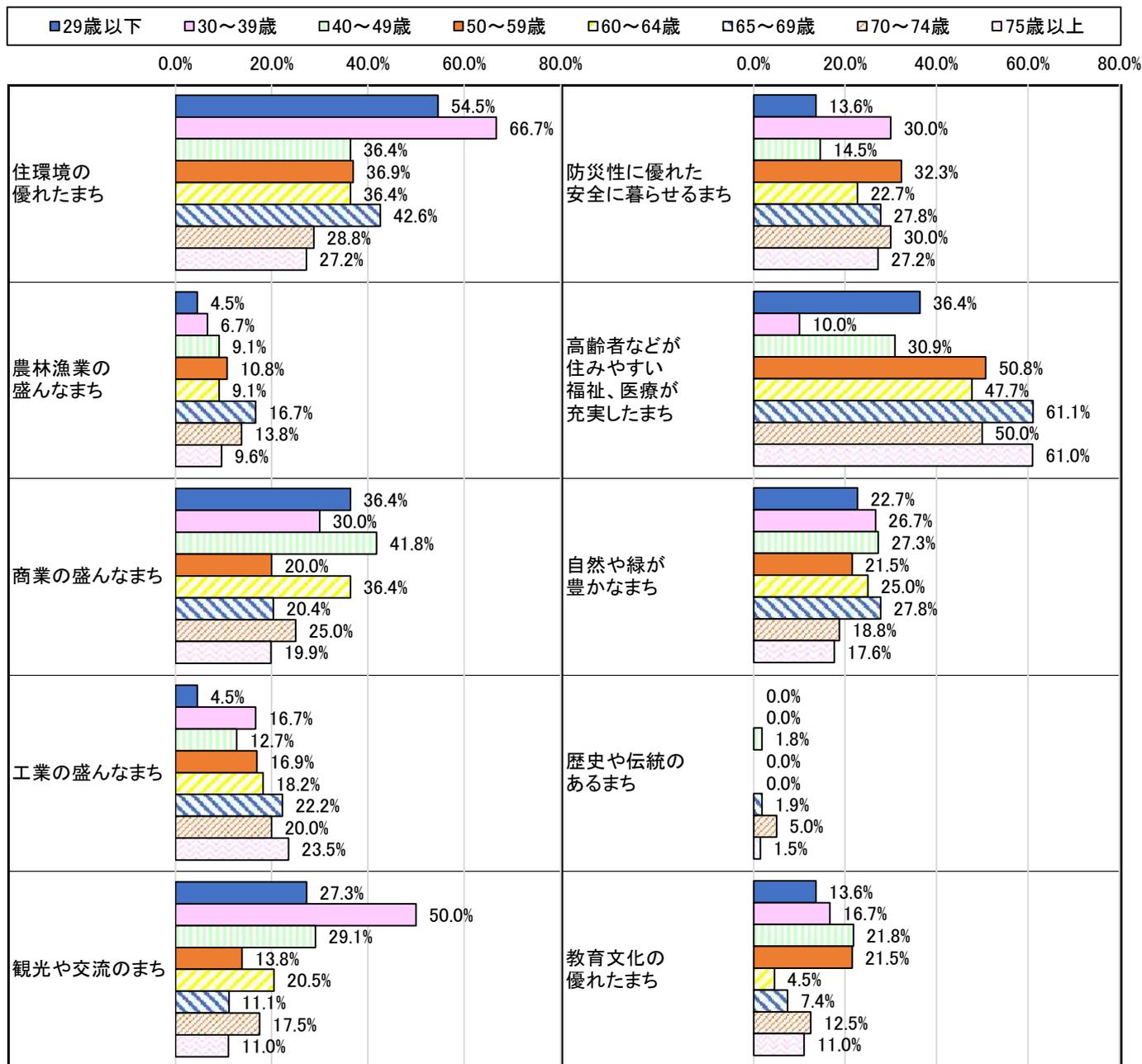
- 「車(自分で運転)」と回答した割合が最も多いのが「40～49歳」(70.9%)で、次いで「30～39歳」(70.0%)、「29歳以下」(63.6%)の順となっており、通勤手段として働き盛りの年代が利用しているように見受けられる。
- また「29歳以下」では「車(送迎)」「自転車」「徒歩のみ」「鉄道」「バス」の利用が他の年代より多く、通学的手段として利用しているように見受けられる。

## 4. 将来(おおむね20年後)の水俣市全体のことについてお尋ねします。

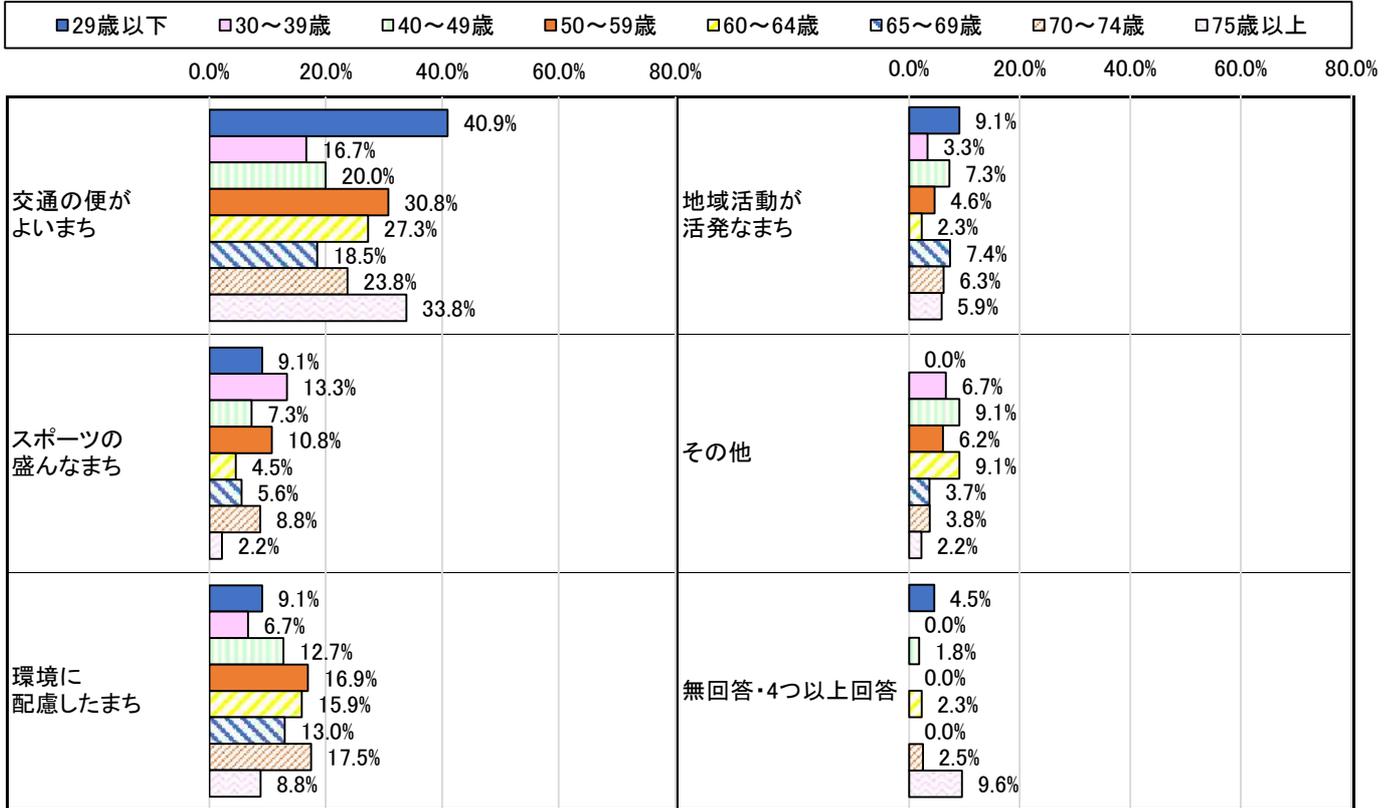
問11 将来、水俣市をどんなまちにしたいと思いますか。

### <年代別分析>

N=491 3つまで回答



N=491 3つまで回答



<分析>

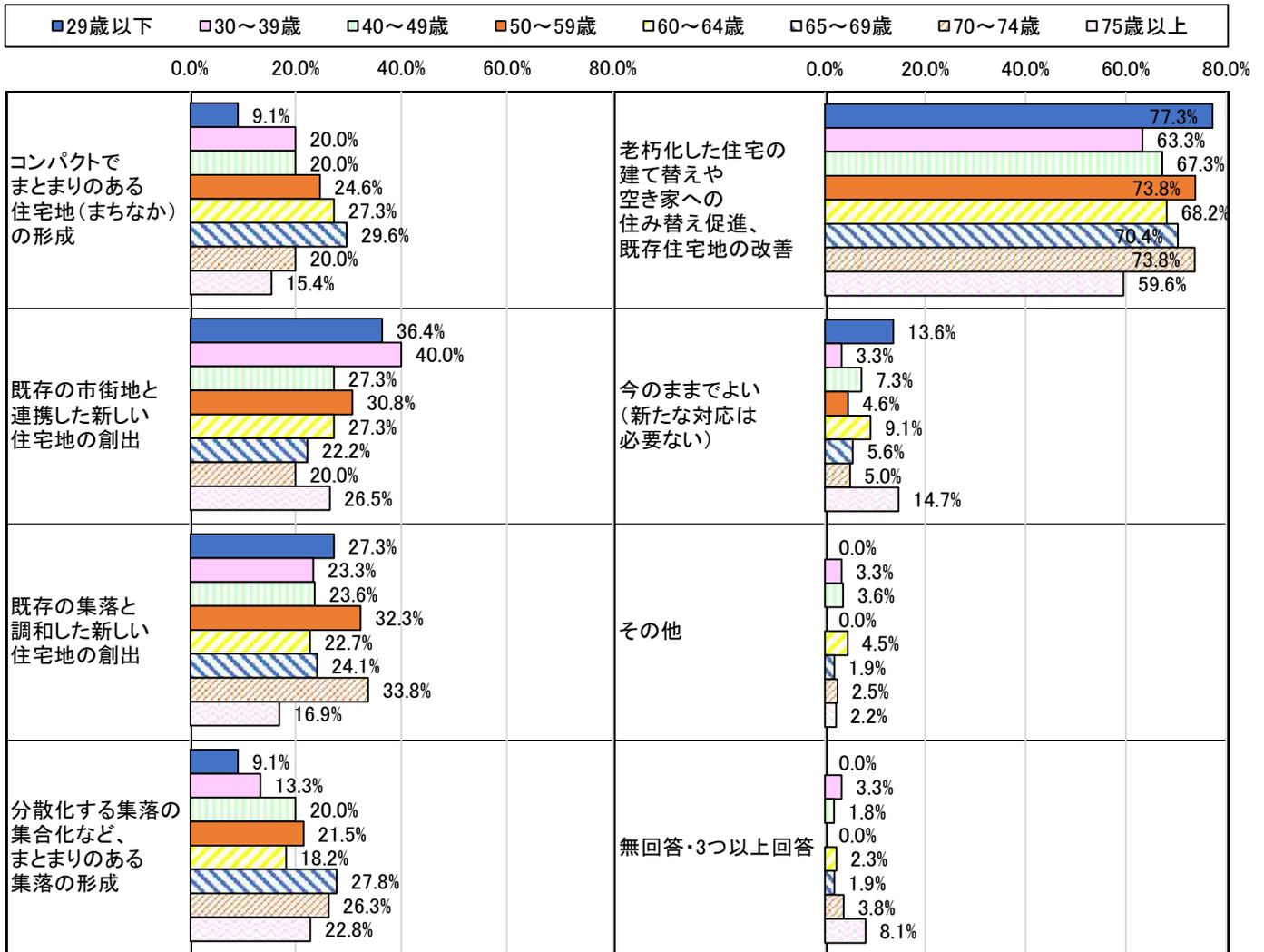
○「29歳以下」では「交通の便がよいまち」と回答した割合が40.9%と、他の年代と比較しても多くなっている。  
 ○「30～39歳」では「観光や交流のまち」と回答した割合が50.0%と他の年代と比較して多くなっている。また「住環境の優れたまち」でも66.7%となっていて、次いで「29歳以下」(54.5%)が多くなっている。  
 ○「40歳～49歳」では「商業の盛んなまち」と回答した割合が41.8%と最も多くなっている。  
 ○50歳以上では「高齢者などが住みやすい医療、福祉が充実したまち」と回答した割合がいずれの年代でも過半数を超えており、特に「65～69歳」では61.1%、次いで「75歳以上」では61.0%となっている。

問12 次の①～⑨について、今後、特に重要だと思うものはどれですか。

<年代別分析>

①住宅地について

N=491 2つまで回答

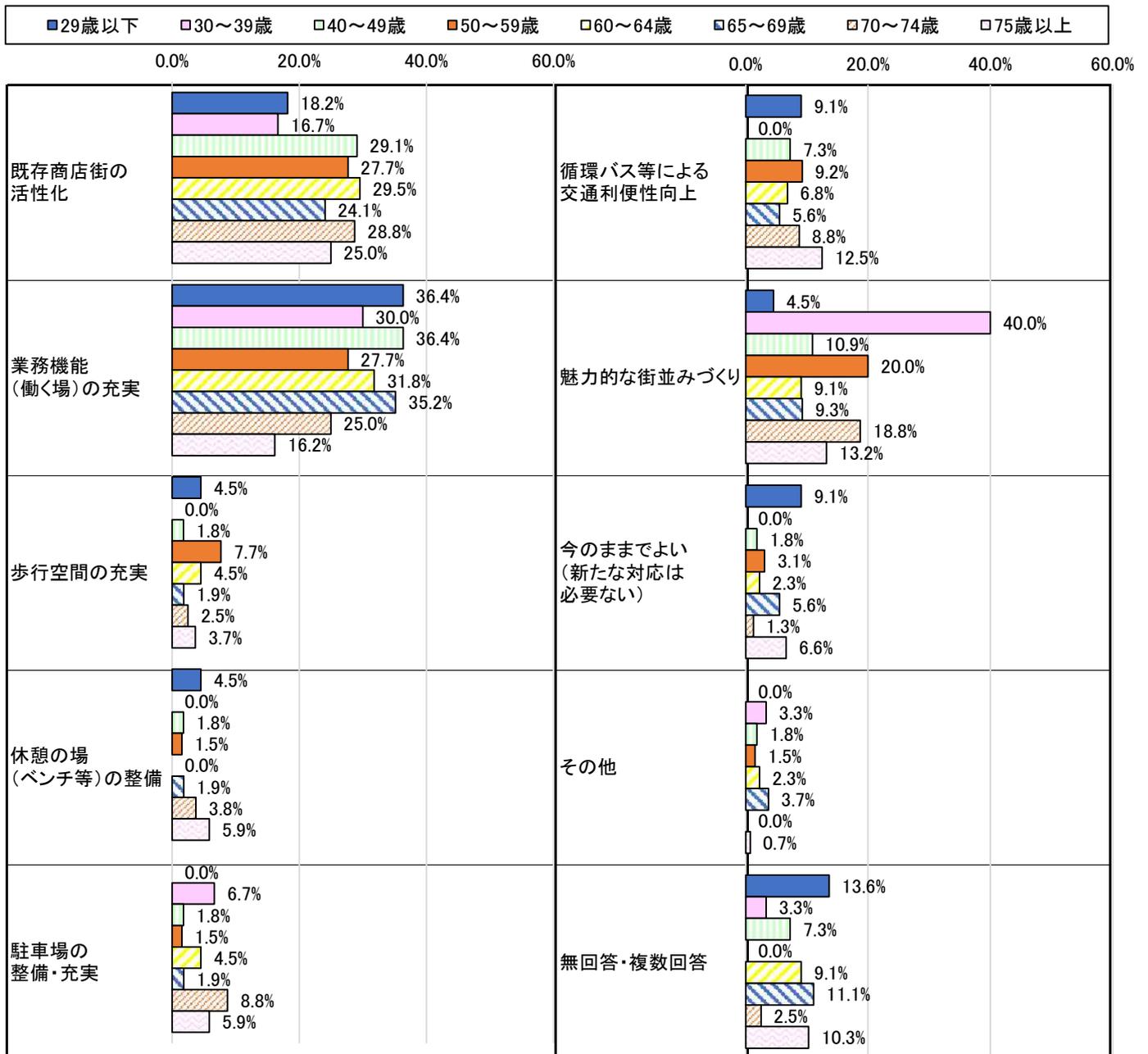


<分析>

- 「既存の市街地と連携した新しい住宅地の創出」と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」(40.0%)で、次いで「29歳以下」(36.4%)と続き、若年層で多い傾向にある。
- 「分散化する集落の集合化など、まとまりのある集落の形成」と回答した割合が最も多いのは「65～69歳」(27.8%)で、次いで「70～74歳」(26.3%)、「75歳以上」(22.8%)の順となっており、高齢者で多い傾向にある。
- 「老朽化した住宅の建て替えや空き家への住み替え促進、既存住宅地の改善」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」(77.3%)で、次いで「50～59歳」と「70～74歳」(同率で73.8%)、「60～64歳」(68.2%)の順となっており、またすべての年代で6割以上が回答している。

## ②市中心部の商業地について

N=491

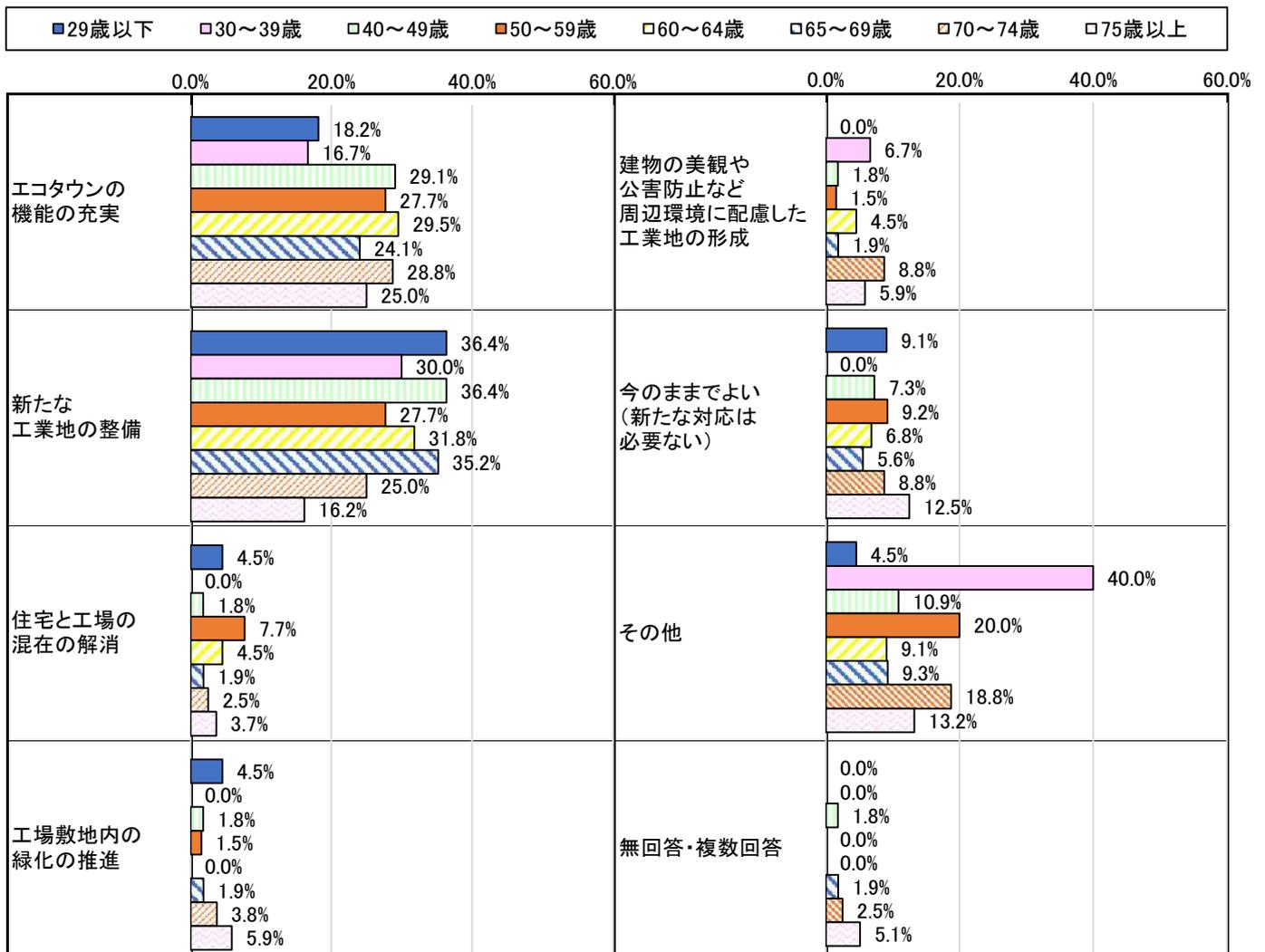


### <分析>

- 「魅力的な街並みづくり」と回答した割合が最も多いのは「30~39歳」(40.0%)で、他の年代と比較すると突出して多くなっている。次いで「50~59歳」(20.0%)、「70~74歳」(18.8%)の順となっている。
- 「業務機能(働く場)の充実」と回答した割合は70歳以上を除くすべての年代で満遍なく多くなっている。一方で「既存商店街の活性化」と回答した割合は39歳以下を除くすべての年代で満遍なく多くなっている。
- 「循環バスなどによる交通利便性向上」と回答した割合は各年代で一定数存在するが「29歳以下」のみ0.0%となっている。

### ③産業・工業地について

N=491

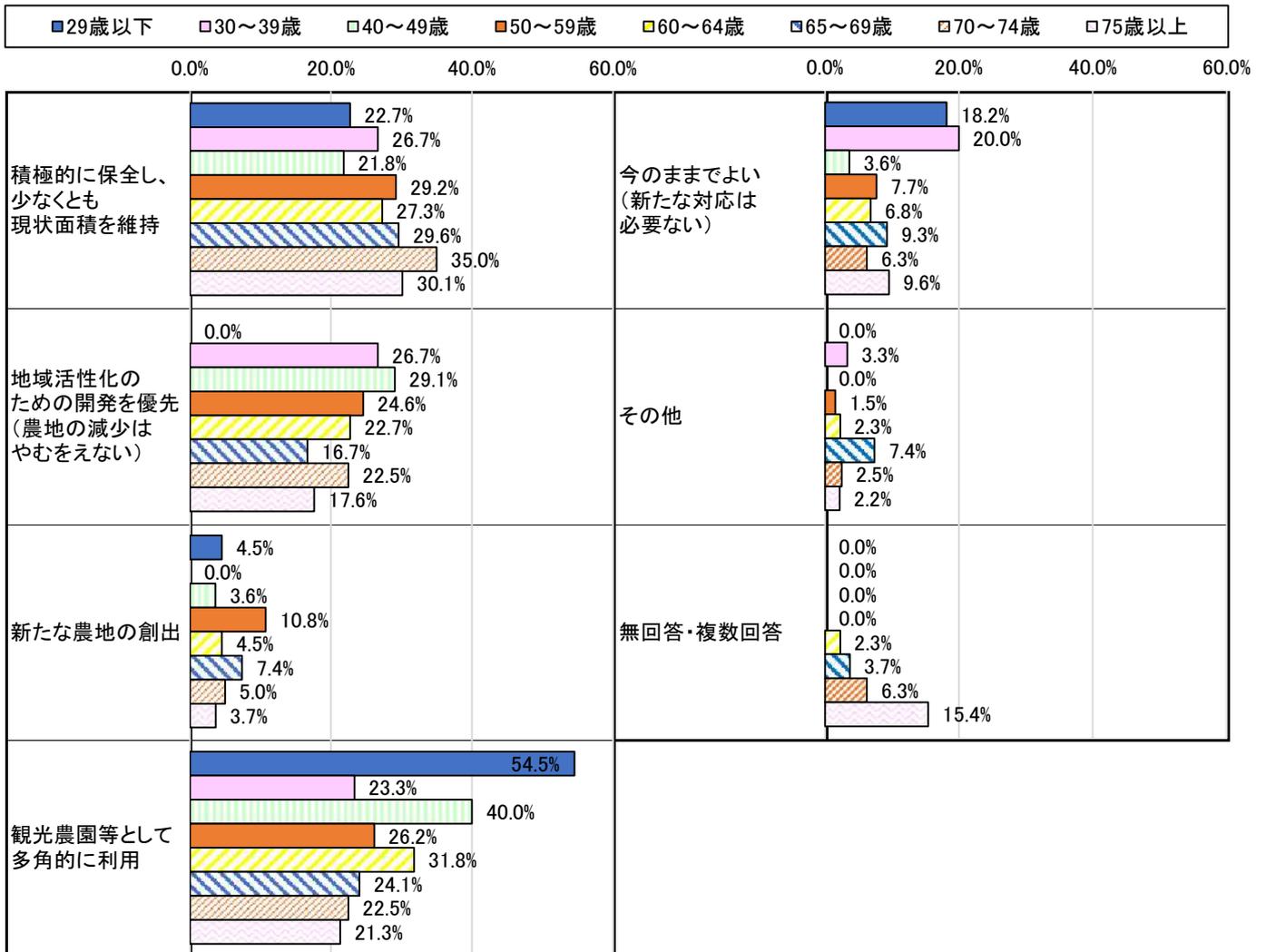


#### <分析>

- 「エコタウンの機能の充実」と回答した割合は「29歳以下」が18.2%、「30～39歳」が16.7%となっており、他の年代が20%以上存在するのに対して39歳以下で低くなっている。
- 同様に「新たな工業地の整備」と回答した割合は「70～74歳」で25.0%、「75歳以上」で16.2%となっており、他の年代が25%を越えているのに対して70歳以上で低くなっている。
- 「今のままでよい(新たな対応は必要ない)」と回答した割合は各年代で一定数存在するが、「30～39歳」のみ0.0%となっている。

#### ④農地の保全・活用について

N=491

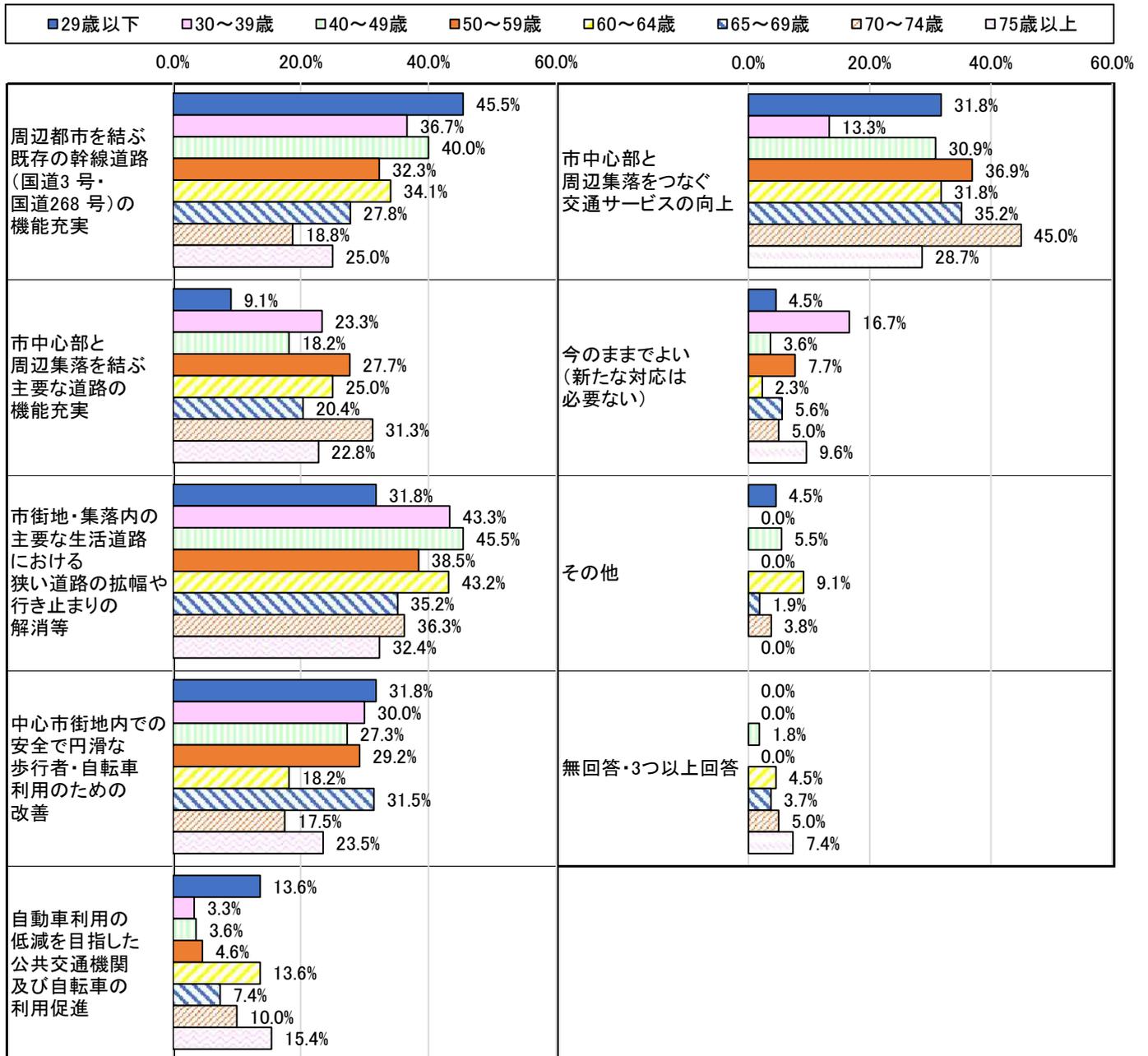


#### <分析>

- 「地域活性化のための開発を優先（農地の減少はやむをえない）」と回答した割合が最も多いのは「40～49歳」（29.1%）で、次いで「30～39歳」（26.7%）、「50～59歳」（24.6%）の順となっており、若年層に集中しているが「29歳以下」では唯一0.0%となっている。
- 同様に「新たな農地の創出」と回答した割合は各年代で一定数存在するが「30～39歳」では0.0%となっている。
- また「今のままでよい（新たな対応は必要ない）」と回答した割合は「29歳以下」で18.2%、「30～39歳」で20.0%となっており、他の年代と比較して多くなっている。
- 「観光農園等として多角的に利用」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」（54.5%）で、他の居住地と比較して突出しており過半数を超えている。次いで「40～49歳」（40.0%）、「60～64歳」（31.8%）の順となっている。

## ⑤道路・交通について

N=491 2つまで回答

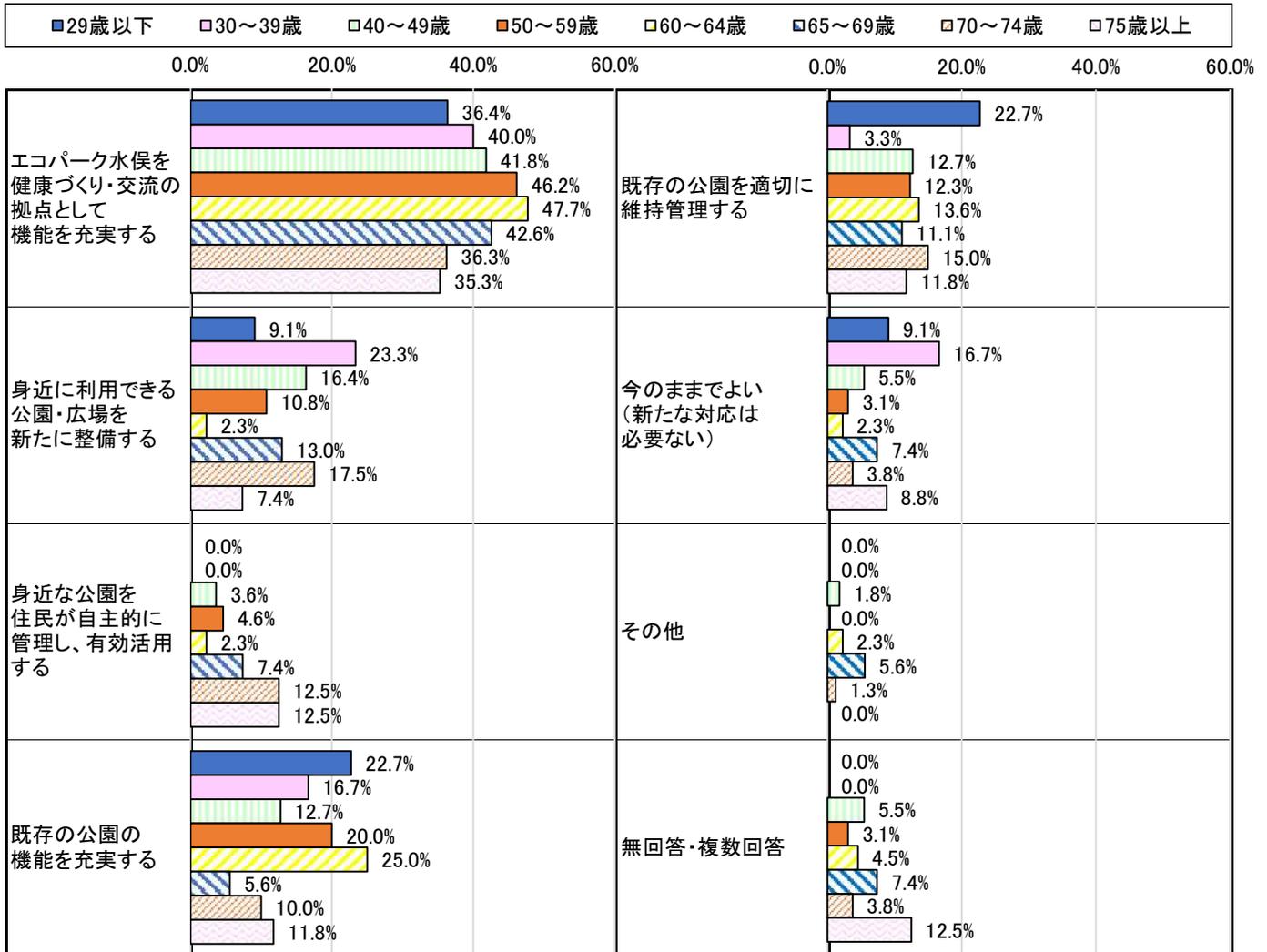


### <分析>

- 「周辺都市を結ぶ既存の幹線道路(国道3号・国道268号)の機能充実」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」(45.5%)で、次いで「40~49歳」(40.0%)、「30~39歳」(36.7%)の順となっており、若年層に集中している。
- 「自動車利用の低減を目指した公共交通機関及び自転車の利用促進」と回答した割合が最も低いのは「30~39歳」(3.3%)で、次いで「40~49歳」(3.6%)、「50~59歳」(4.6%)の順となっており、他の年代と比較して低くなっている。
- 「今のままでよい(新たな対応は必要ない)」と回答した割合が最も多いのは「30~39歳」で16.7%と他の年代と比較して多くなっている。

## ⑥公園・緑地等について

N=491

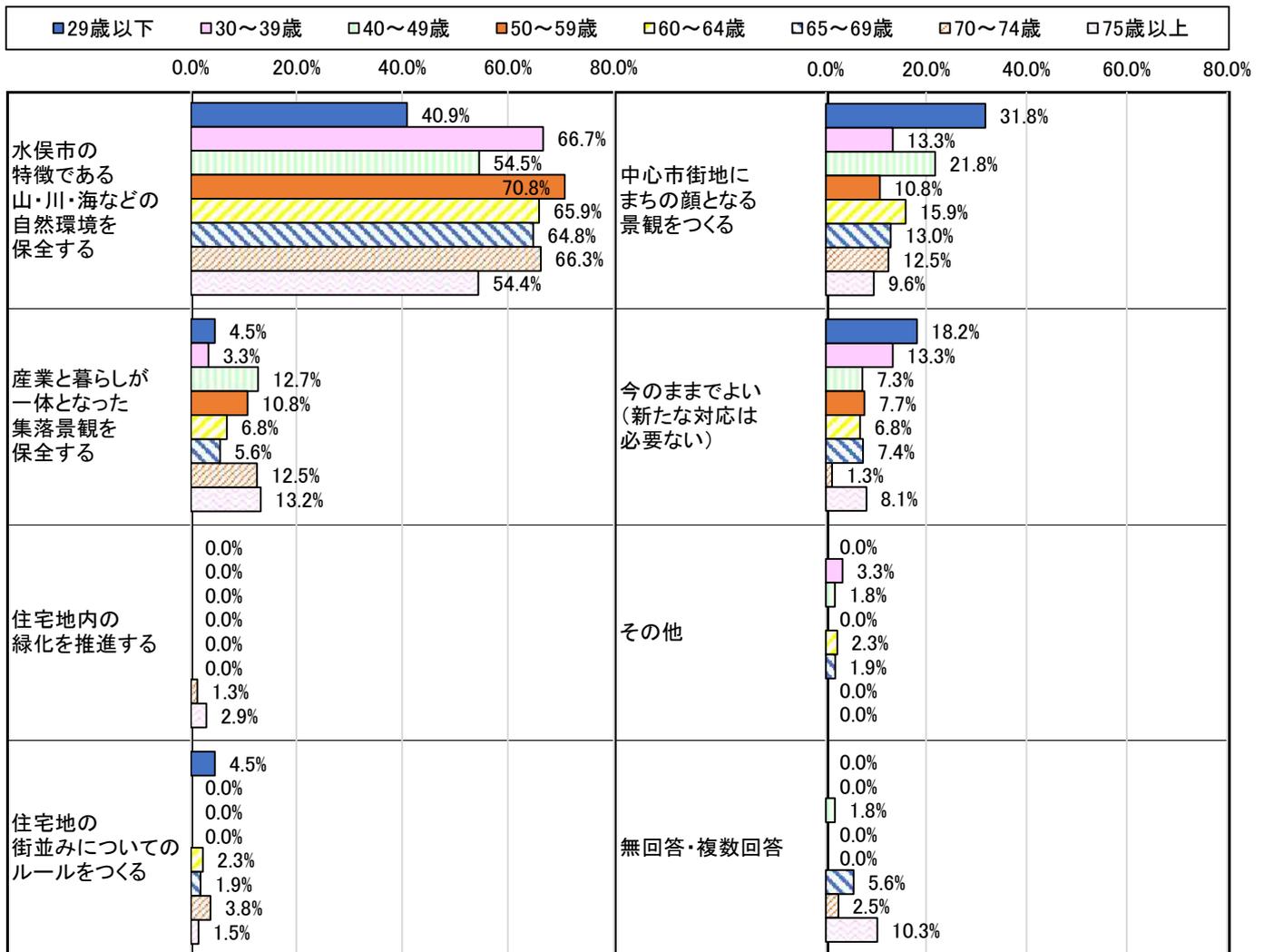


### <分析>

- 「エコパーク水俣を健康づくり・交流の拠点として機能を充実する」と回答した割合が最も多いのは「60～64歳」(47.7%)で、次いで「50～59歳」(46.2%)、「65～69歳」(42.6%)の順となっており、中高年層に集中している。
- 「身近な公園を住民が自主的に管理し、有効活用する」と回答した割合は各年代で一定数存在するが「29歳以下」および「30～39歳以下」では0.0%となっている。
- 「既存の公園を適切に維持管理する」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」で22.7%と他の年代と比較して多くなっている。
- 「今の上ままでよい(新たな対応は必要ない)」と回答した割合が最も多いのは「30～39歳」で16.7%と他の年代と比較して多くなっている。

## ⑦風景や景観について

N=491

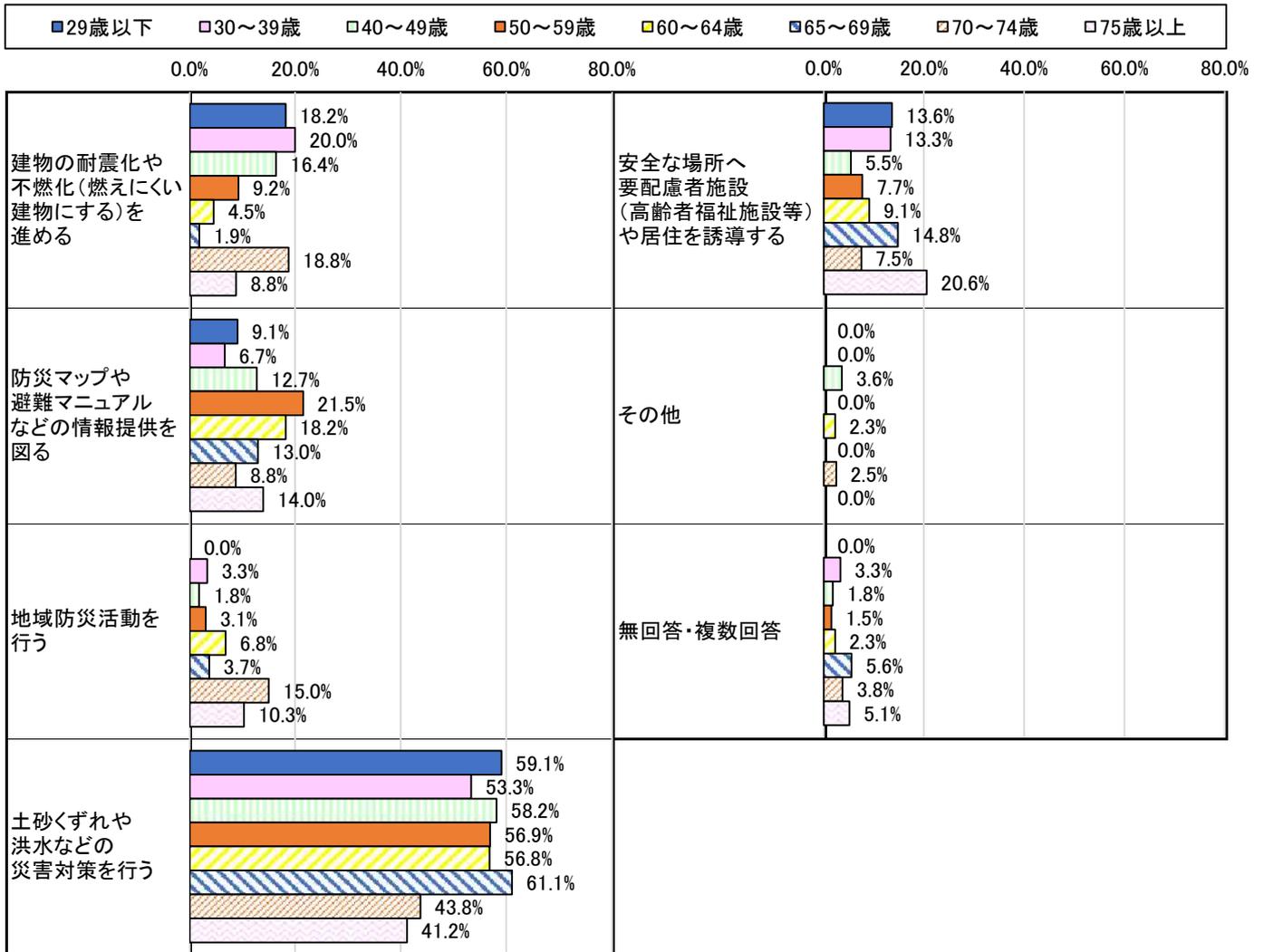


### <分析>

- 「水俣市の特徴である山・川・海などの自然環境を保全する」と回答した割合が最も多いのは「50～59歳」で7割を超えている。次いで「30～39歳」(66.7%)、「70～74歳」(66.3%)の順となっている。また他の年代が50%以上であるのに対して「29歳以下」のみ40.9%と少なくなっている。
- 「中心市街地にまちの顔となる景観をつくる」と回答した割合が最も多いのは「29歳以下」(31.8%)で他の年代と比較して多くなっている。次いで「40～49歳」(21.8%)、「60～64歳」(15.9%)の順となっている。
- 「今のままでよい」と回答した割合が多い上位2つが「29歳以下」「30～39歳」であり、若年層に集中している。

### ⑧防災まちづくりについて

N=491

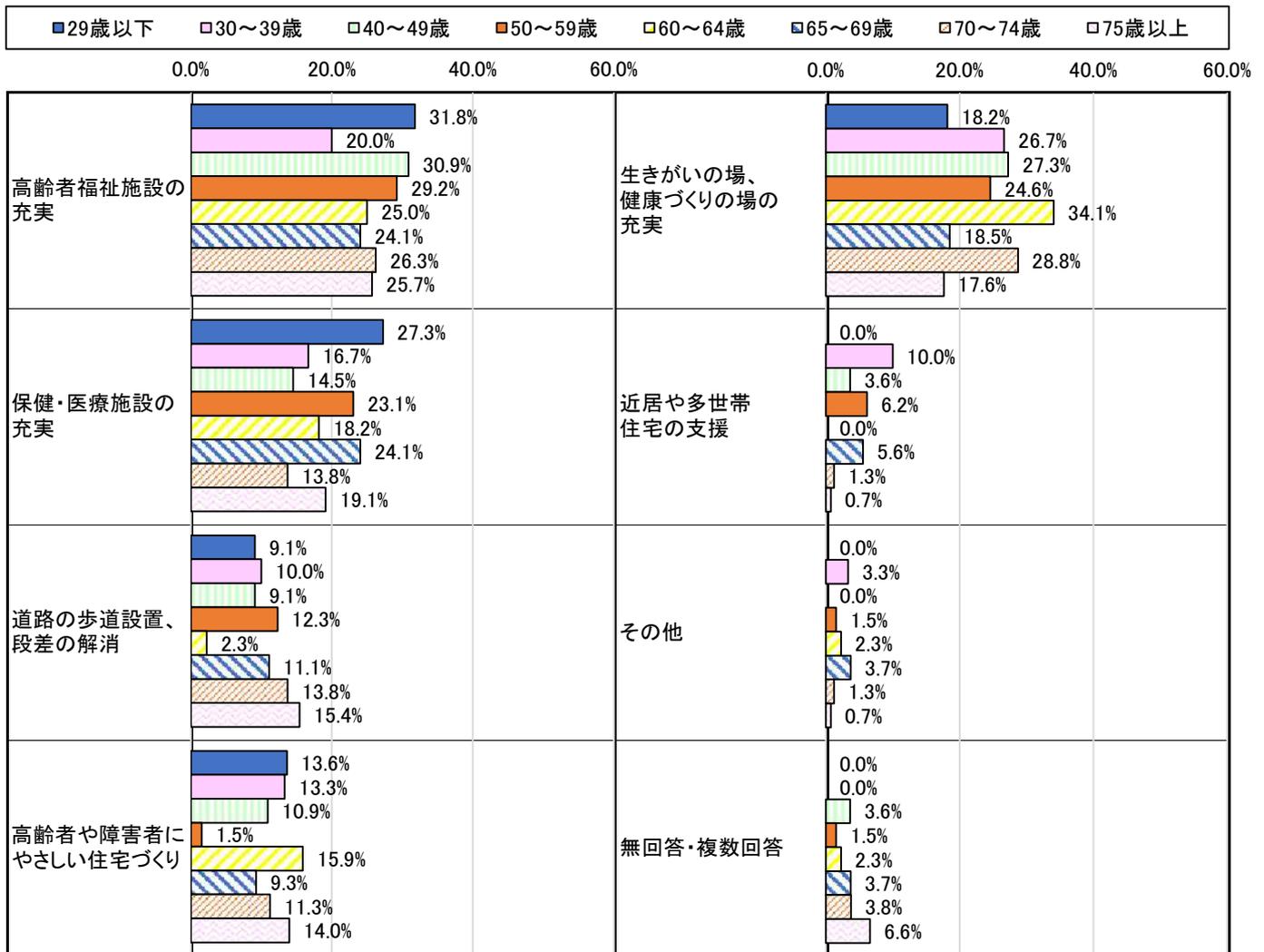


#### <分析>

- 「建物の耐震化や不燃化(燃えにくい建物にする)を進める」と回答した割合が最も多いのは「70～74歳」(18.8%)だが、次いで「30～39歳」(20.0%)、「29歳以下」(18.2%)、「40～49歳」(16.4%)の順となっており、「70～74歳」を除くと若年層が多い傾向となっている。
- 「地域防災活動を行う」と回答した割合の上位2つは「70～74歳」(15.0%)と「75歳以上」(10.3%)となっており、70歳以上の高齢者が他の年代と比較して特になくなっている。
- 「土砂くずれや洪水などの災害対策を行う」と回答した割合が最も多いのは「65～69歳」で6割を超えている。次いで「29歳以下」(59.1%)、「40～49歳」(58.2%)の順となっているが、70歳以上では4割を超えている。

## ⑨高齢社会への対応について

N=491



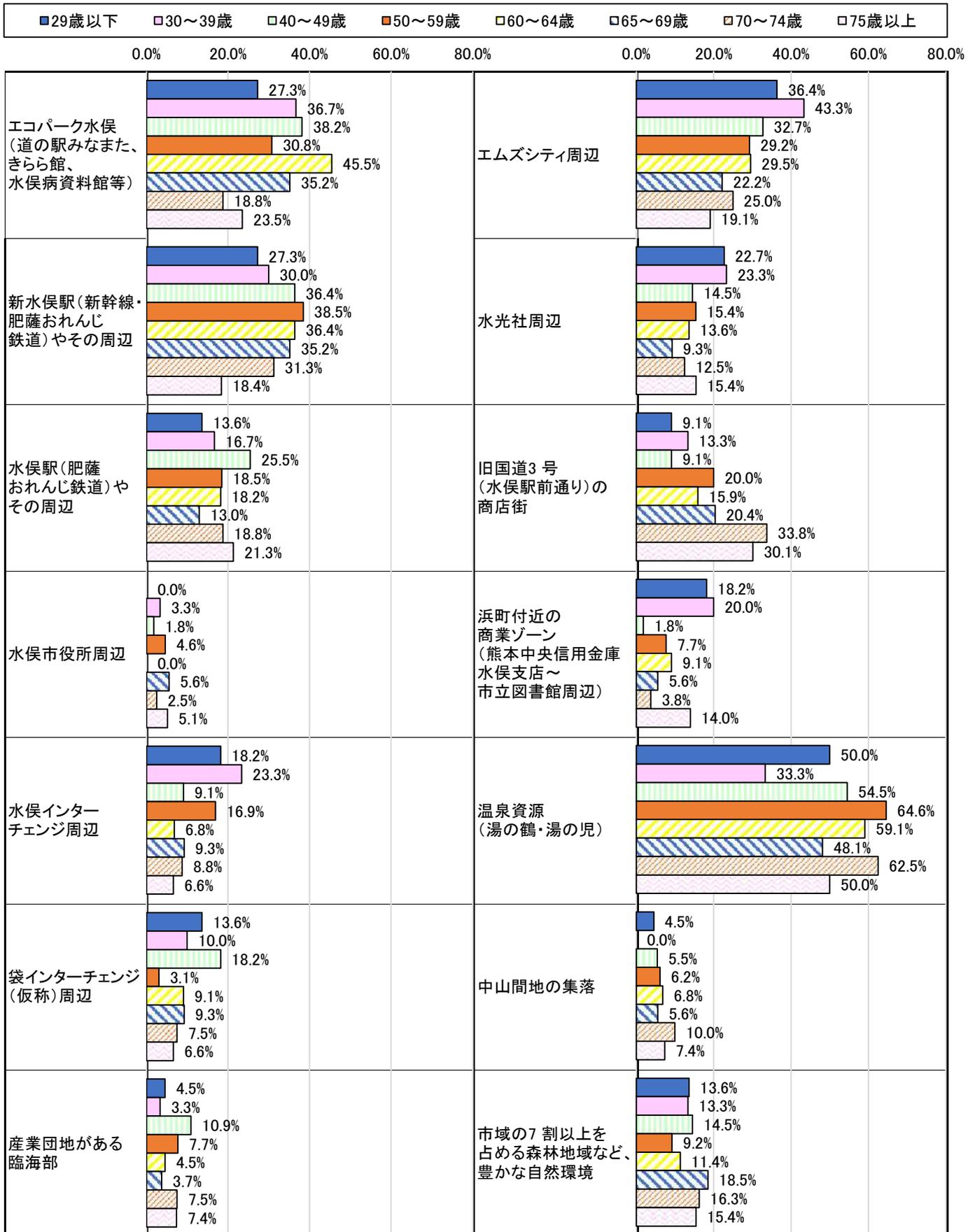
### <分析>

- 「高齢者福祉施設の充実」と回答した割合では「30～39歳」が20.0%と最も低く、他の年代と比較して少なくなっている。
- 同様に「道路の歩道設置、段差の解消」と回答した割合では「60～64歳」が2.3%、「高齢者や障害者にやさしい住宅づくり」と回答した割合では「50～59歳」が1.5%とそれぞれ最も低く、他の年代と比較して突出して少なくなっている。
- 「生きがいの場、健康づくりの場の充実」と回答した割合では「60～64歳」が34.1%と最も高く、次いで「70～74歳」(28.8%)、「40～49歳」(27.3%)の順となっている。

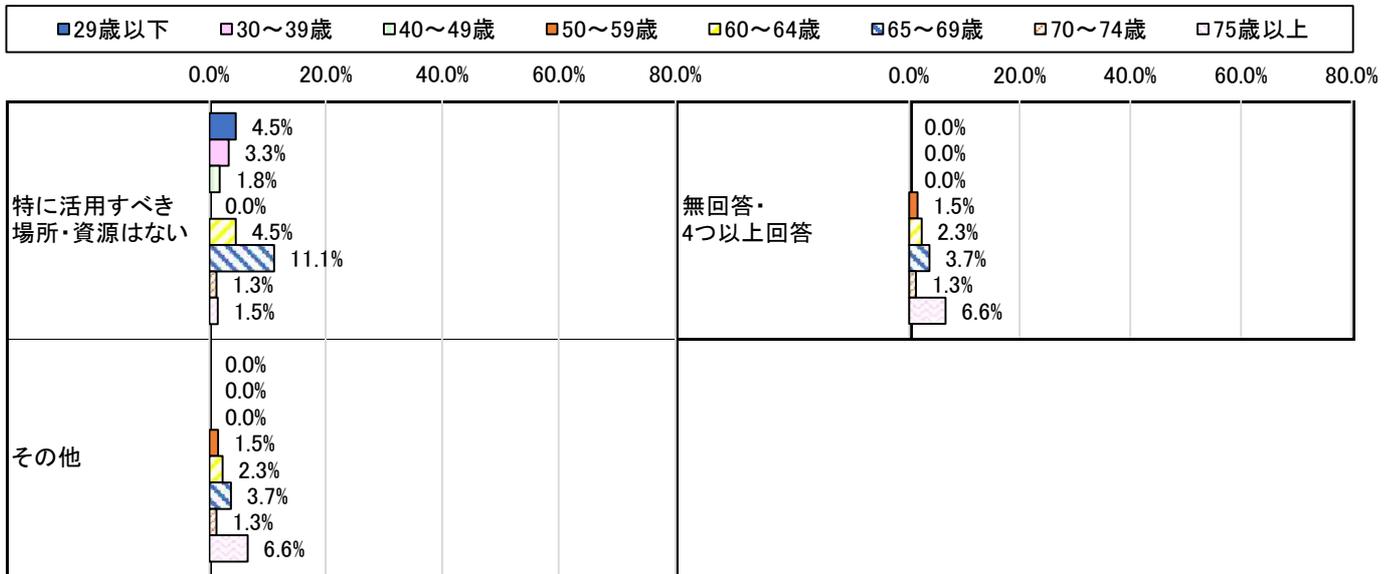
問13 水俣市全体の活性化に向けて、重点的に活用したり、整備すべき場所・資源は何だとお考えになりますか。

<年代別分析>

N=491 3つまで回答



N=491 3つまで回答



<分析>

- 「エコパーク水俣(道の駅みなまた、きらら館、水俣病資料館等)」「エムズシティ」と回答した割合が多い上位3つはいずれも「29歳以下」「30～39歳以下」「40～49歳以下」となっており、若年層で多く回答されている傾向がある。
- 「旧国道3号(水俣駅前通り)の商店街」と回答した割合が最も多いのは「70歳～74歳」(33.8%)、次いで「75歳以上」(30.1%)、「65～69歳」(20.4%)の順となっており、高齢者で多く回答されている傾向がある。